

## 第2章 15歳～39歳対象調査

### 1. 人生観・幸福感・居場所等

(1) 自己認識 (問1-1、問1-2)

問1-1 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。(それぞれについて、あてはまる番号を1つお答えください)

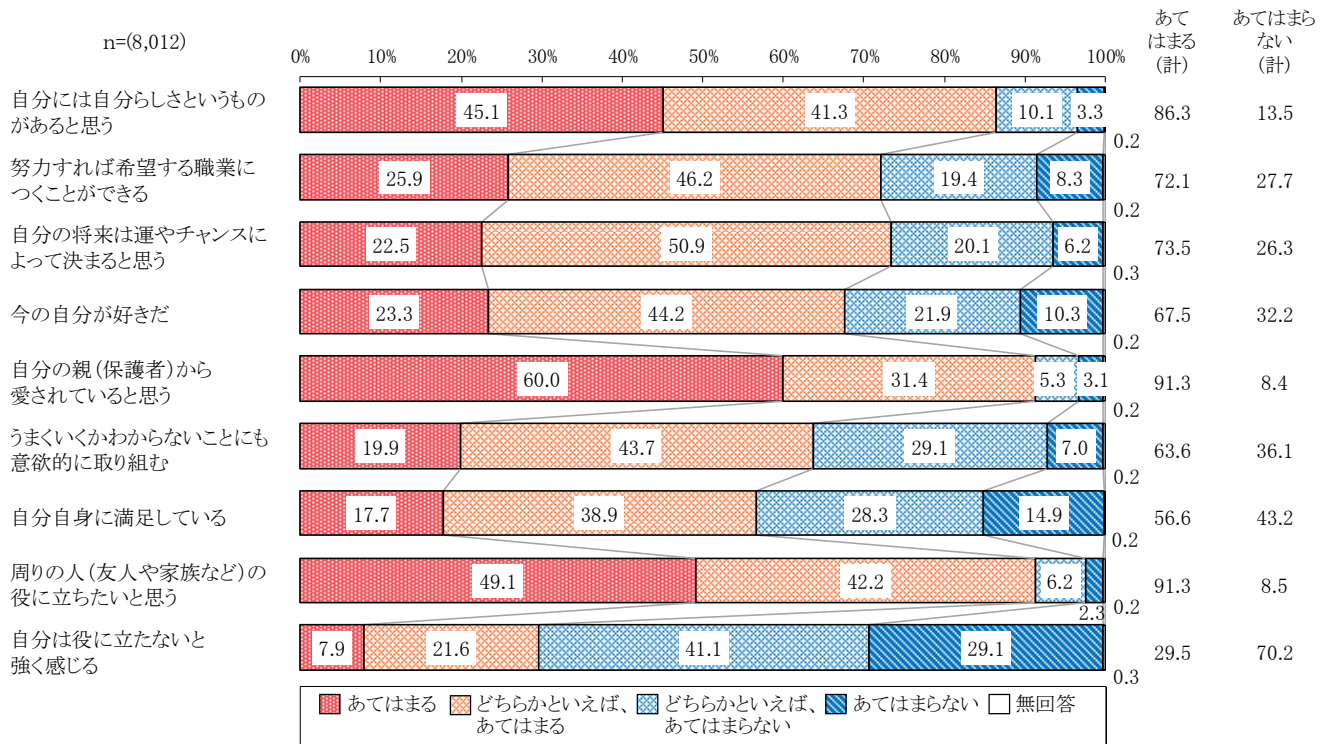
問1-2 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。

回答者の自己認識について、“自分には自分らしさというものがあると思う”、“努力すれば希望する職業につくことができる”、“自分の将来は運やチャンスによって決まると思う”、“今の自分が好きだ”、“自分の親(保護者)から愛されていると思う”、“うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む”、“自分自身に満足している”、“周りの人(友人や家族など)の役に立ちたいと思う”、“自分は役に立たないと強く感じる”の9項目を聞いた(図表2-2-1-1-1)。

『あてはまる(計)』(「あてはまる」+「どちらかといえば、あてはまる」)という回答の割合が最も高いのは、“自分の親(保護者)から愛されていると思う”と“周りの人(友人や家族など)の役に立ちたいと思う”(ともに91.3%)で、親との関係を肯定的に捉えている回答と周りの人に役に立ちたい意向の回答がそれぞれ約9割を占める。次いで、“自分には自分らしさというものがあると思う”が86.3%である。

一方、『あてはまらない(計)』(「あてはまらない」+「どちらかといえば、あてはまらない」)という回答が多くみられるのは、“自分は役に立たないと強く感じる”(70.2%)で、約7割を占める。次いで、“自分自身に満足している”(43.2%)が約4割、“うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む”(36.1%)と“今の自分が好きだ”(32.2%)がいずれも3割台である。

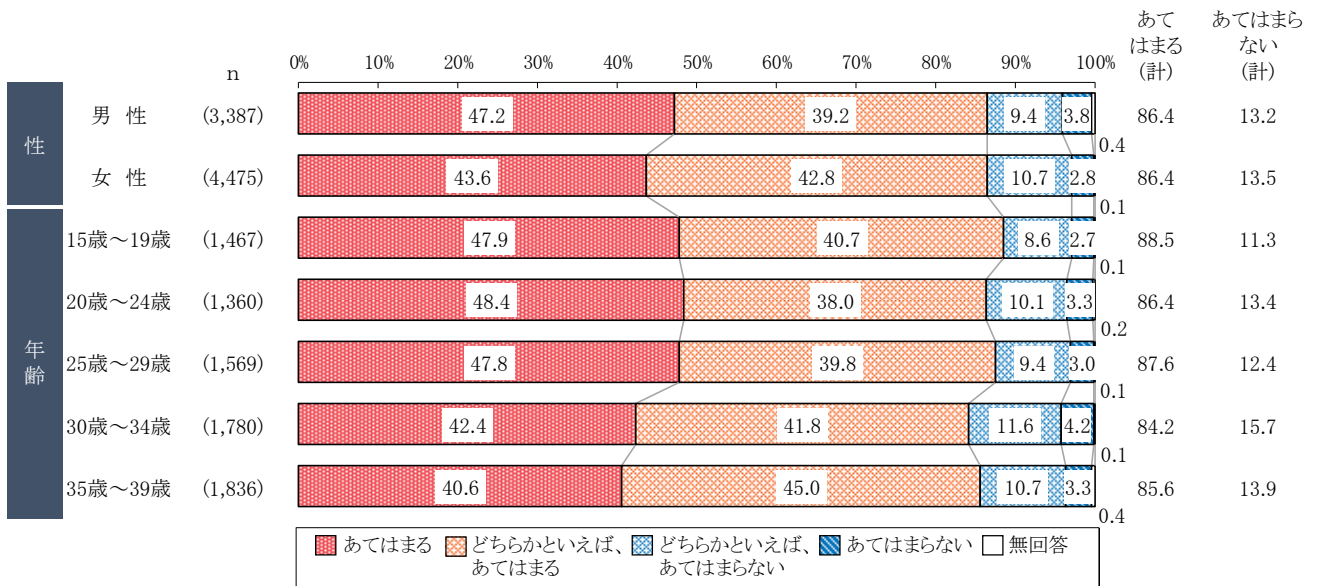
図表2-2-1-1-1 自己認識



“自分には自分らしさというものがあると思う”について、性別にみると（図表 2-2-1-1-2）、『あてはまる（計）』は、男女とも 86.4%で差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-1-1-2）、『あてはまる（計）』は、いずれの年齢層でも 8 割台だが、15 歳～19 歳（88.5%）では 9 割に近いが 30 歳以上では 8 割台半ばとなっている（30 歳～34 歳 84.2%、35 歳～39 歳 85.6%）。

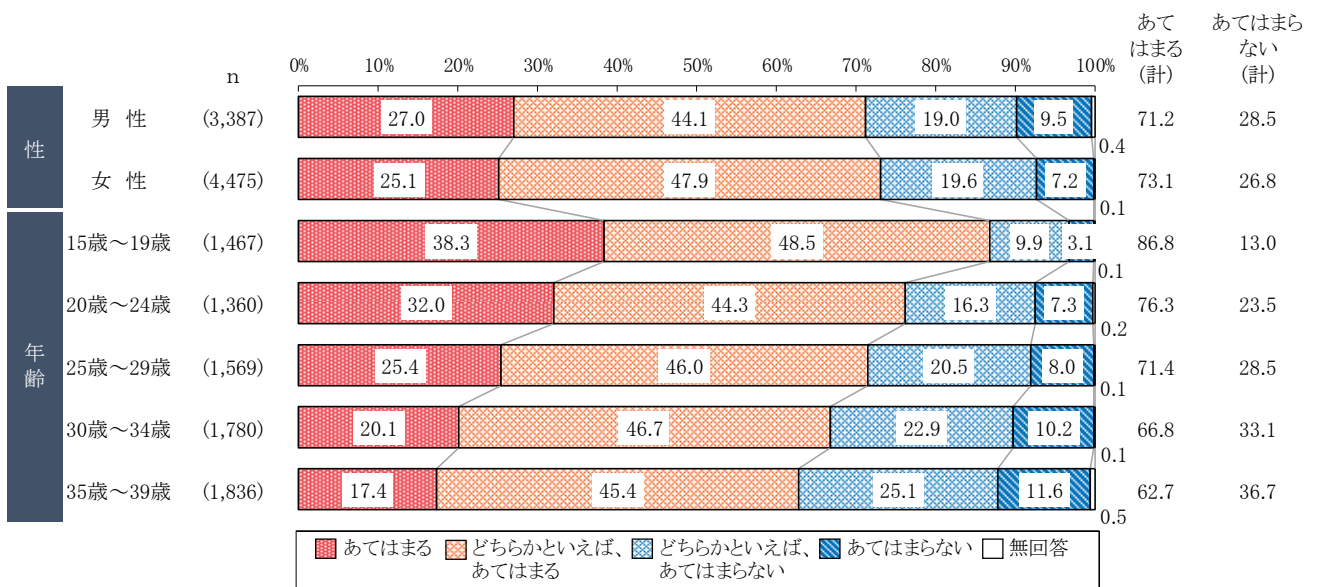
図表 2-2-1-1-2 自己認識：自分には自分らしさというものがあると思う（性別、年齢別）



“努力すれば希望する職業につくことができる”について、性別にみると（図表 2-2-1-1-3）、『あてはまる（計）』は、男性 71.2%、女性 73.1%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-1-1-3）、『あてはまる（計）』は、年齢が高い層ほど低くなる傾向がみられ、15 歳～19 歳は 86.8%、35 歳～39 歳は 62.7%である。

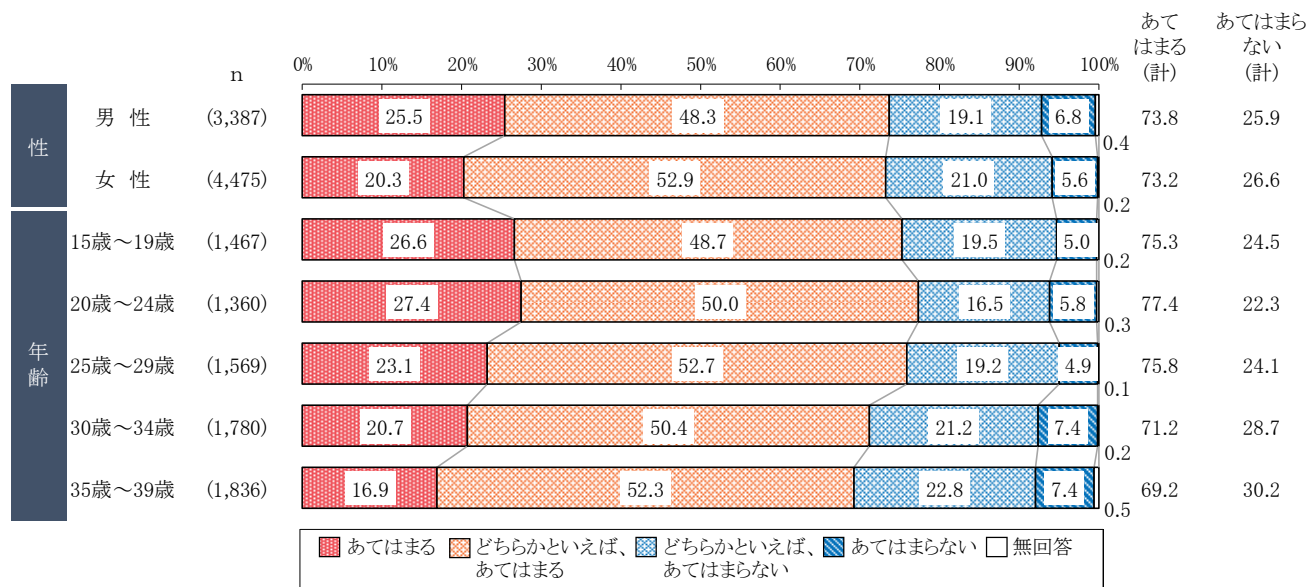
図表 2-2-1-1-3 自己認識：努力すれば希望する職業につくことができる（性別、年齢別）



“自分の将来は運やチャンスによって決まると思う”について、性別にみると（図表 2-2-1-1-4）、『あてはまる（計）』は、男性 73.8%、女性 73.2%で、男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-1-1-4）、『あてはまる（計）』は、29 歳以下は 7 割台後半だが（15 歳～19 歳 75.3%、20 歳～24 歳 77.4%、25 歳～29 歳 75.8%）、30 代では 7 割前後と低くなる（30 歳～34 歳 71.2%、35 歳～39 歳 69.2%）。

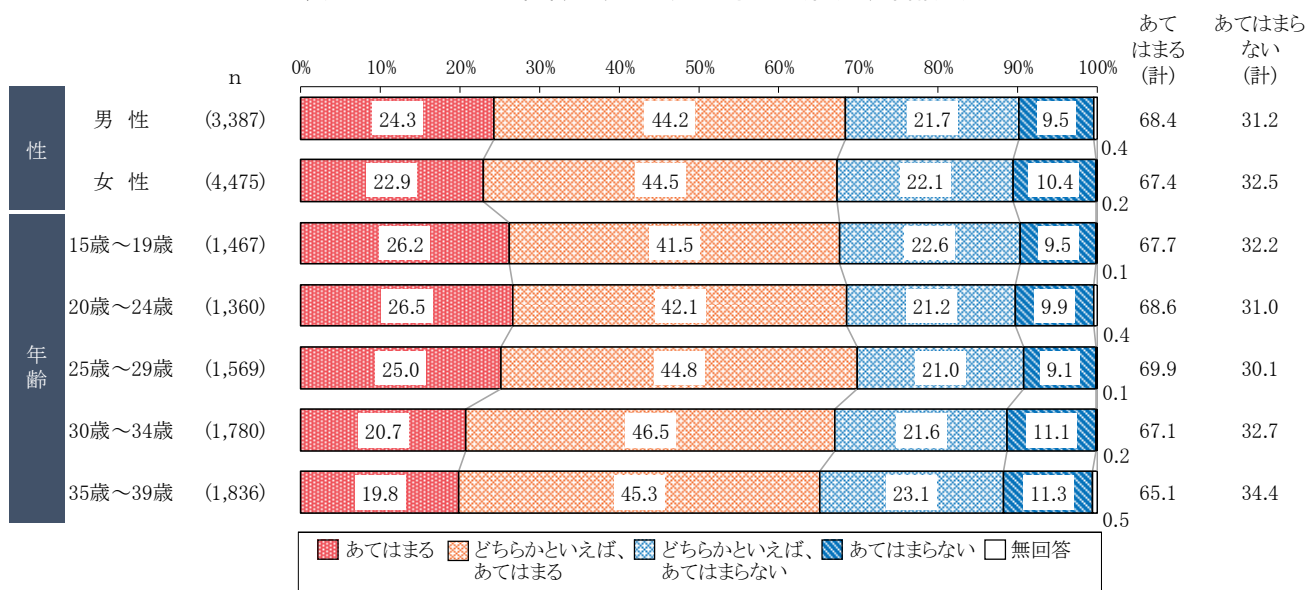
図表 2-2-1-1-4 自己認識：自分の将来は運やチャンスによって決まると思う（性別、年齢別）



“今の自分が好きだ”について、性別にみると（図表 2-2-1-1-5）、『あてはまる（計）』は、男性 68.4%、女性 67.4%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-1-1-5）、『あてはまる（計）』は、34 歳までは 7 割弱（15 歳～19 歳 67.7%、20 歳～24 歳 68.6%、25 歳～29 歳 69.9%、30 歳～34 歳 67.1%）で、35 歳～39 歳は 65.1%とやや低くなる。

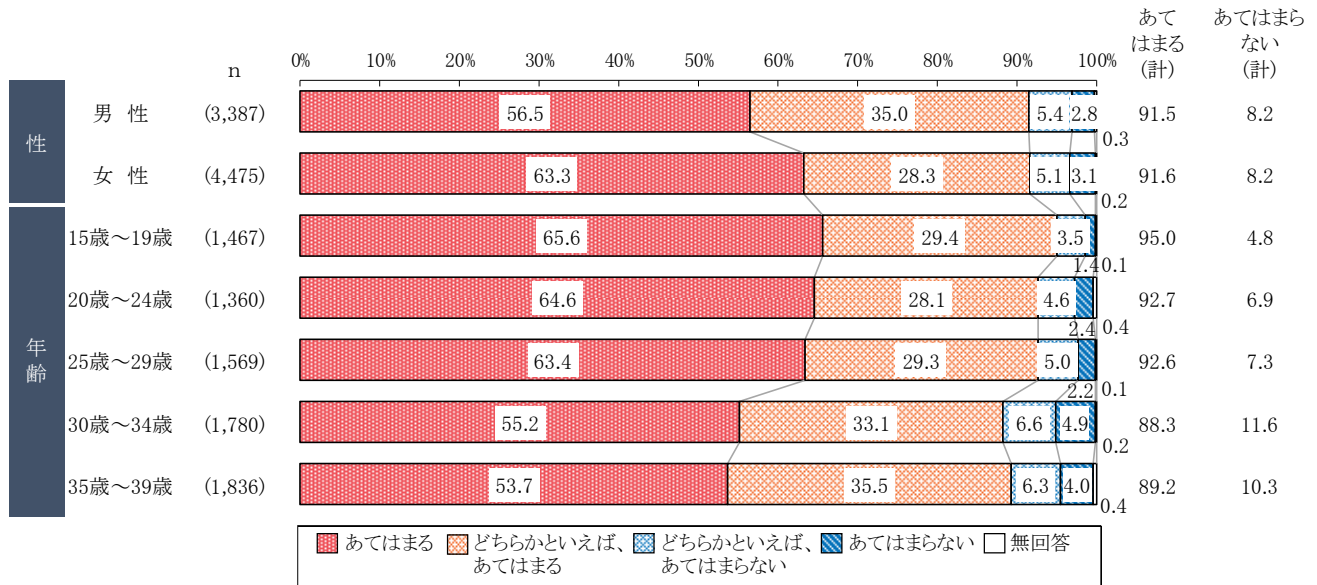
図表 2-2-1-1-5 自己認識：今の自分が好きだ（性別、年齢別）



“自分の親（保護者）から愛されていると思う”について、性別にみると（図表 2-2-1-1-6）、『あてはまる（計）』は、男性 91.5%、女性 91.6%で、男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-1-1-6）、『あてはまる（計）』は、15歳～19歳は 95.0%、20代も 90%台で高く（20歳～24歳 92.7%、25歳～29歳 92.6%）、30代は 9割弱とやや低くなる（30歳～34歳 88.3%、35歳～39歳 89.2%）。一方、『あてはまらない（計）』は、30代で 1割強（30歳～34歳 11.6%、35歳～39歳 10.3%）となっている。

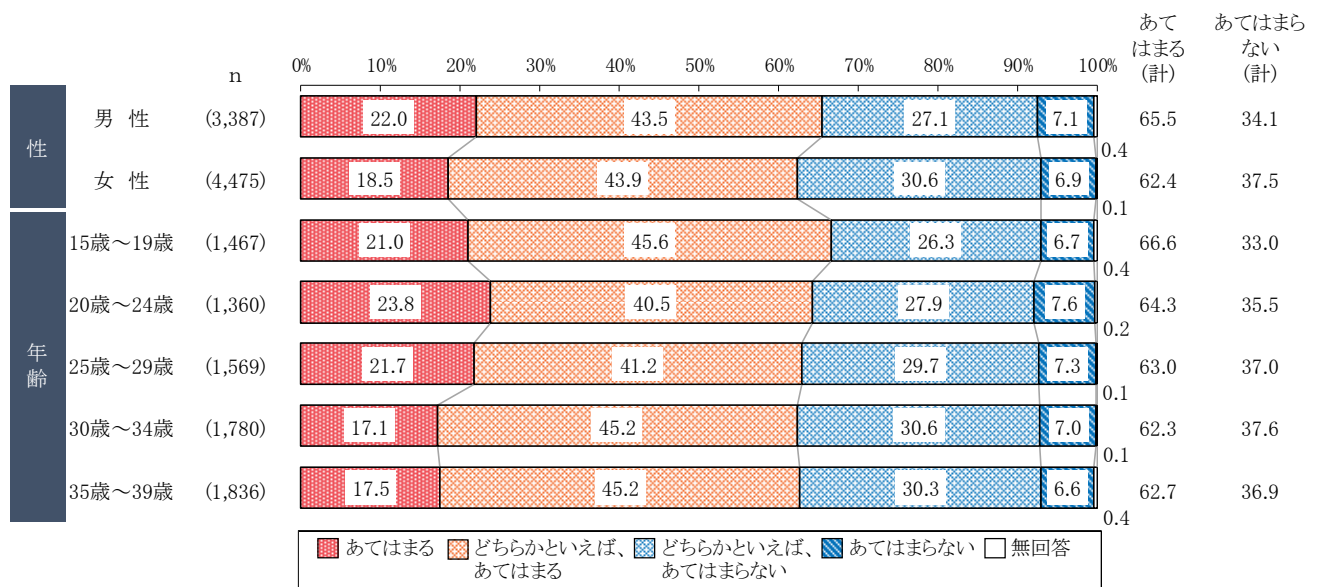
図表 2-2-1-1-6 自己認識:自分の親(保護者)から愛されていると思う(性別、年齢別)



“うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む”について、性別にみると（図表 2-2-1-1-7）、『あてはまる（計）』は、男性 65.5%、女性 62.4%で、男性が女性を約 3ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-1-1-7）、『あてはまる（計）』は、年齢が高くなるほど低くなる傾向がみられ、15歳～19歳では 66.6%、35歳～39歳では 62.7%である。

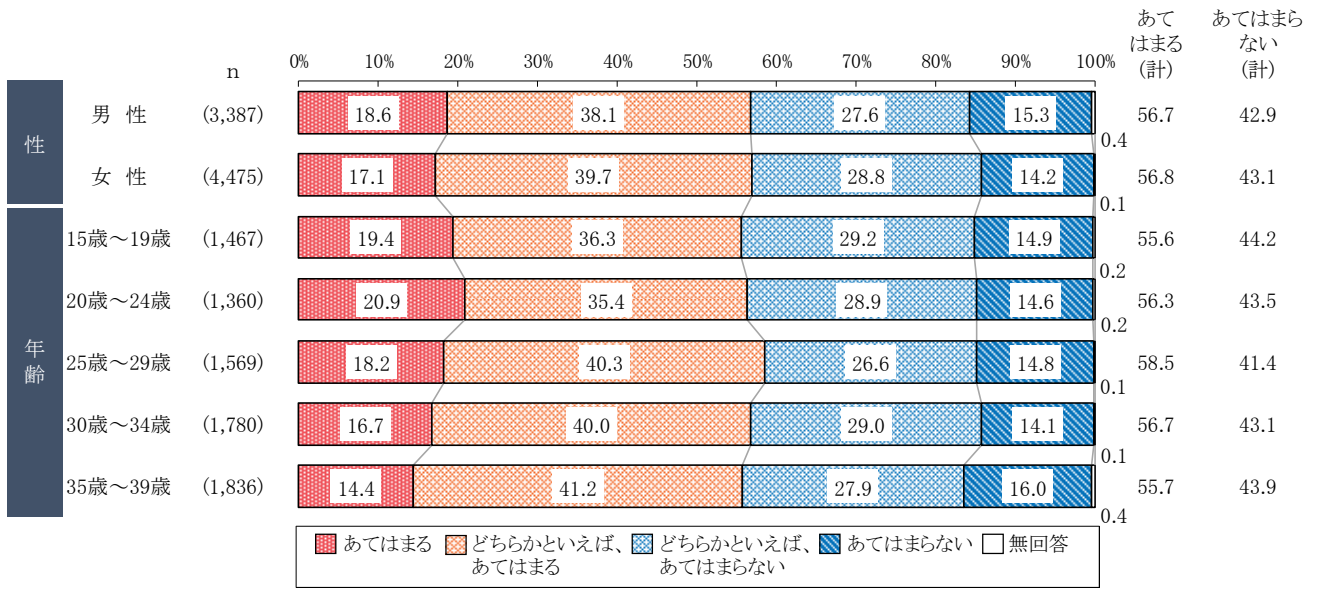
図表 2-2-1-1-7 自己認識:うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む(性別、年齢別)



“自分自身に満足している”について、性別にみると（図表 2-2-1-1-8）、『あてはまる（計）』は、男性 56.7%、女性 56.8%で、男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-1-1-8）、『あてはまる（計）』は、いずれの年齢層でも 5 割半程度で大きな差はみられない（15 歳～19 歳 55.6%、20 歳～24 歳 56.3%、25 歳～29 歳 58.5%、30 歳～34 歳 56.7%、35 歳～39 歳 55.7%）。「あてはまる」と回答した割合は、20 代までは約 2 割（15 歳～39 歳 19.4%、20 歳～24 歳 20.9%、25 歳～29 歳 18.2%）だが、30 代では 1 割半程度と低くなる（30 歳～34 歳 16.7%、35 歳～39 歳 14.4%）。

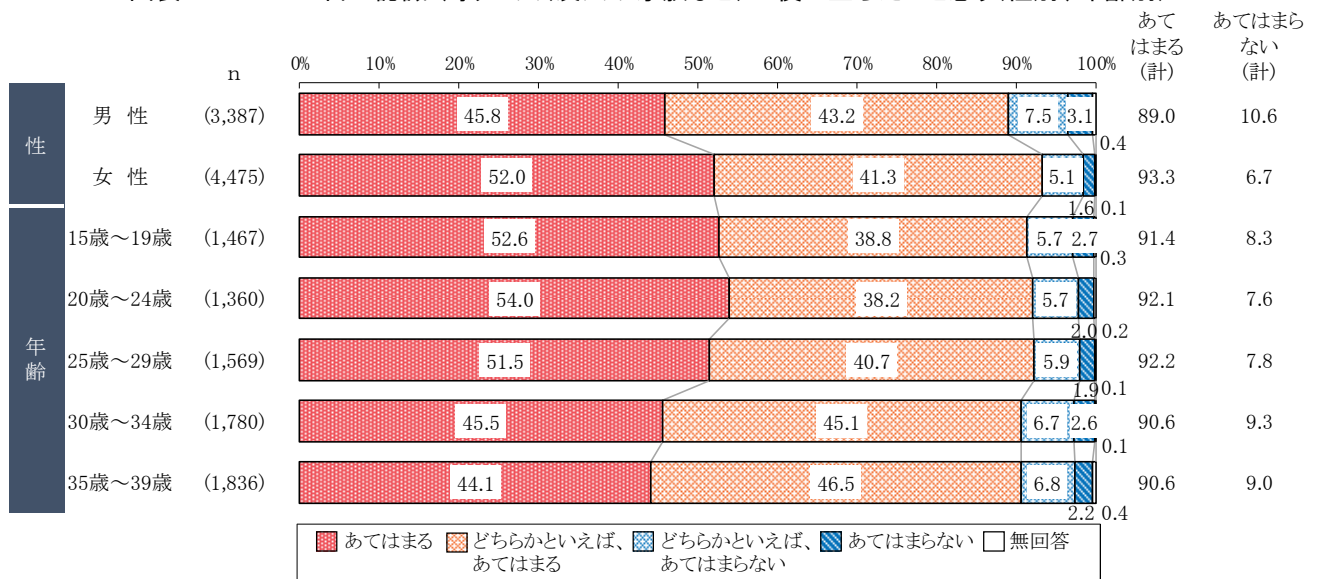
図表 2-2-1-1-8 自己認識:自分自身に満足している(性別、年齢別)



“周りの人（友人や家族など）の役に立ちたいと思う”について、性別にみると（図表 2-2-1-1-9）、『あてはまる（計）』は、女性 93.3%、男性 89.0%で、女性が男性を約 4 ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-1-1-9）、『あてはまる（計）』は、いずれの年齢層でも 9 割強を占める。「あてはまる」という回答の割合は、29 歳以下は 5 割台（15 歳～19 歳 52.6%、20 歳～24 歳 54.0%、25 歳～29 歳 51.5%）だが、30 代では 4 割半（30 歳～34 歳 45.5%、35 歳～39 歳 44.1%）となっている。

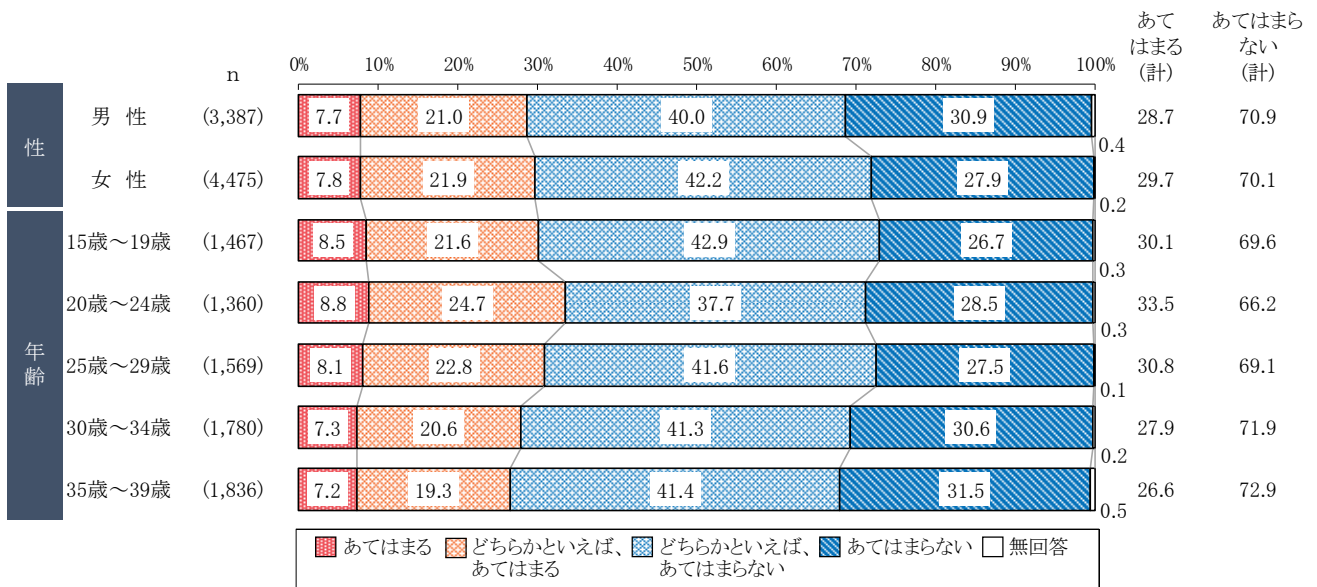
図表 2-2-1-1-9 自己認識:周りの人(友人や家族など)の役に立ちたいと思う(性別、年齢別)



“自分は役に立たないと強く感じる”という自己有用感について、性別にみると（図表 2-2-1-1-10）、『あてはまる（計）』は、男性 28.7%、女性 29.7%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-1-1-10）、『あてはまる（計）』は、20歳～24歳（33.5%）で最も高く、25歳以上は年齢層が高くなるほど低くなっている（25歳～29歳 30.8%、30歳～34歳 27.9%、35歳～39歳 26.6%）。

図表 2-2-1-1-10 自己認識：自分は役に立たないと強く感じる（性別、年齢別）

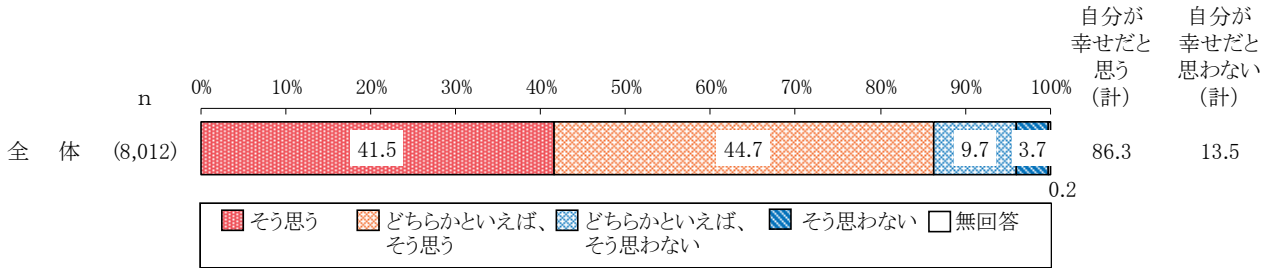


(2) 今の幸福感 (問2)

問2 あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。(1つだけ)

“今、自分が幸せだと思う”という今の幸福感について聞いたところ(図表 2-2-1-2-1)、「そう思う」という回答が41.5%で、「どちらかといえば、そう思う」(44.7%)を合わせると、肯定的な回答が8割半を占める。

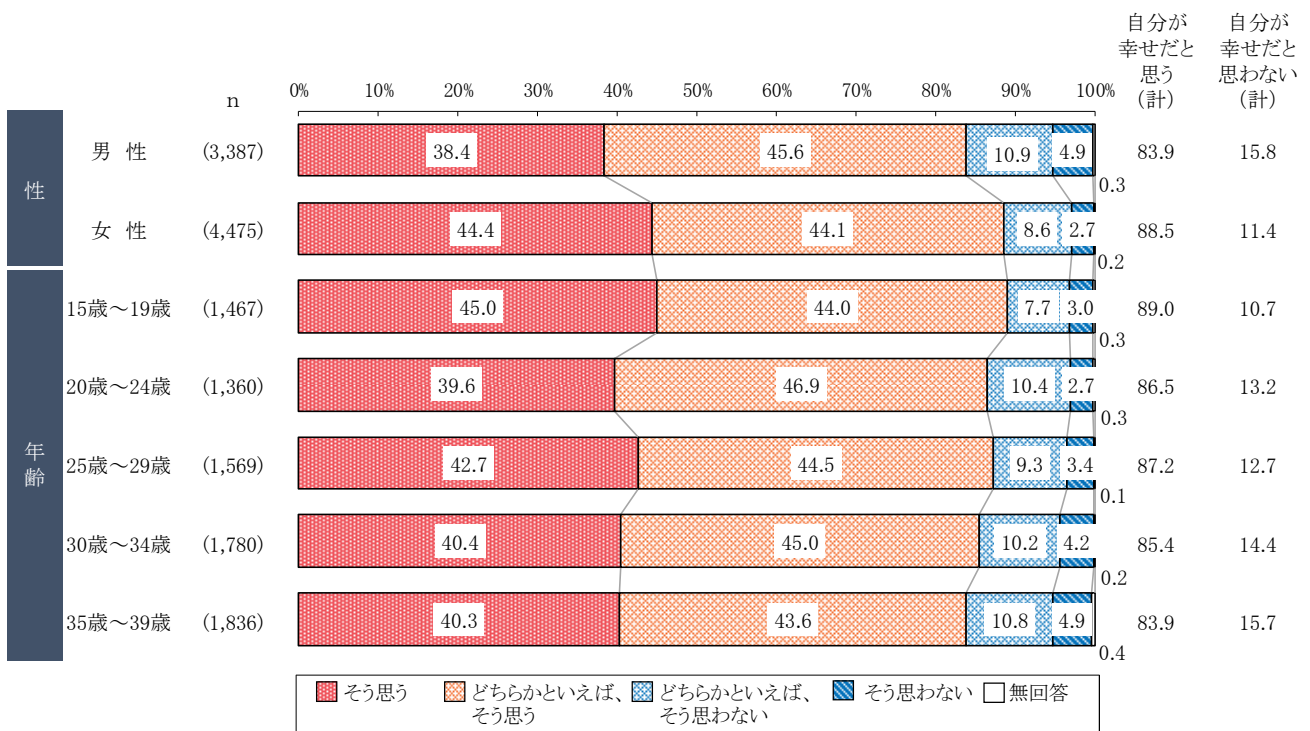
図表 2-2-1-2-1 今の幸福感



性別にみると(図表 2-2-1-2-2)、『自分が幸せだと思う (計)』(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」という回答は、女性(88.5%)が男性(83.9%)を約5ポイント上回っている。

年齢別にみると(図表 2-2-1-2-2)、『自分が幸せだと思う (計)』という回答が、いずれの年齢層でも8割を上回り、20代以下は9割に近い(15歳~19歳89.0%、20歳~24歳86.5%、25歳~29歳87.2%)。

図表 2-2-1-2-2 今の幸福感(性別、年齢別)

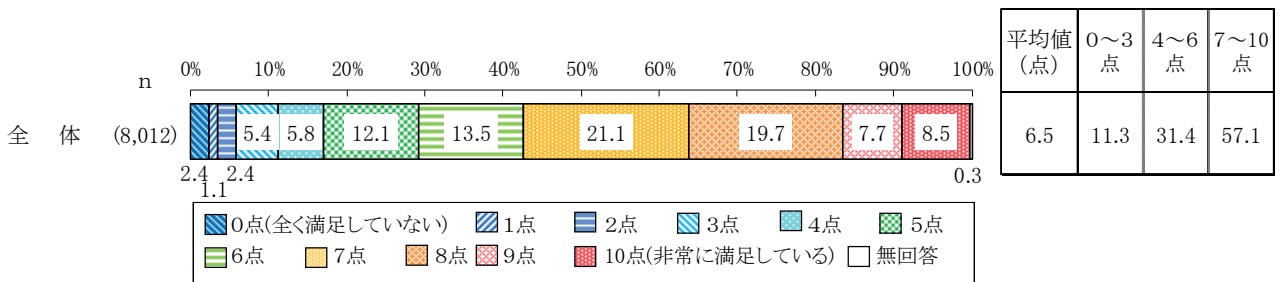


(3) 生活満足度 (問3)

問3 あなたは全体として現在の生活にどの程度満足していますか。「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれか1つだけ選んでください。(1つだけ、点数部分に○をつけてください)

全体として現在の生活にどの程度満足しているかを0点(全く満足していない)から10点(非常に満足している)の11件法で聞いたところ(図表2-2-1-3-1)、平均点は6.5点である。「7点」という回答の割合が最も高く21.1%、次いで「8点」が19.7%で、『7~10点』の割合が6割弱(57.1%)を占める。

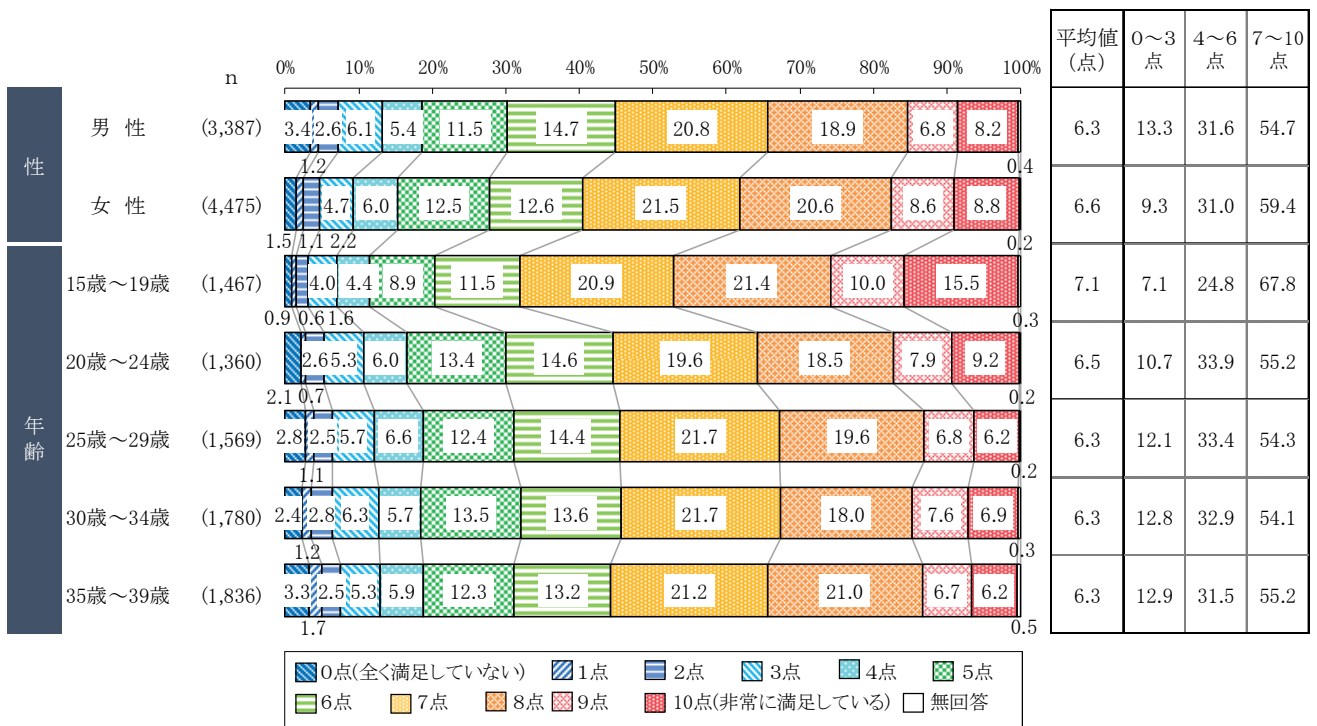
図表 2-2-1-3-1 生活満足度



性別にみると(図表2-2-1-3-2)、『7~10点』の割合は、女性(59.4%)が男性(54.7%)を約5ポイント上回っている。

年齢別にみると(図表2-2-1-3-2)、『7~10点』の割合は、15~19歳は67.8%と高く、20歳以上はいずれの年齢層でも5割半程度である(20歳~24歳55.2%、25歳~29歳54.3%、30歳~34歳54.1%、35歳~39歳55.2%)。

図表 2-2-1-3-2 生活満足度(性別、年齢別)



(4) 居場所 (問4)

問4 次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）になっていますか。（それぞれについて、あてはまる番号を1つお答えください）

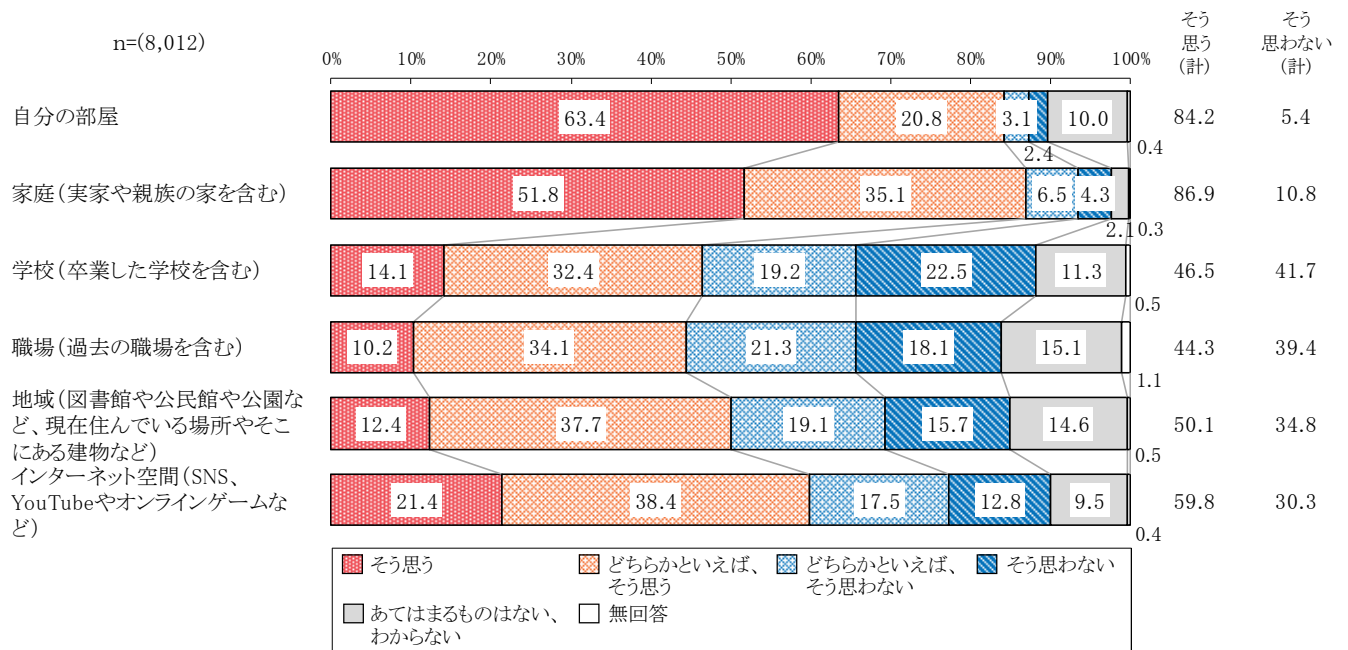
“自分の部屋”、“家庭（実家や親族の家を含む）”、“学校（卒業した学校を含む）”、“職場（過去の職場を含む）”、“地域（図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など）”、“インターネット空間（SNS、YouTube やオンラインゲームなど）”の6つの場所それぞれについて、回答者にとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所）になっているかを聞いた（図表 2-2-1-4-1）。

『そう思う（計）』（「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」）という回答は、“家庭”（86.9%）が最も高く、次いで“自分の部屋”（84.2%）であり、ともに8割を上回っている。

“学校”と“職場”については、『そう思う（計）』がともに4割半（学校46.5%、職場44.3%）である一方で、『そう思わない（計）』（「そう思わない」+「どちらかといえば、そう思わない」）という回答も、ともに約4割（学校41.7%、職場39.4%）となっている。

“地域”は、『そう思う（計）』が50.1%、“インターネット空間”は59.8%である。

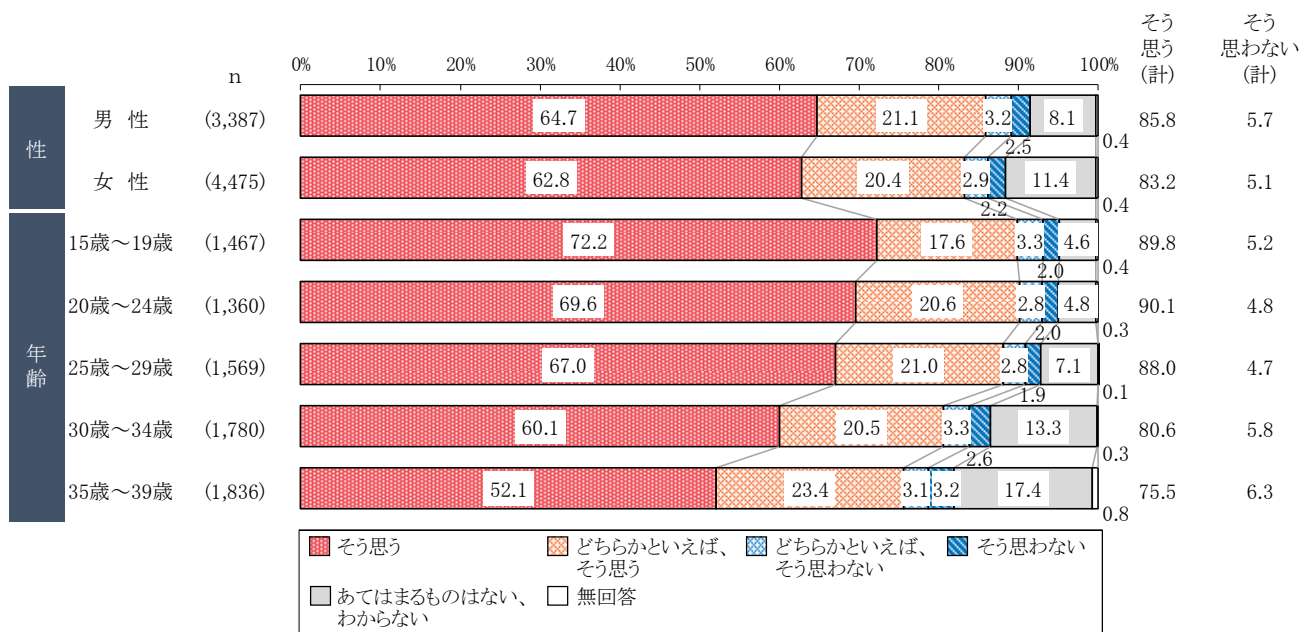
図表 2-2-1-4-1 居場所



居場所としての“自分の部屋”について、性別にみると（図表 2-2-1-4-2）、『そう思う（計）』は、男性 85.8%、女性 83.2%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-1-4-2）、『そう思う（計）』は、29 歳までは 9 割前後と高く、30 歳以降は低くなり 35 歳～39 歳は 75.5%である。なお、「あてはまるものはない、わからない」という回答（“自分の部屋”に相当する場所がない可能性のある回答）の割合は、年齢が高い層ほど高くなる傾向がみられ、15 歳～19 歳が 4.6%、35 歳～39 歳が 17.4%である。

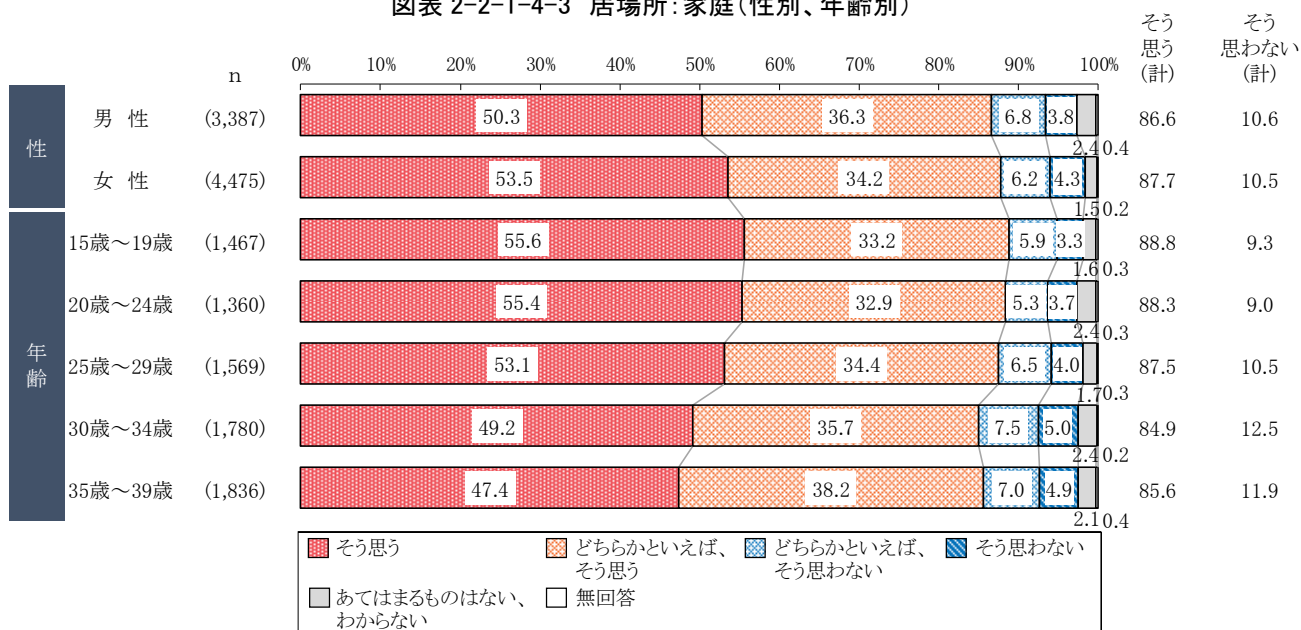
図表 2-2-1-4-2 居場所：自分の部屋（性別、年齢別）



居場所としての“家庭（実家や親族の家を含む）”について、性別にみると（図表 2-2-1-4-3）、『そう思う（計）』は、男性 86.6%、女性 87.7%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-1-4-3）、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも 8 割台で、29 歳までは約 9 割と高く、30 歳以上では 8 割半程度となる。

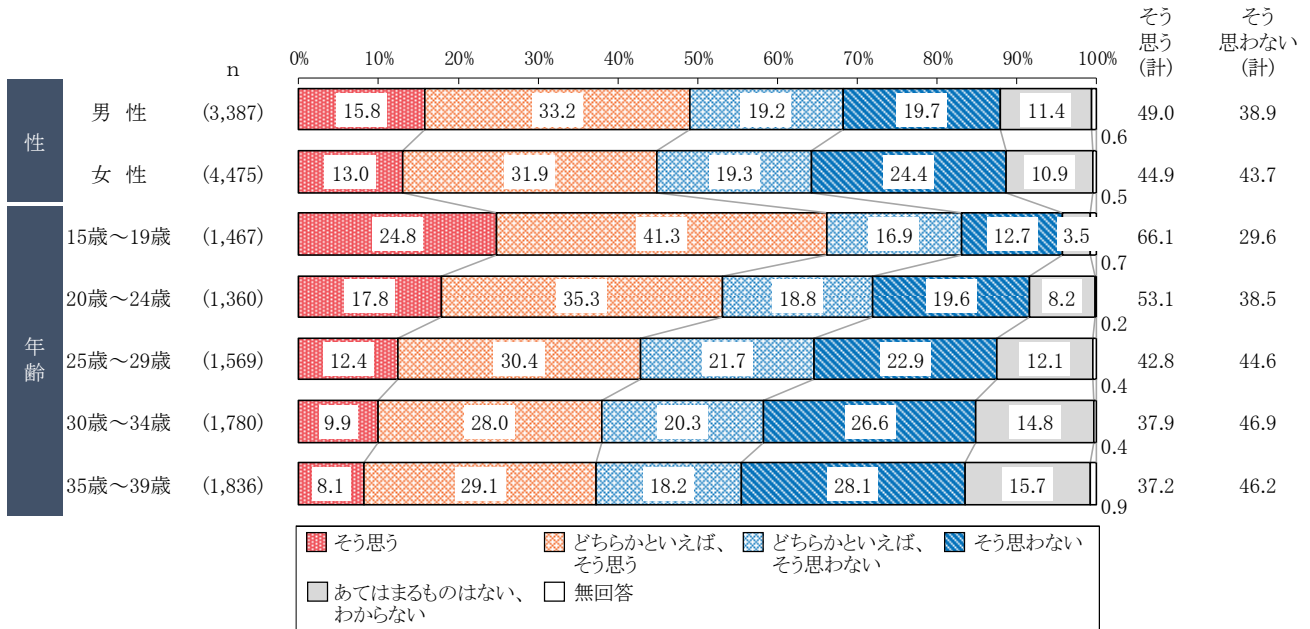
図表 2-2-1-4-3 居場所：家庭（性別、年齢別）



居場所としての“学校（卒業した学校を含む）”について、性別にみると（図表 2-2-1-4-4）、『そう思う（計）』は、男性 49.0%、女性 44.9%で、男性が女性を約 4 ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-1-4-4）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15 歳～19 歳が 66.1%、35 歳～39 歳が 37.2%である。

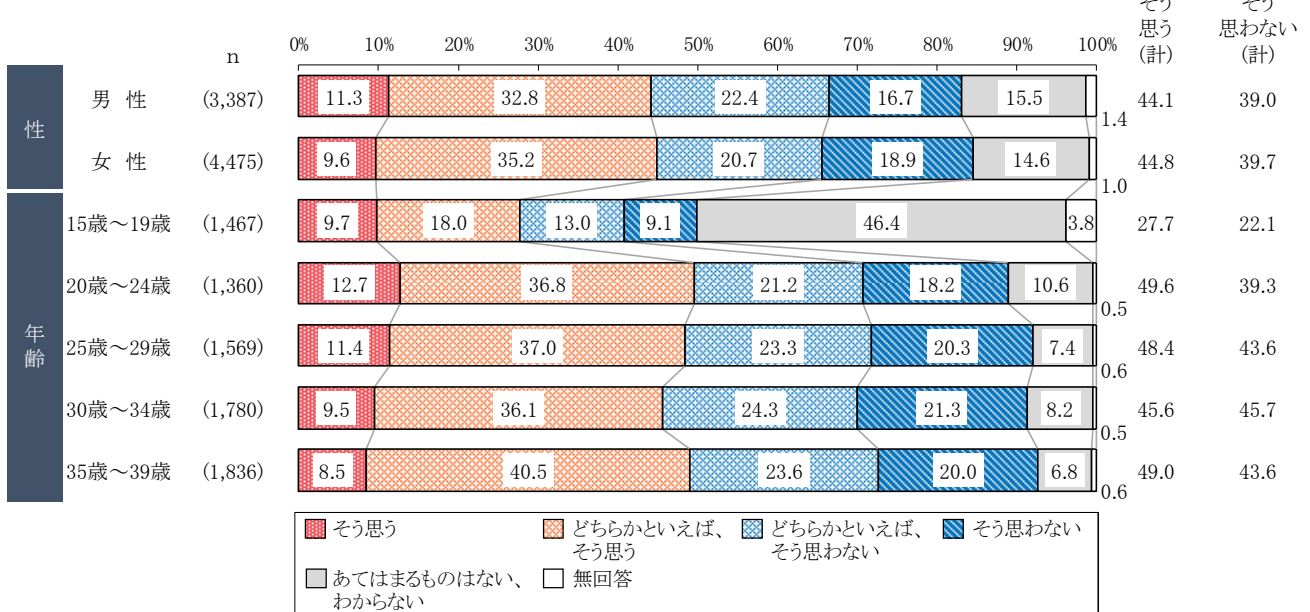
図表 2-2-1-4-4 居場所：学校（性別、年齢別）



居場所としての“職場（過去の職場を含む）”について、性別にみると（図表 2-2-1-4-5）、『そう思う（計）』は、男性 44.1%、女性 44.8%で、男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-1-4-5）、『そう思う（計）』は、20 歳以上ではいずれの年齢層でも 4 割台後半である。なお、学生が約 9 割を占める 15 歳～19 歳<sup>1</sup>では、「あてはまるものはない、わからない」という回答（46.4%）が約半数を占める。

図表 2-2-1-4-5 居場所：職場（性別、年齢別）

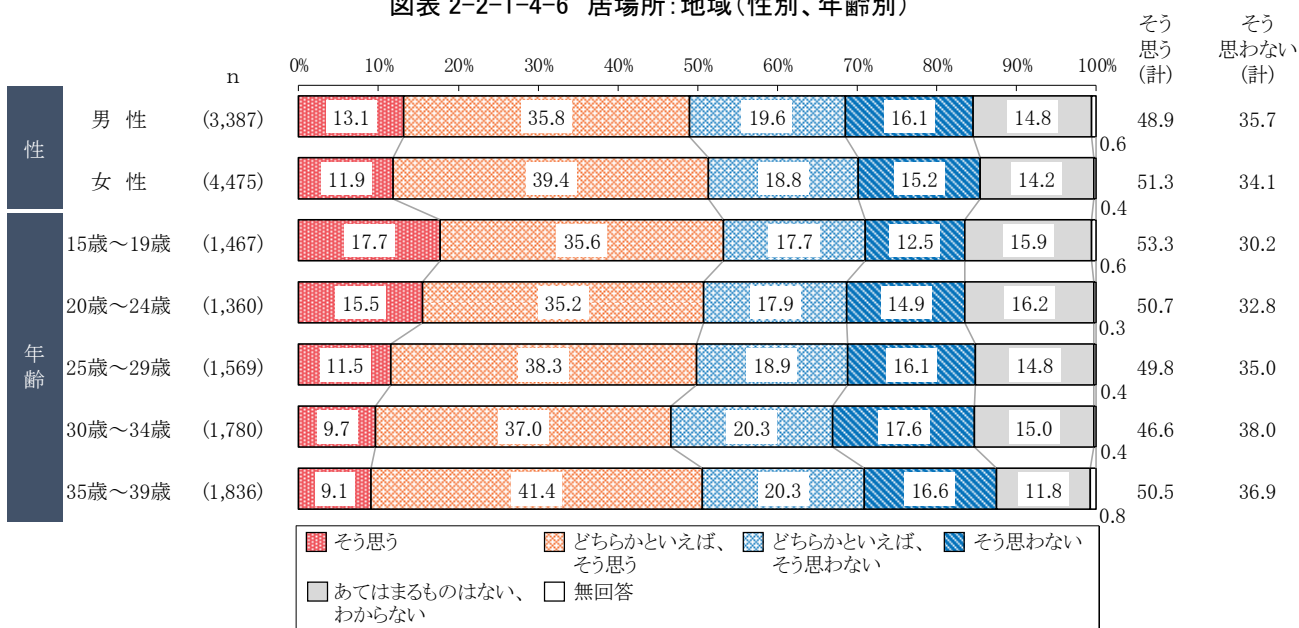


<sup>1</sup> F 9 「あなたの現在の仕事をお答えください。」で「学生・生徒（予備校生などを含む）」を選択した者は、15 歳～19 歳で 90.8%である。

居場所としての“地域（図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など）”について、性別にみると（図表 2-2-1-4-6）、『そう思う（計）』は、男性が 48.9%、女性が 51.3%で大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-1-4-6）、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも概ね 5 割前後だが、30 歳～34 歳（46.6%）は他の年齢層より低くなっている。一方、『そう思わない（計）』は、いずれの年齢層でも 3 割台だが年齢層が上がるほど高くなり、30 代では 4 割弱（30 歳～34 歳 38.0%、35 歳～39 歳 36.9%）となっている。

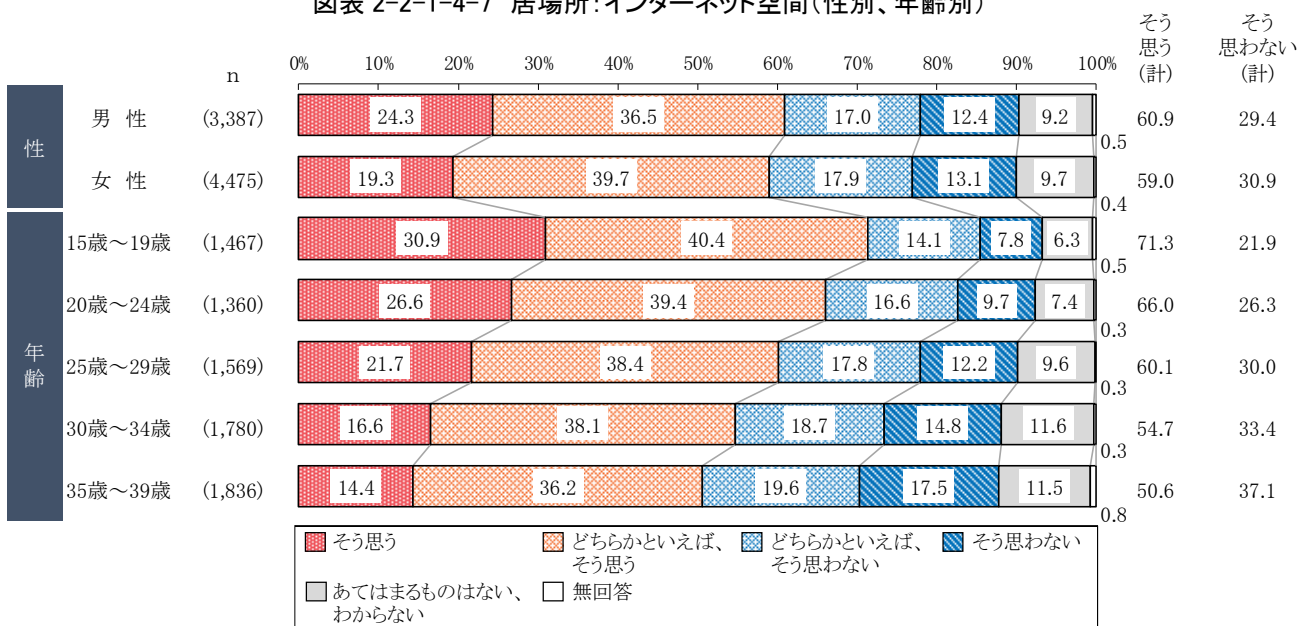
図表 2-2-1-4-6 居場所：地域（性別、年齢別）



居場所としての“インターネット空間（SNS、YouTube やオンラインゲームなど）”について、性別にみると（図表 2-2-1-4-7）、『そう思う（計）』は、男性 60.9%、女性 59.0%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-1-4-7）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15 歳～19 歳が 71.3%、35 歳～39 歳が 50.6%である。

図表 2-2-1-4-7 居場所：インターネット空間（性別、年齢別）



## 2. 人とのつながり

### (1) 孤独感（間接質問）（問5）

本調査では、孤独感について把握するため、「直接質問」、「間接質問」の2種類の質問を行っており、本問は後者の「間接質問」である。

本問は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）のラッセルが、孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定するために考案した「UCLA孤独感尺度」<sup>2</sup>の日本語版<sup>3</sup>の3項目短縮版<sup>4</sup>に基づくもので、以下の3つの項目への回答をスコア化し、その合計スコアが高いほど孤独感が高いと評価する内容となっている<sup>5</sup>。

問5 以下のア)～ウ)の項目について、あなたはどれくらいの頻度で感じていますか。（それぞれについて、あてはまる番号を1つお答えください）

ア) 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある

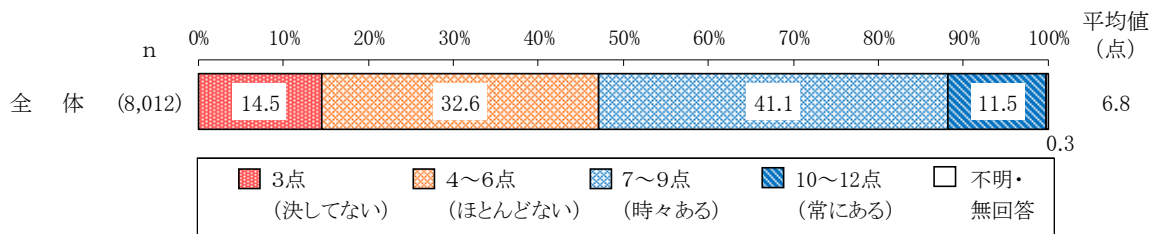
イ) 自分は取り残されていると感じることがある

ウ) 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある

※ア)～ウ)の選択肢はいずれも、「決してない」、「ほとんどない」、「時々ある」、「常にある」

本報告書では、内閣府「人々のつながりに関する基礎調査」を参考に、「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点としてスコア化し、その合計スコアについて便宜的に「3点」（決してない）、「4～6点」（ほとんどない）、「7～9点」（時々ある）、「10～12点」（常にある）の4区分に整理している。

図表 2-2-2-1-1 孤独感(間接質問)



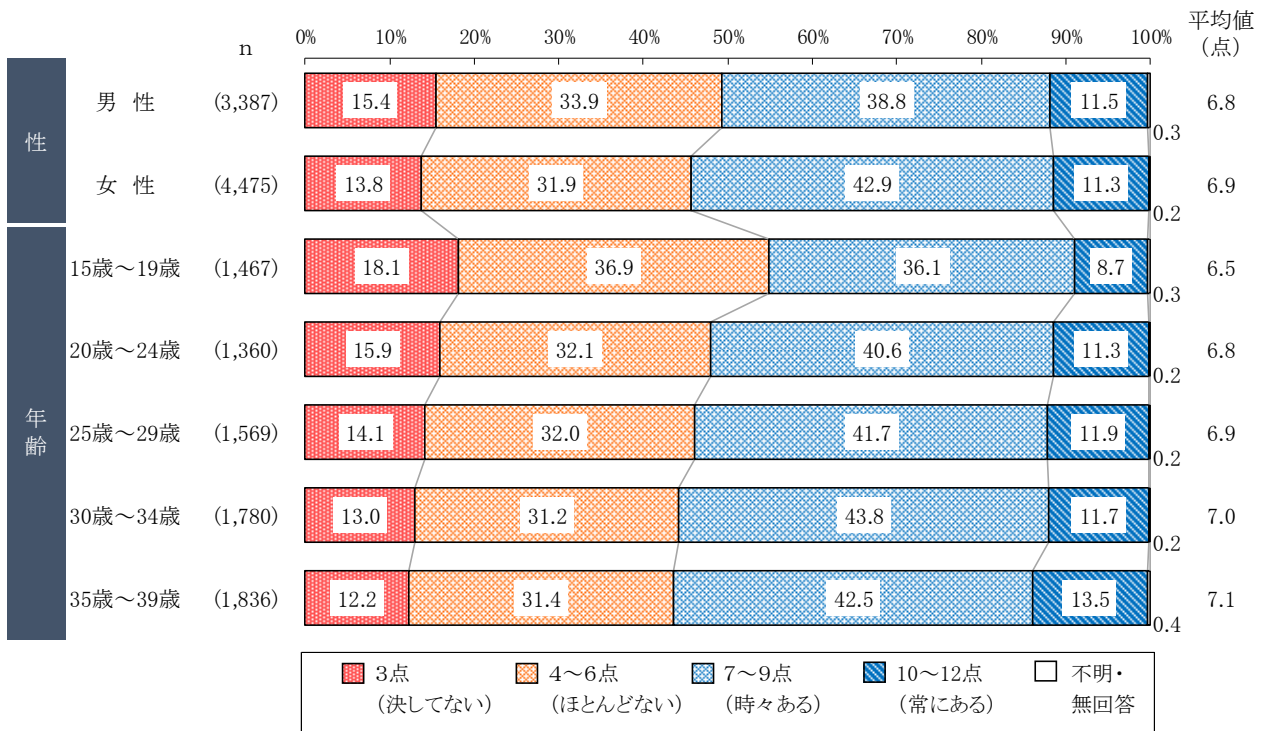
<sup>2</sup> Russell DW. UCLA loneliness scale (version 3): reliability, validity, and factor structure. J Pers Assess. 1996;66(1):20-40.

<sup>3</sup> 舛田ゆづり, 田高悦子, 他: 高齢者における日本語版 UCLA 孤独感尺度 (第3版) の開発とその信頼性・妥当性の検討, 日本地域看護学会誌. 15(1): 25-32, 2012.

<sup>4</sup> Arimoto A & Tadaka E: Reliability and validity of Japanese versions of the UCLA loneliness scale version 3 for use among mothers with infants and toddlers. BMC Women's Health. 2019;19:105.

<sup>5</sup> 質問に「孤独」という言葉を使用していないことから「間接質問」と呼称している。

図表 2-2-2-1-2 孤独感(間接質問)(性別、年齢別)

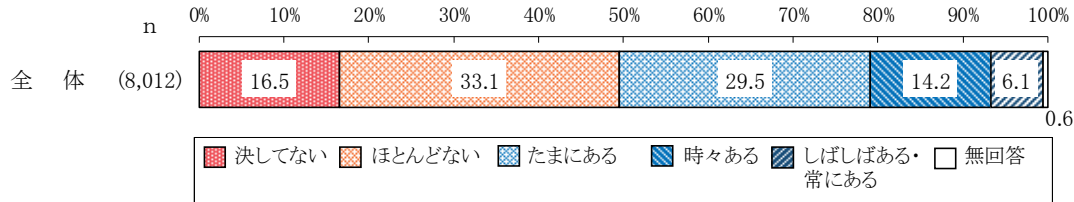


(2) 孤独感 (直接質問) (問 6)

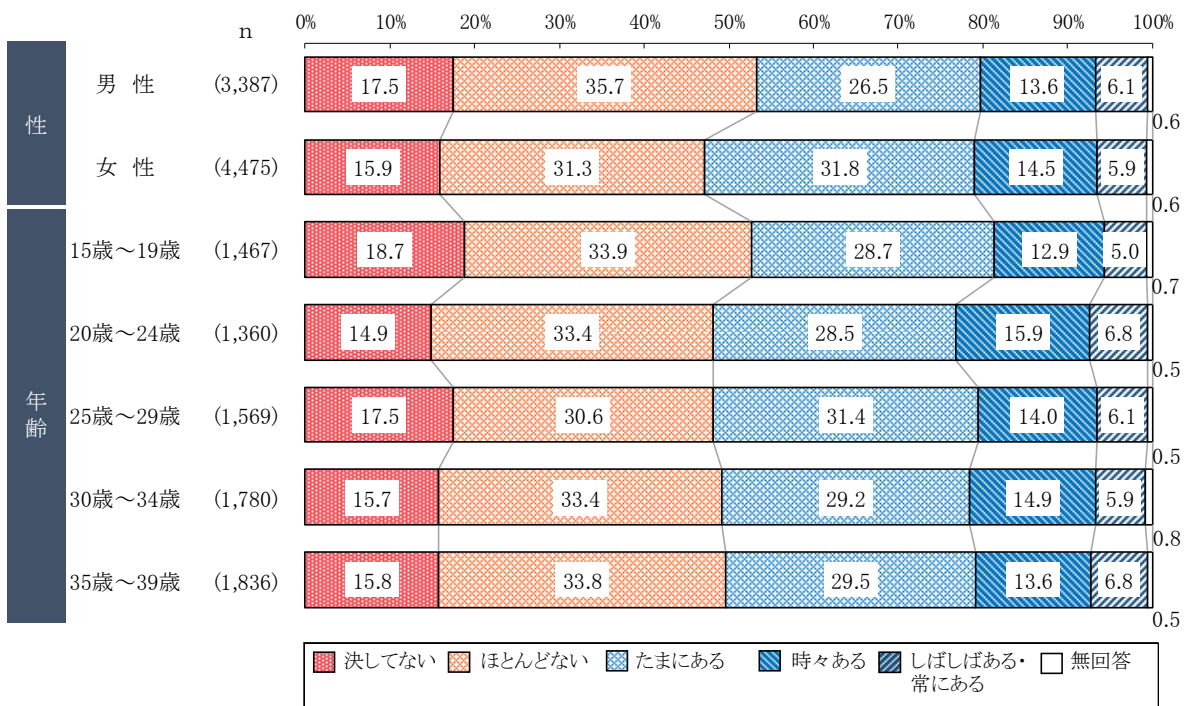
問6 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(1つだけ)

本問は、孤独感について把握するための「直接質問」である。

図表 2-2-2-2-1 孤独感(直接質問)



図表 2-2-2-2-2 孤独感(直接質問)(性別、年齢別)



### 3. 他者との関わり方

#### (1) 家族・親族との関わり方 (問7)

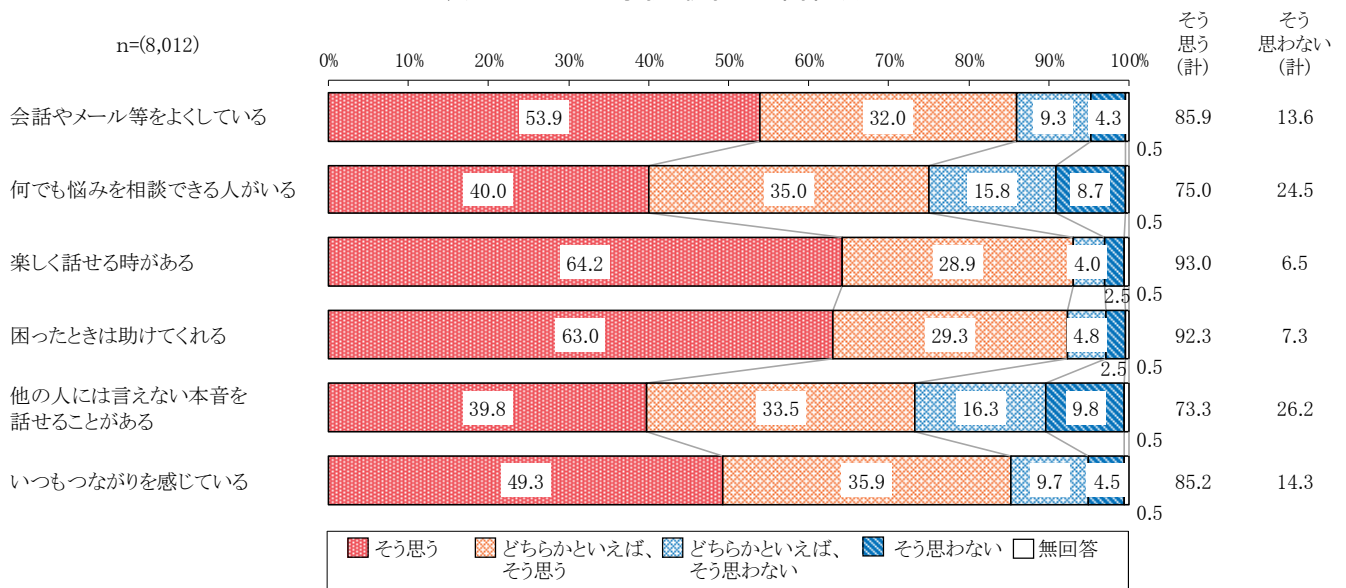
問7 家族・親族とあなたのかかわりは、どのようなものですか。(それぞれについて、あてはまる番号を1つお答えください)

回答者の他者との関わり方に関して、家族・親族との関わり方について、“会話やメール等をよくしている”、“何でも悩みを相談できる人がある”、“楽しく話せる時がある”、“困ったときは助けてくれる”、“他の人には言えない本音を話せることがある”、“いつもつながりを感じている”の6項目を聞いた(図表 2-2-3-1-1)。

6項目のうち、「そう思う」という回答の割合が高いのは、“楽しく話せる時がある”(64.2%)と“困ったときは助けてくれる”(63.0%)で、「どちらかといえば、そう思う」(“楽しく話せる”28.9%、“助けてくれる”29.3%)を合わせると、ともに9割以上が『そう思う(計)』(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」)<sup>6</sup>と回答している。

その他の4項目で『そう思う(計)』の割合が高いのは、“会話やメール等をよくしている”(85.9%)、“いつもつながりを感じている”(85.2%)、“何でも悩みを相談できる人がある”(75.0%)、“他の人には言えない本音を話せることがある”(73.3%)の順となっている。

図表 2-2-3-1-1 家族・親族との関わり方

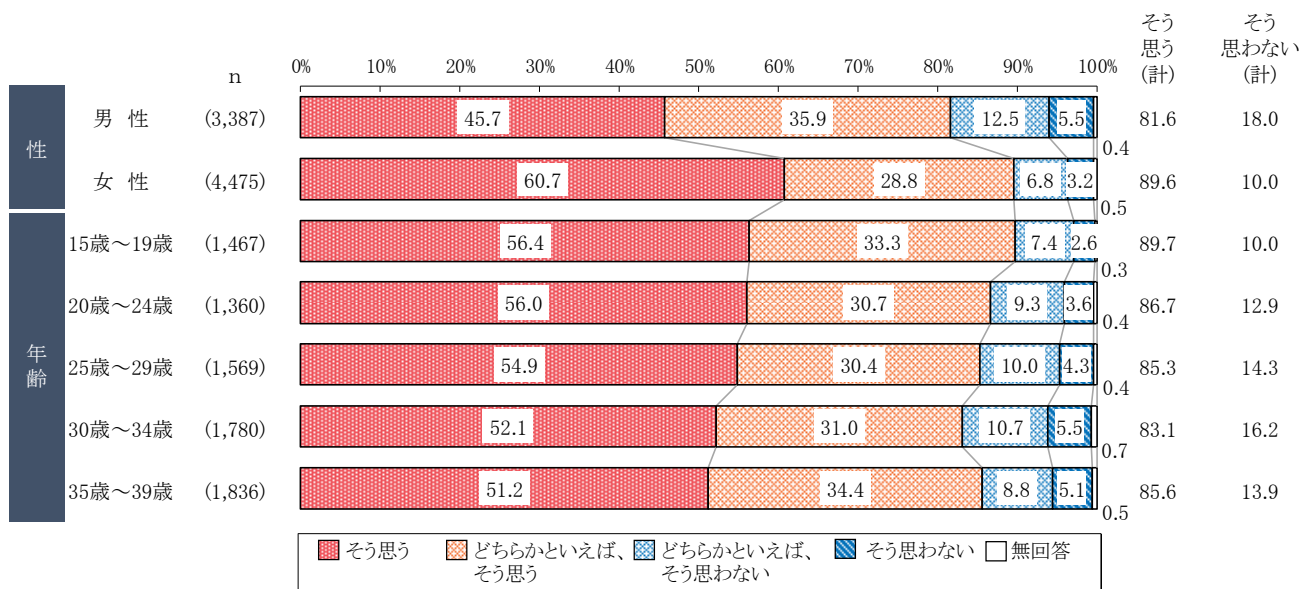


<sup>6</sup> 『そう思う(計)』及び『そう思わない(計)』の内訳は、問7から問11まで同様であるため、問8から問11までの記載は割愛する。内訳の詳細は、『そう思う(計)』が「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計であり、『そう思わない(計)』が「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」の合計である。

家族・親族との関わり方における“会話やメール等をよくしている”について、性別にみると（図表 2-2-3-1-2）、『そう思う（計）』は、女性（89.6%）では9割近くを占め、男性（81.6%）を8ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-1-2）、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも8割以上を占める。また、「そう思う」という回答は、年齢層が上がるほど低くなる（15歳～19歳 56.4%、35歳～39歳 51.2%）。

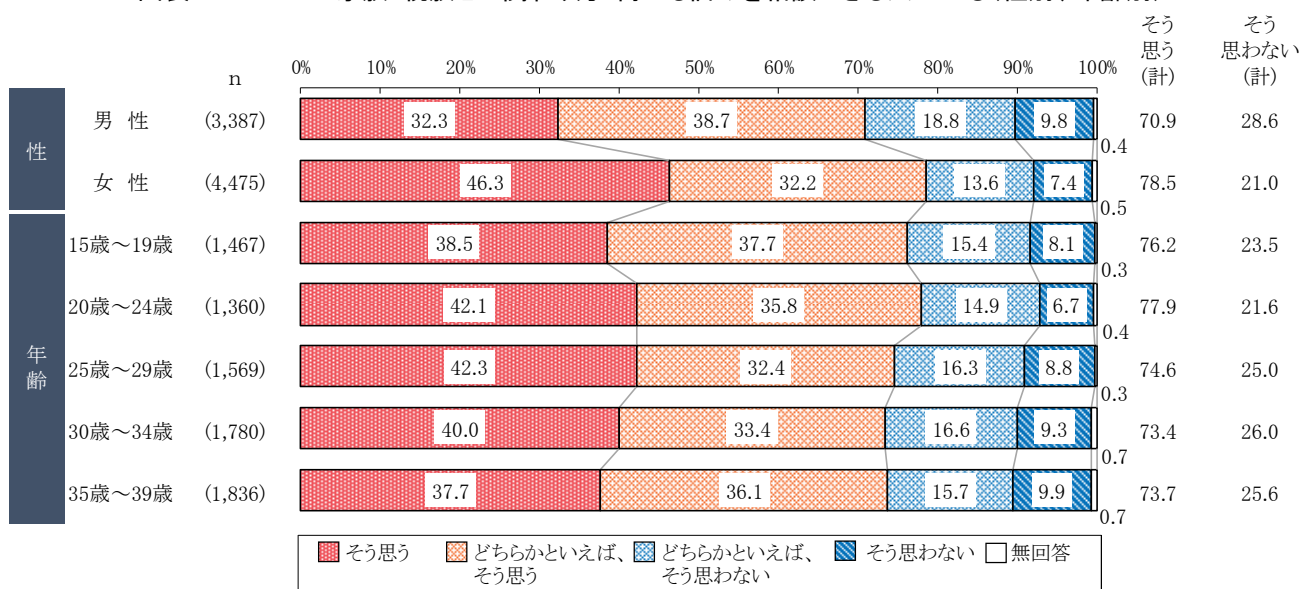
図表 2-2-3-1-2 家族・親族との関わり方:会話やメール等をよくしている(性別、年齢別)



家族・親族との関わり方における“何でも悩みを相談できる人がいる”について、性別にみると（図表 2-2-3-1-3）、『そう思う（計）』は、女性（78.5%）が男性（70.9%）を、約8ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-1-3）、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも7割台だが、20歳～24歳は8割弱（77.9%）、30代では7割強となる（30歳～34歳 73.4%、35歳～39歳 73.7%）。

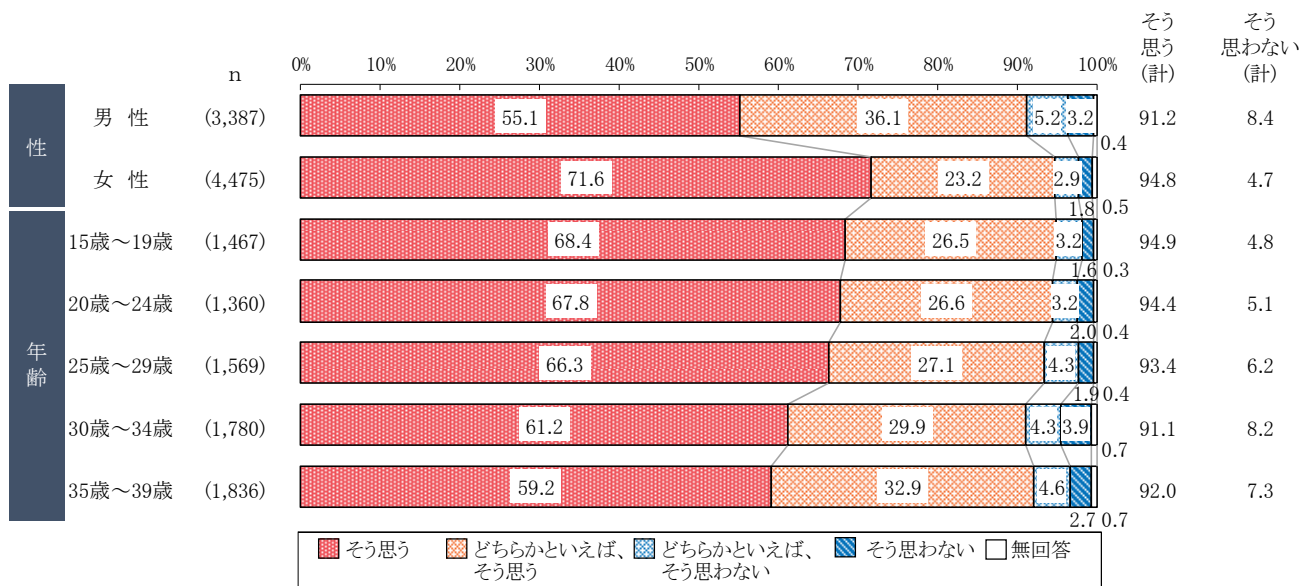
図表 2-2-3-1-3 家族・親族との関わり方:何でも悩みを相談できる人がいる(性別、年齢別)



家族・親族との関わり方における“楽しく話せる時がある”について、性別にみると（図表 2-2-3-1-4）、『そう思う（計）』は、男女とも9割台（男性91.2%、女性94.8%）であるが、「そう思う」という回答は、女性（71.6%）が男性（55.1%）を約17ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-1-4）、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも9割台である。また、「そう思う」という回答の割合は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が68.4%、35歳～39歳が59.2%である。

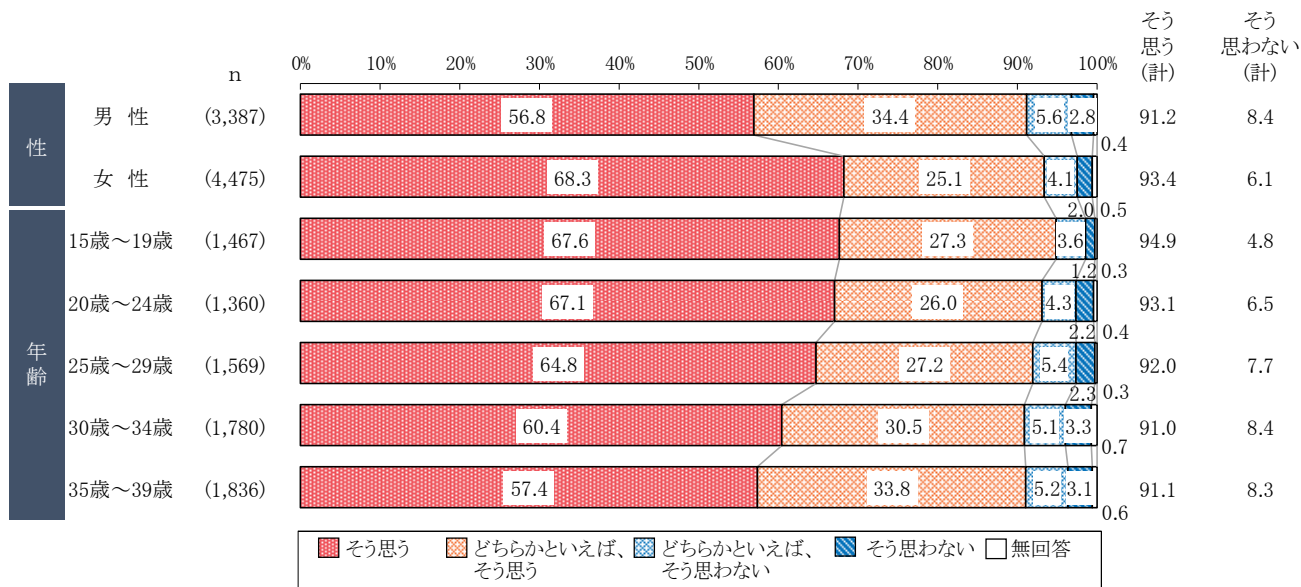
図表 2-2-3-1-4 家族・親族との関わり方:楽しく話せる時がある(性別、年齢別)



家族・親族との関わり方における“困ったときは助けてくれる”について、性別にみると（図表 2-2-3-1-5）、『そう思う（計）』は男女とも9割台（男性91.2%、女性93.4%）であるが、「そう思う」という回答は、女性（68.3%）が男性（56.8%）を約12ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-1-5）、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも9割台だが、「そう思う」という回答の割合は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が67.6%、35歳～39歳が57.4%である。

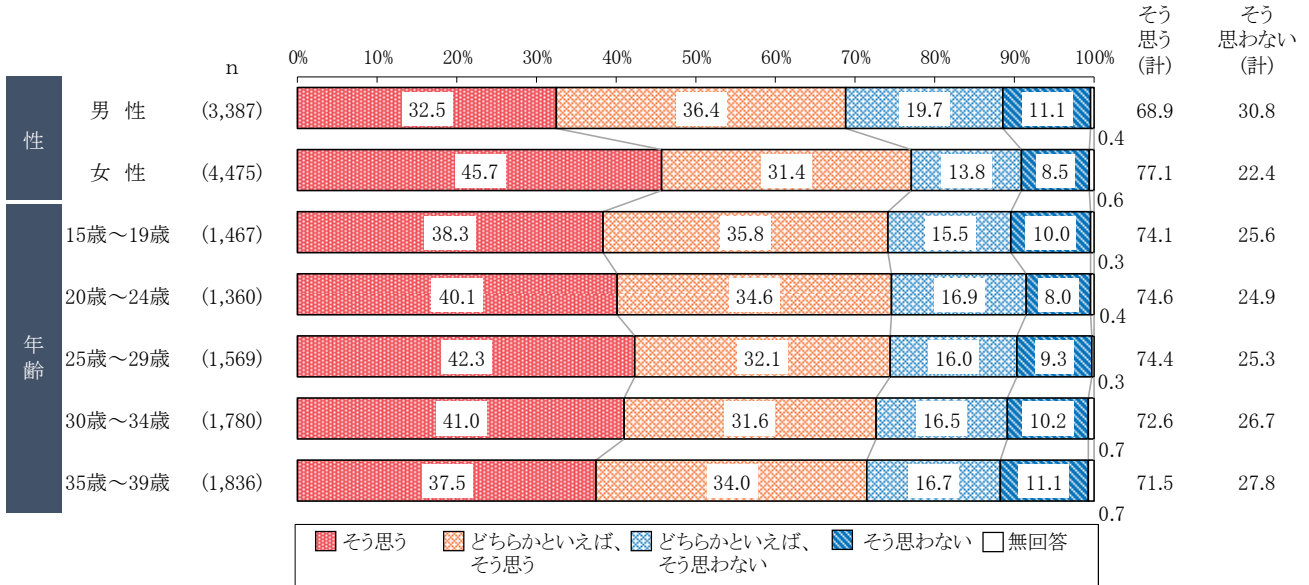
図表 2-2-3-1-5 家族・親族との関わり方:困ったときは助けてくれる(性別、年齢別)



家族・親族との関わり方における“他の人には言えない本音を話せることがある”について、性別にみると（図表 2-2-3-1-6）、『そう思う（計）』は、女性（77.1%）が男性（68.9%）を約 8 ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-1-6）、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも 7 割台前半である。

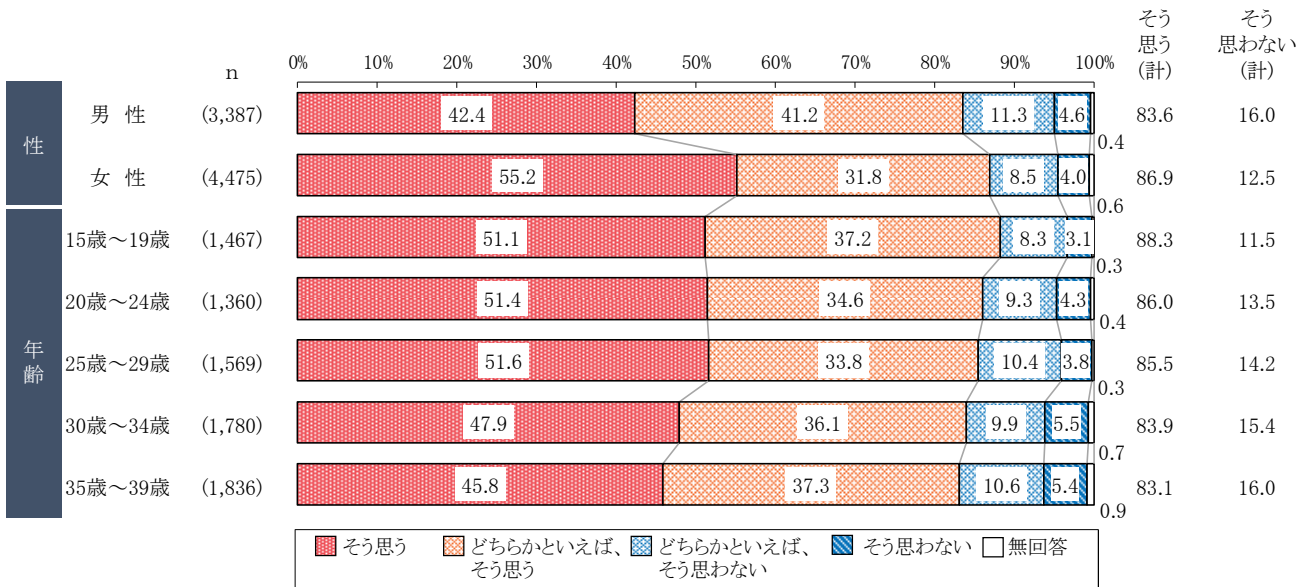
図表 2-2-3-1-6 家族・親族との関わり方：他の人には言えない本音を話せることがある（性別、年齢別）



家族・親族との関わり方における“いつもつながりを感じている”について、性別にみると（図表 2-2-3-1-7）、『そう思う（計）』は、女性が 86.9%、男性が 83.6%で、女性が男性を約 3 ポイント上回っている。また、「そう思う」という回答は、女性（55.2%）が男性（42.4%）を約 13 ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-1-7）、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも 8 割台だが、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられる（15 歳～19 歳 88.3%、35～39 歳 83.1%）。

図表 2-2-3-1-7 家族・親族との関わり方：いつもつながりを感じている（性別、年齢別）



(2) 学校で出会った友人との関わり方 (問8)

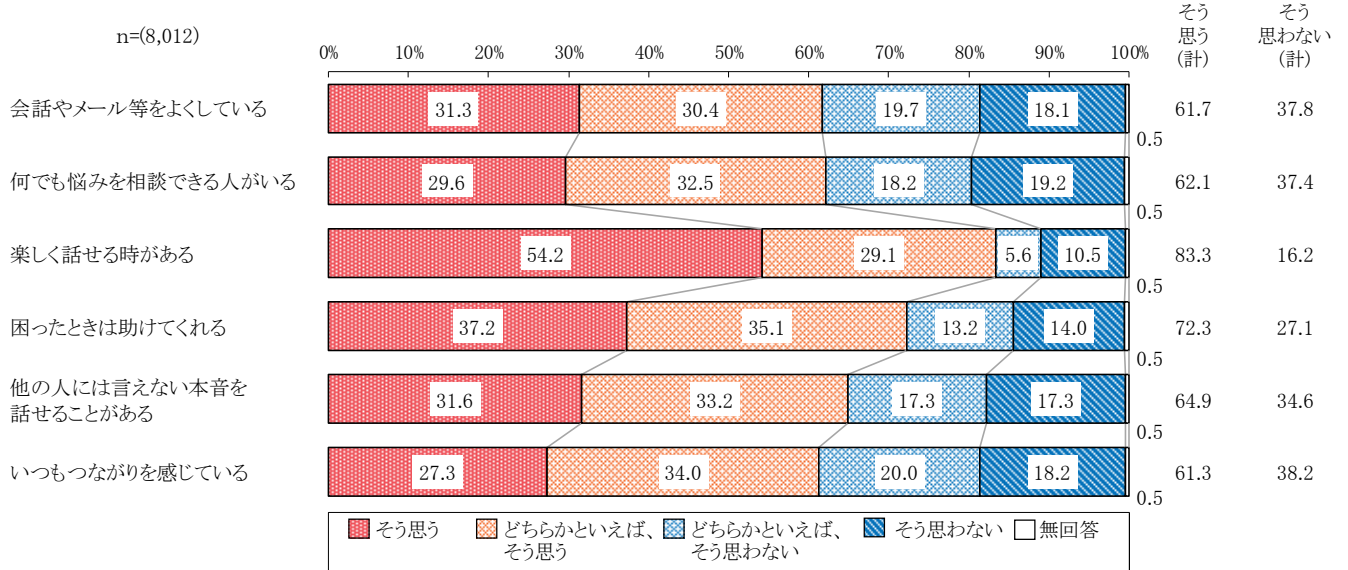
問8 学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生など）と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。（それぞれについて、あてはまる番号を1つお答えください）

回答者の他者との関わり方に関して、学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生など）との関わり方について、“会話やメール等をよくしている”、“何でも悩みを相談できる人がある”、“楽しく話せる時がある”、“困ったときは助けてくれる”、“他の人には言えない本音を話せることがある”、“いつもつながりを感じている”の6項目を聞いた（図表 2-2-3-2-1）。

6項目のうち、『そう思う（計）』は、“楽しく話せる時がある”が83.3%と最も高く、次いで、“困ったときは助けてくれる”が72.3%である。

その他の4項目で『そう思う（計）』の割合が高いのは、“他の人には言えない本音を話せることがある”（64.9%）、“何でも悩みを相談できる人がある”（62.1%）、“会話やメール等をよくしている”（61.7%）、“いつもつながりを感じている”（61.3%）の順となっている。

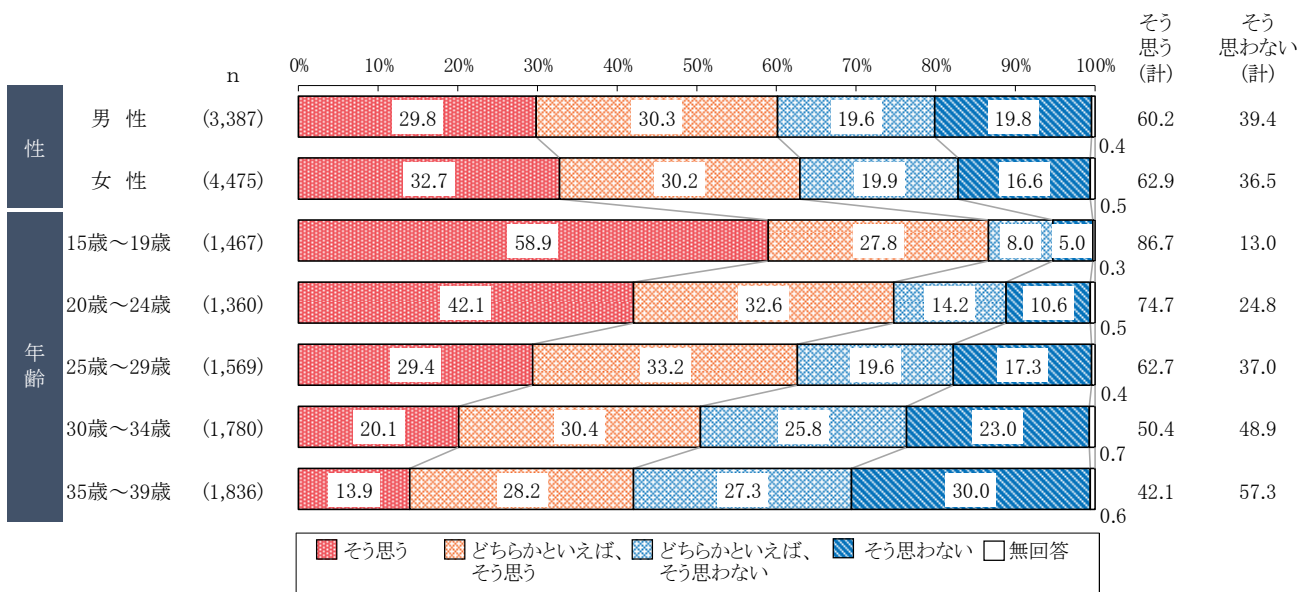
図表 2-2-3-2-1 学校で出会った友人との関わり方



学校で出会った友人との関わり方における“会話やメール等をよくしている”について、性別にみると（図表 2-2-3-2-2）、『そう思う（計）』は、男性が 60.2%、女性が 62.9%で大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-2-2）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が 86.7%、35歳～39歳が 42.1%である。一方、『そう思わない（計）』（「そう思わない」＋「どちらかといえば、そう思わない」）という回答は、15歳～19歳（13.0%）が 1 割台であるのに対し、35歳～39歳（57.3%）が 6 割近くとなっている。

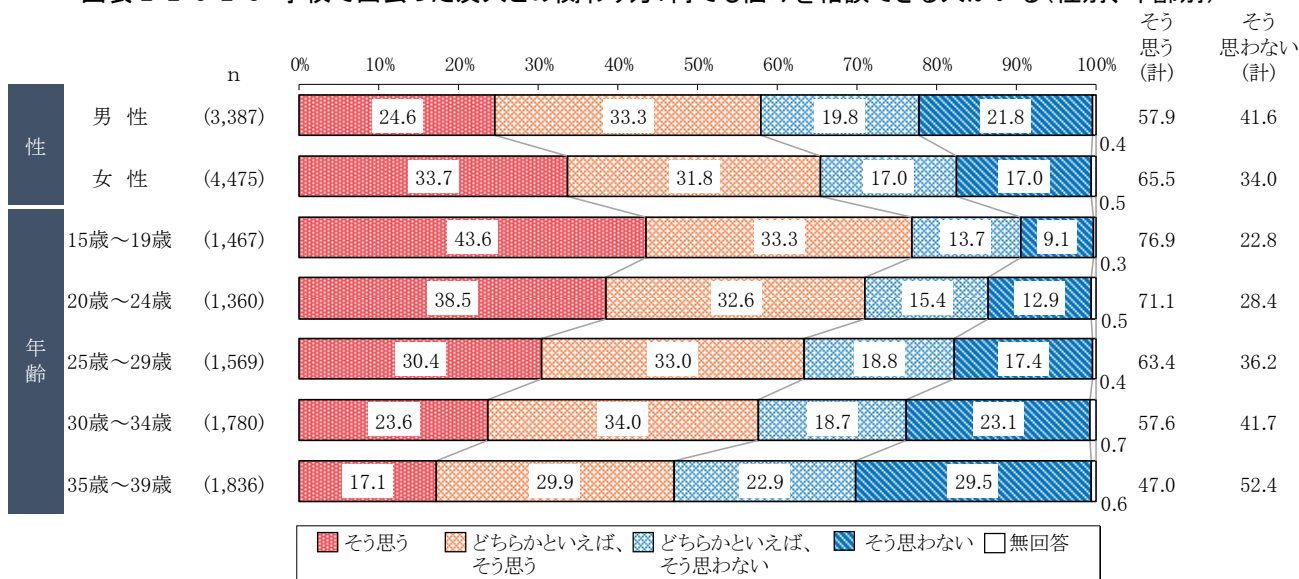
図表 2-2-3-2-2 学校で出会った友人との関わり方:会話やメール等をよくしている(性別、年齢別)



学校で出会った友人との関わり方における“何でも悩みを相談できる人がいる”について、性別にみると（図表 2-2-3-2-3）、『そう思う（計）』は、女性（65.5%）が男性（57.9%）を約 8 ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-2-3）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が 76.9%、35歳～39歳が 47.0%である。一方、『そう思わない（計）』は、15歳～19歳（22.8%）が約 2 割であるのに対し、35歳～39歳（52.4%）では半数を占める。

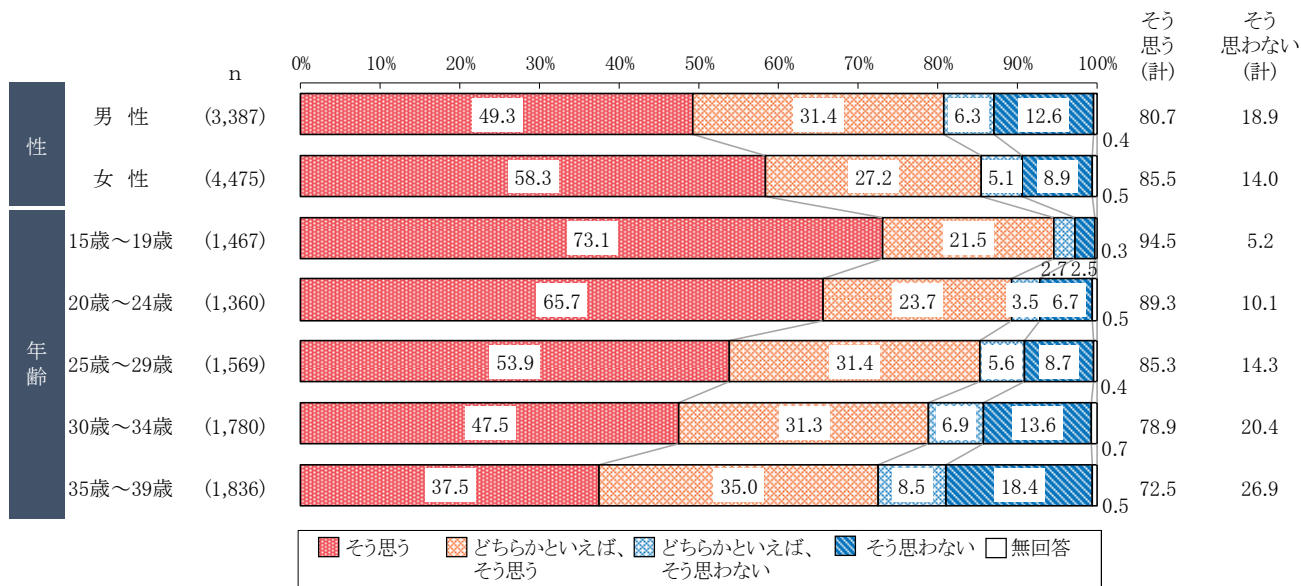
図表 2-2-3-2-3 学校で出会った友人との関わり方:何でも悩みを相談できる人がいる(性別、年齢別)



学校で出会った友人との関わり方における“楽しく話せる時がある”について、性別にみると（図表 2-2-3-2-4）、『そう思う（計）』は、女性（85.5%）が男性（80.7%）を約5ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-2-4）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が94.5%、35歳～39歳が72.5%である。

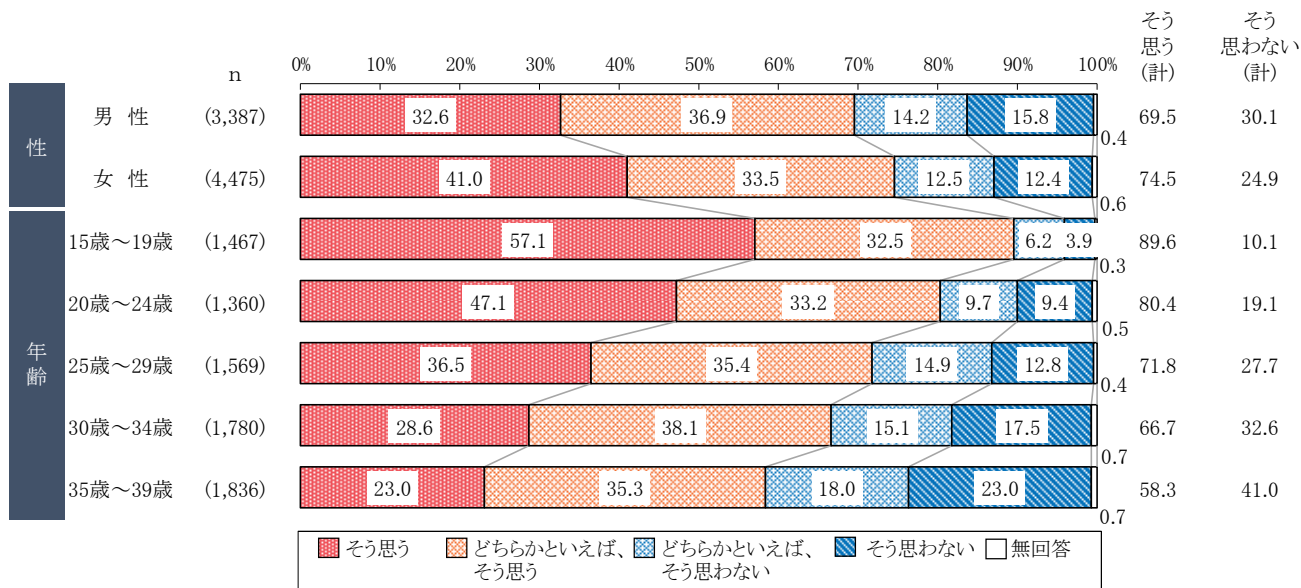
図表 2-2-3-2-4 学校で出会った友人との関わり方:楽しく話せる時がある(性別、年齢別)



学校で出会った友人との関わり方における“困ったときは助けてくれる”について、性別にみると（図表 2-2-3-2-5）、『そう思う（計）』は、女性（74.5%）が男性（69.5%）を5ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-2-5）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が89.6%、35歳～39歳が58.3%である。

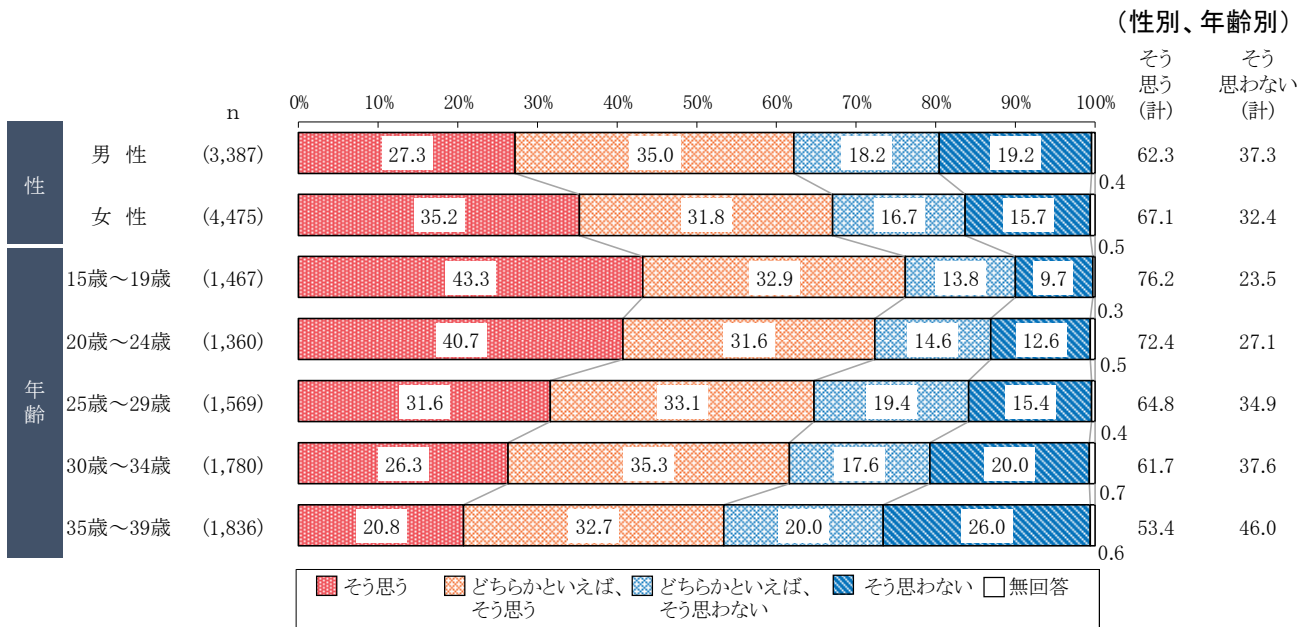
図表 2-2-3-2-5 学校で出会った友人との関わり方:困ったときは助けてくれる(性別、年齢別)



学校で出会った友人との関わり方における“他の人には言えない本音を話せることがある”について、性別にみると（図表 2-2-3-2-6）、『そう思う（計）』は、女性（67.1%）が男性（62.3%）を約5ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-2-6）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が76.2%、35歳～39歳が53.4%である。

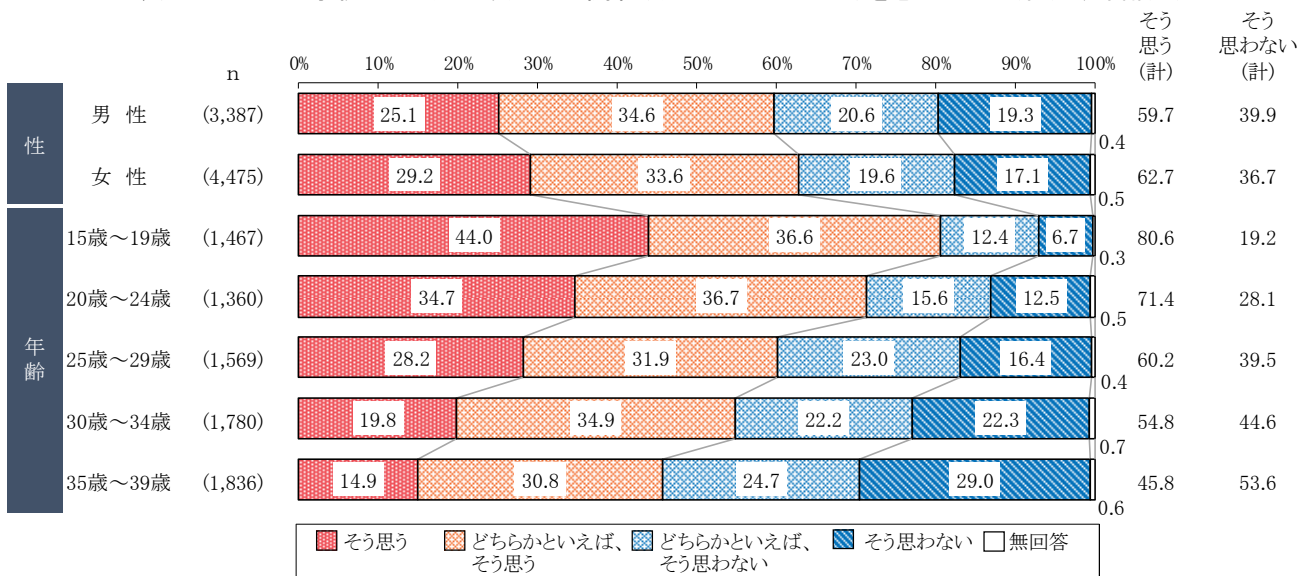
図表 2-2-3-2-6 学校で出会った友人との関わり方：他の人には言えない本音を話せることがある



学校で出会った友人との関わり方における“いつもつながりを感じている”について、性別にみると（図表 2-2-3-2-7）、『そう思う（計）』は、女性（62.7%）が男性（59.7%）を3ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-2-7）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が80.6%、35歳～39歳が45.8%である。一方、『そう思わない（計）』は、35歳～39歳では53.6%と、『そう思う（計）』の割合（45.8%）を上回っている。

図表 2-2-3-2-7 学校で出会った友人との関わり方：いつもつながりを感じている（性別、年齢別）



(3) 職場・アルバイト関係の人との関わり方 (問9)

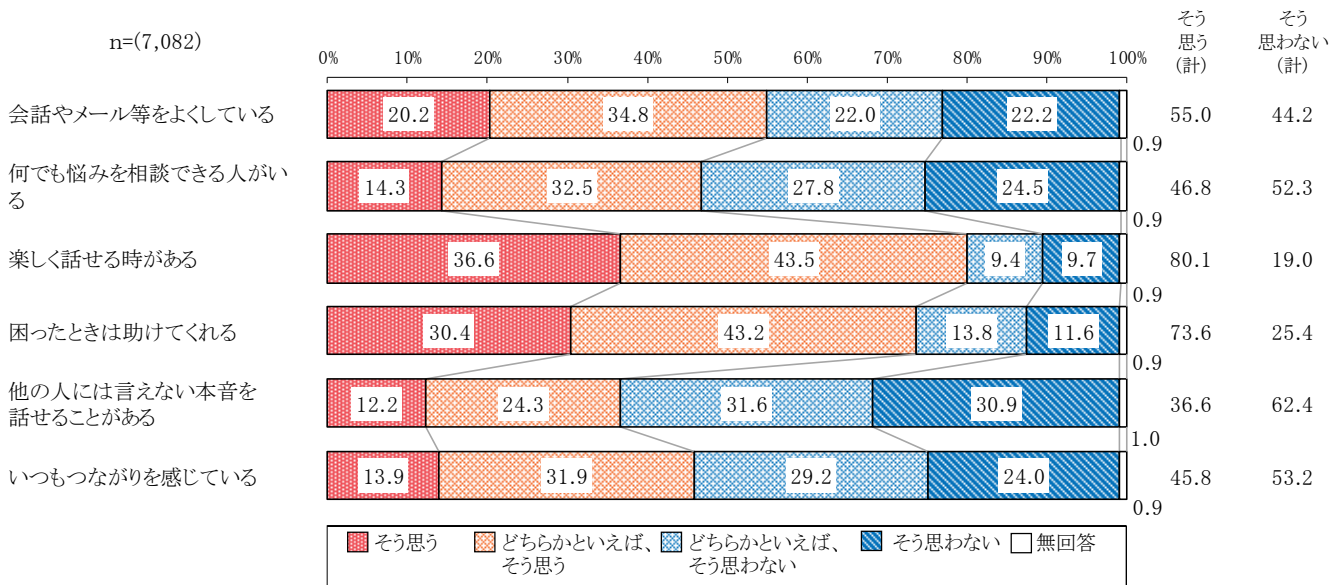
【F10で「1 現在、就業している」、「2 現在、就業しているが、休職や休業中である」、「3 現在は就業していないが、過去に就業経験がある」を選んだ方のみ、お答えください。】  
 問9 職場・アルバイト関係の人（現在及び過去の職場の同僚・上司・部下、その他仕事の関係で知り合った人など）と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。（それぞれについて、あてはまる番号を1つお答えください）

現在就業しているか、現在は就業していても過去に就業経験がある回答者（7,082人）に対し、職場・アルバイト関係の人（現在及び過去の職場の同僚・上司・部下、その他仕事の関係で知り合った人など）との関わり方について、“会話やメール等をよくしている”、“何でも悩みを相談できる人がいる”、“楽しく話せる時がある”、“困ったときは助けてくれる”、“他の人には言えない本音を話せることがある”、“いつもつながりを感じている”の6項目を聞いた（図表2-2-3-3-1）。

『そう思う（計）』の割合は、“楽しく話せる時がある”が80.1%と最も高く、次いで“困ったときは助けてくれる”が73.6%である。

一方、『そう思わない（計）』という回答の割合が高いのは、“他の人には言えない本音を話せることがある”（62.4%）、“いつもつながりを感じている”（53.2%）、“何でも悩みを相談できる人がいる”（52.3%）であり、いずれも『そう思う（計）』の割合（“本音を話せる”36.6%、“つながりを感じている”45.8%、“何でも相談できる”46.8%）を上回っている。

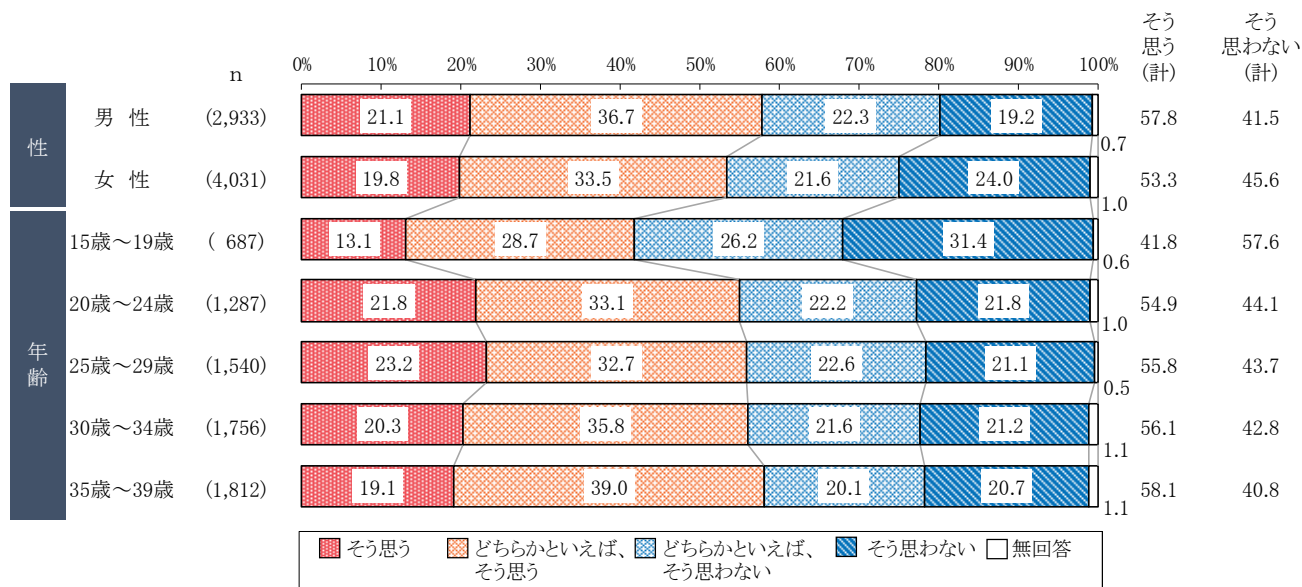
図表 2-2-3-3-1 職場・アルバイト関係の人との関わり方



職場・アルバイト関係の人との関わり方における“会話やメール等をよくしている”について、性別にみると（図表 2-2-3-3-2）、『そう思う（計）』は、男性（57.8%）が女性（53.3%）を約5ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-3-2）、『そう思う（計）』は、年齢が高い層ほど高い傾向がみられ、15歳～19歳が41.8%、35歳～39歳が58.1%である。一方、『そう思わない（計）』は、学生<sup>7</sup>が9割を占める15歳～19歳では57.6%である。

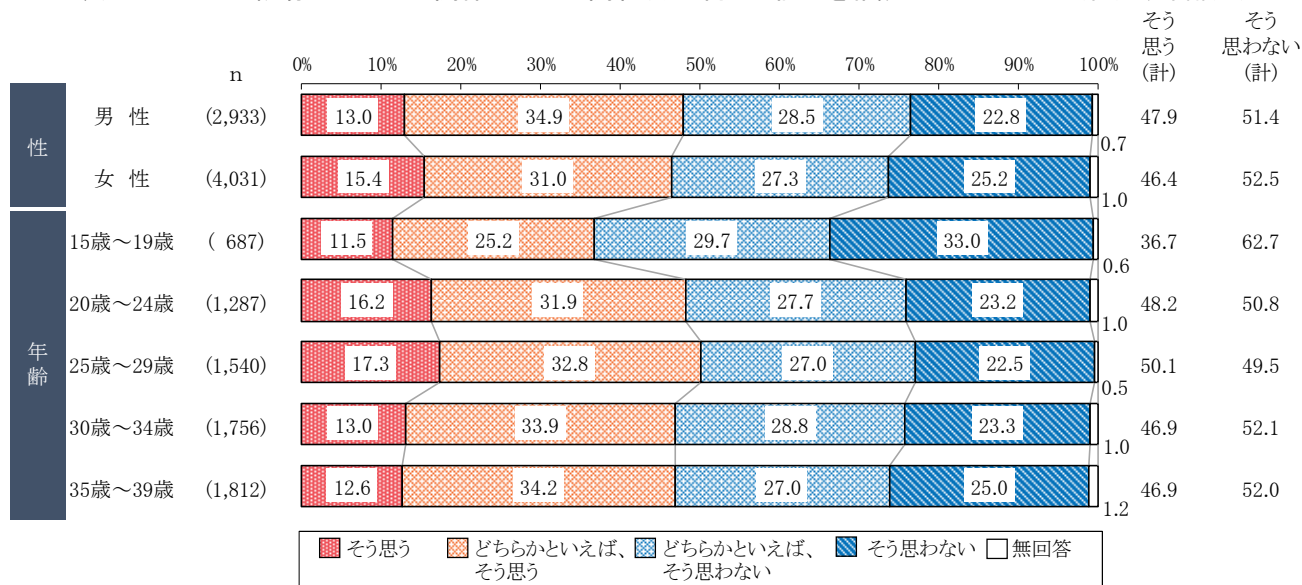
図表 2-2-3-3-2 職場・アルバイト関係の人との関わり方:会話やメール等をよくしている(性別、年齢別)



職場・アルバイト関係の人との関わり方における“何でも悩みを相談できる人がいる”について、性別にみると（図表 2-2-3-3-3）、『そう思う（計）』は、男性47.9%、女性46.4%で大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-3-3）、『そう思う（計）』は、15歳～19歳が36.7%と低く、20歳以上では5割前後（20歳～24歳48.2%、25歳～29歳50.1%、30歳～34歳46.9%、35歳～39歳46.9%）である。

図表 2-2-3-3-3 職場・アルバイト関係の人との関わり方:何でも悩みを相談できる人がいる(性別、年齢別)

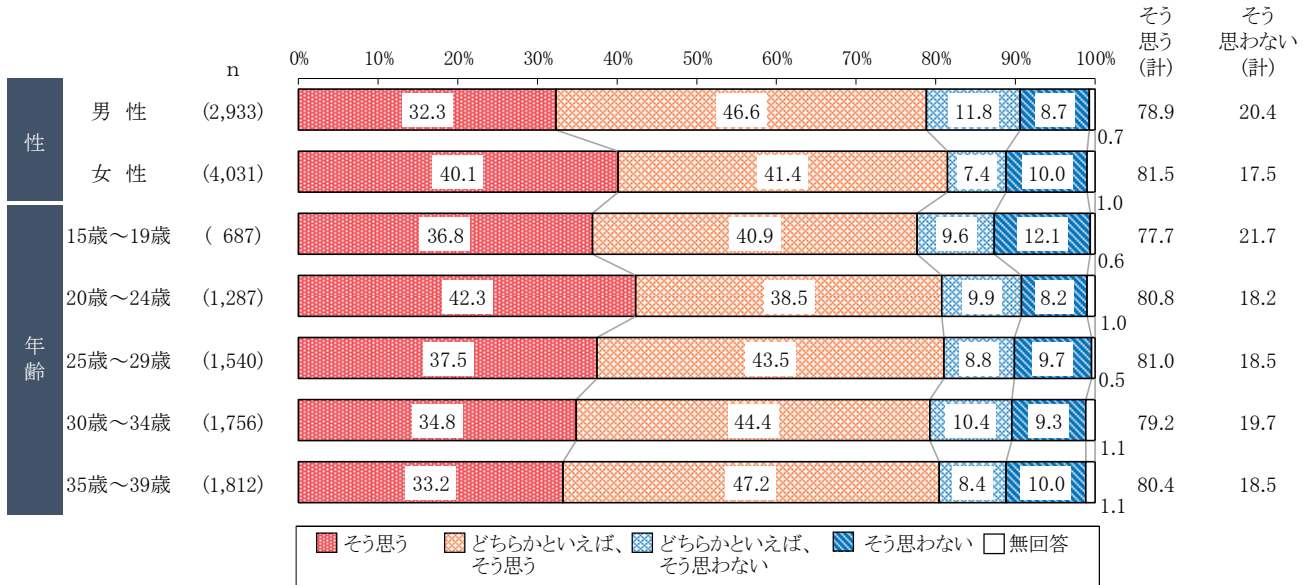


7 「学生・生徒（予備校生などを含む）」（F9 選択肢1）

職場・アルバイト関係の人との関わり方における“楽しく話せる時がある”について、性別にみると（図表 2-2-3-3-4）、『そう思う（計）』は、男性が 78.9%、女性が 81.5%で大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-3-4）、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも 8 割前後（15 歳～19 歳 77.7%、20 歳～24 歳 80.8%、25 歳～29 歳 81.0%、30 歳～34 歳 79.2%、35 歳～39 歳 80.4%）である。

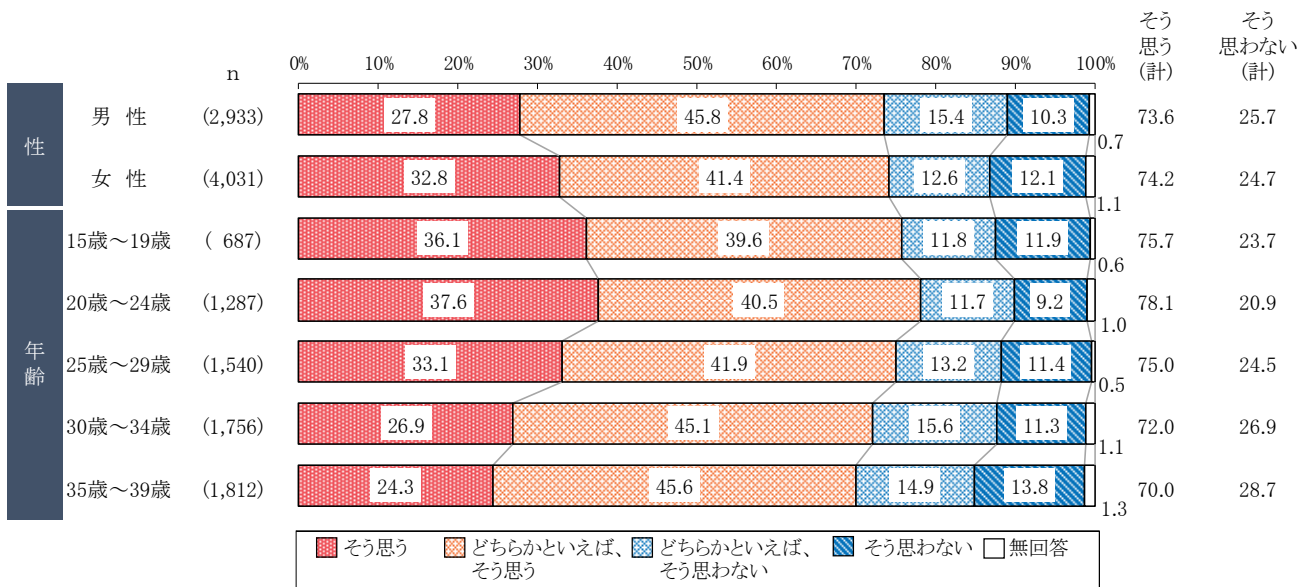
図表 2-2-3-3-4 職場・アルバイト関係の人との関わり方:楽しく話せる時がある(性別、年齢別)



職場・アルバイト関係の人との関わり方における“困ったときは助けてくれる”について、性別にみると（図表 2-2-3-3-5）、『そう思う（計）』は、男性 73.6%、女性 74.2%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-3-5）、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも 7 割台で、29 歳以下は 7 割台後半（15 歳～19 歳 75.7%、20 歳～24 歳 78.1%、25 歳～29 歳 75.0%）だが、30 代は 7 割台前半（30 歳～34 歳 72.0%、35 歳～39 歳 70.0%）である。

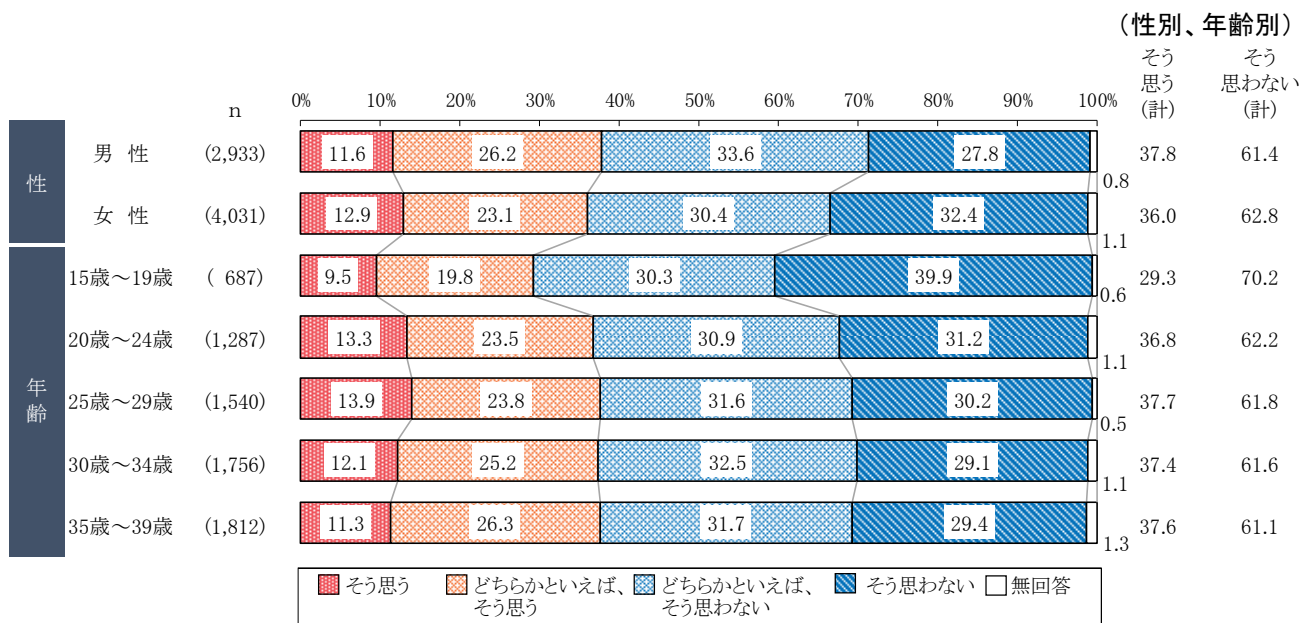
図表 2-2-3-3-5 職場・アルバイト関係の人との関わり方:困ったときは助けてくれる(性別、年齢別)



職場・アルバイト関係の人との関わり方における“他の人には言えない本音を話せることがある”について、性別にみると（図表 2-2-3-3-6）、『そう思わない（計）』は、男女とも約6割（男性 61.4%、女性 62.8%）であり、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-3-6）、『そう思わない（計）』は、15歳～19歳で約7割、20歳以上はいずれの年齢層でも約6割（20歳～24歳 62.2%、25歳～29歳 61.8%、30歳～34歳 61.6%、35歳～39歳 61.1%）である。

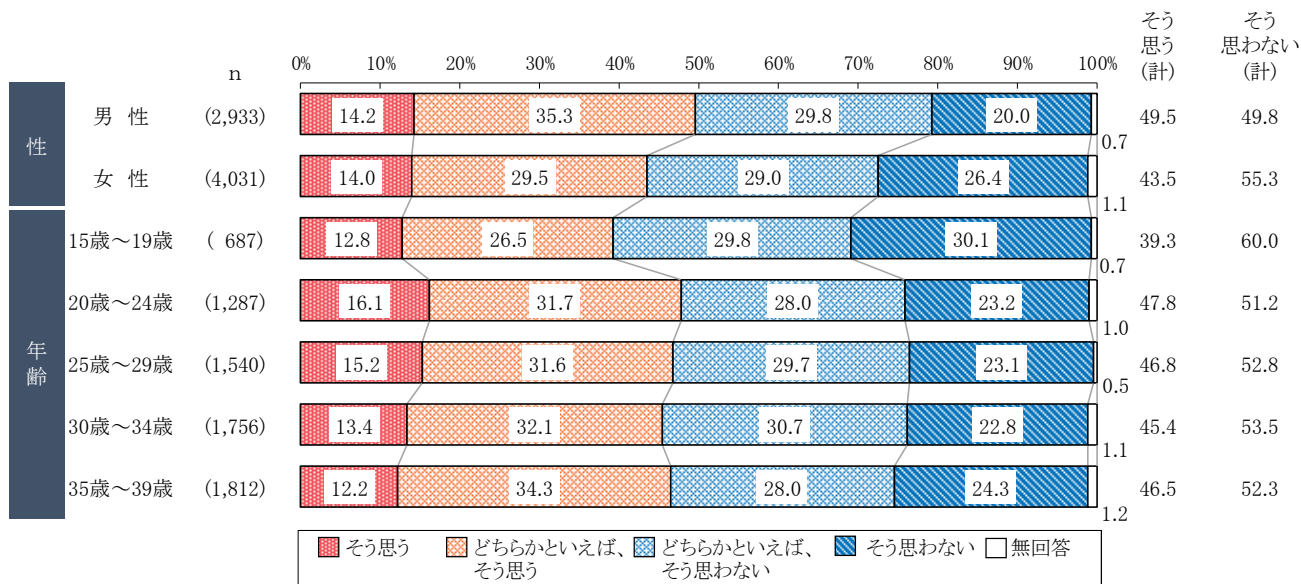
図表 2-2-3-3-6 職場・アルバイト関係の人との関わり方：他の人には言えない本音を話せることがある



職場・アルバイト関係の人との関わり方における“いつもつながりを感じている”について、性別にみると（図表 2-2-3-3-7）、『そう思わない（計）』は、女性（55.3%）が男性（49.8%）を約6ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-3-7）、『そう思わない（計）』は、いずれの年齢層でも半数を上回っており、学生が9割を占める15歳～19歳では60.0%である。

図表 2-2-3-3-7 職場・アルバイト関係の人との関わり方：いつもつながりを感じている (性別、年齢別)

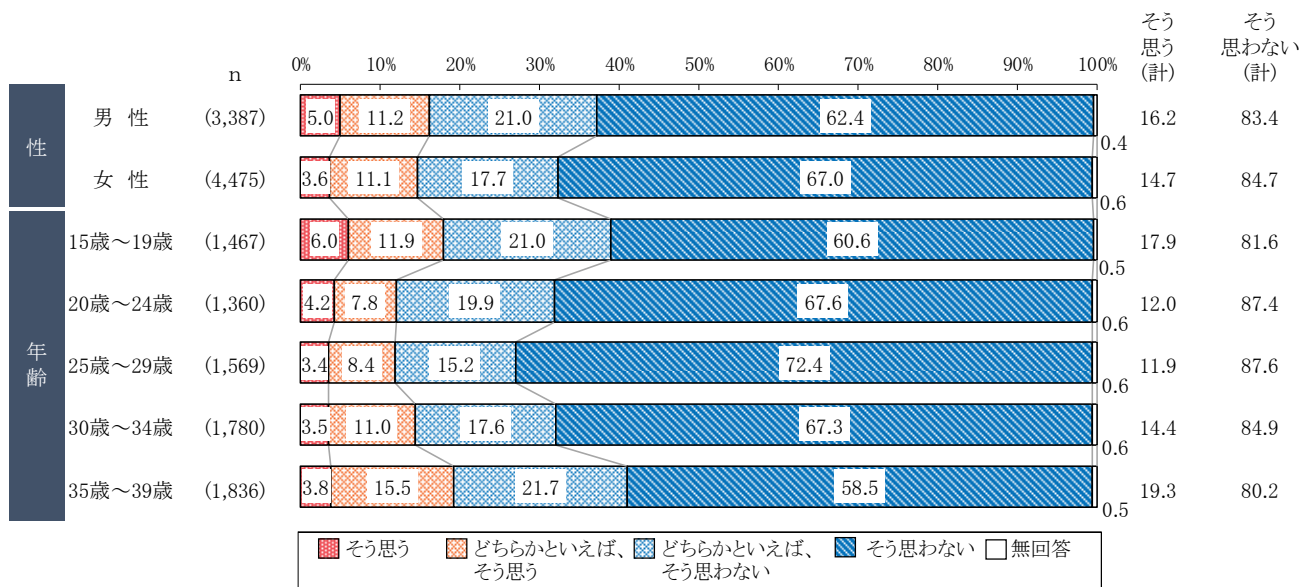




地域の人との関わり方における“会話やメール等をよくしている”について、性別にみると（図表 2-2-3-4-2）、『そう思わない（計）』は、男性 83.4%、女性 84.7%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-4-2）、『そう思わない（計）』は、いずれの年齢層でも 8 割台であり、なかでも 20 代は 9 割に近い（20 歳～24 歳 87.4%、25 歳～29 歳 87.6%）。

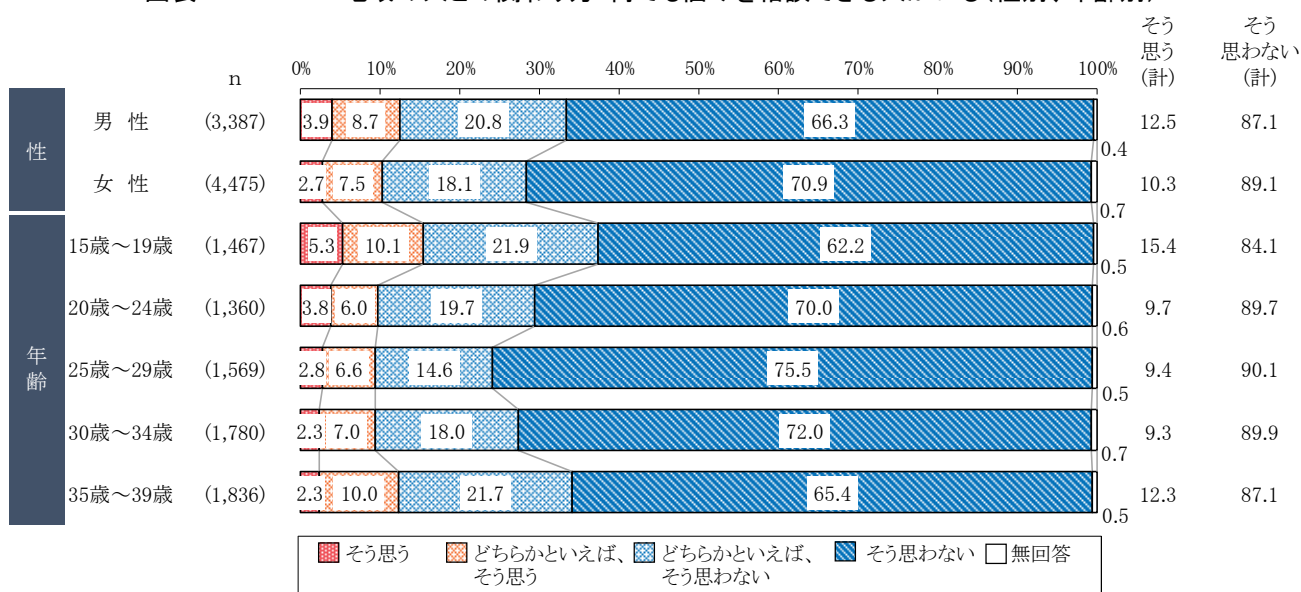
図表 2-2-3-4-2 地域の人との関わり方:会話やメール等をよくしている(性別、年齢別)



地域の人との関わり方における“何でも悩みを相談できる人がいる”について、性別にみると（図表 2-2-3-4-3）、『そう思わない（計）』は、男女とも約 9 割（男性 87.1%、女性 89.1%）を占め、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-4-3）、『そう思わない（計）』は、いずれの年齢層でも 8 割以上を占め、20 歳以上では約 9 割となっている（20 歳～24 歳 89.7%、25 歳～29 歳 90.1%、30 歳～34 歳 89.9%、35 歳～39 歳 87.1%）。

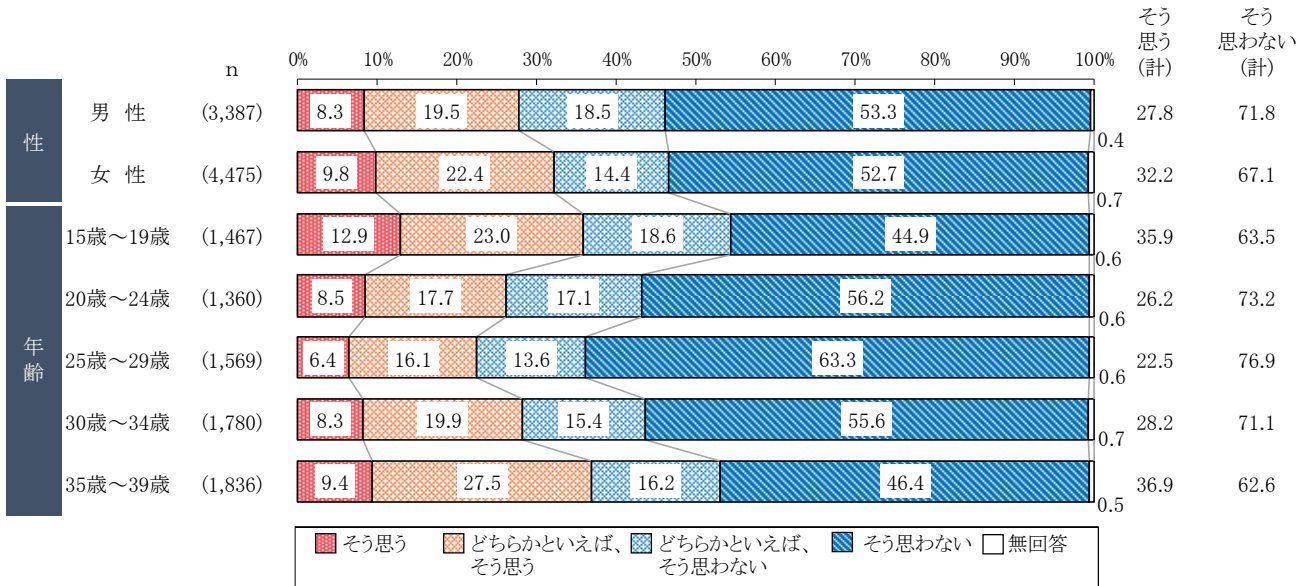
図表 2-2-3-4-3 地域の人との関わり方:何でも悩みを相談できる人がいる(性別、年齢別)



地域の人との関わり方における“楽しく話せる時がある”について、性別にみると（図表 2-2-3-4-4）、『そう思う（計）』は、女性（32.2%）が男性（27.8%）を約4ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-4-4）、『そう思う（計）』は、15歳～19歳（35.9%）と35歳～39歳（36.9%）で3割台であり、その他の年齢層は2割台（20歳～24歳 26.2%、25歳～29歳 22.5%、30歳～34歳 28.2%）である。

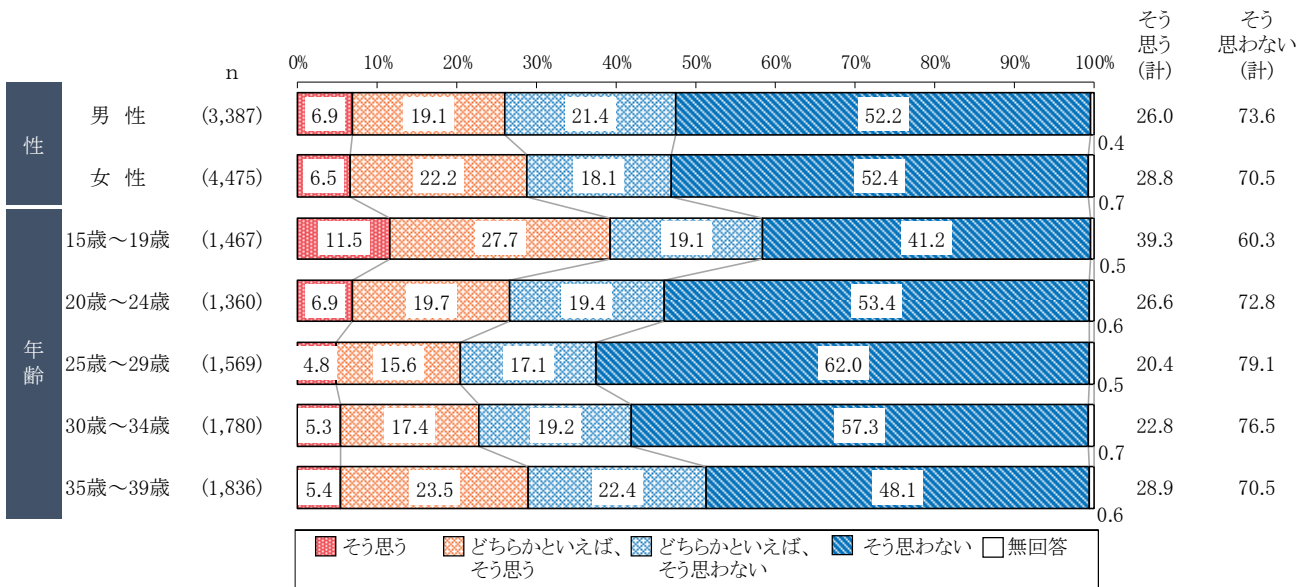
図表 2-2-3-4-4 地域の人との関わり方:楽しく話せる時がある(性別、年齢別)



地域の人との関わり方における“困ったときは助けてくれる”について、性別にみると（図表 2-2-3-4-5）、『そう思う（計）』は、男性 26.0%、女性 28.8%で大きな差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-4-5）、『そう思う（計）』は、15歳～19歳（39.3%）は約4割と高いが、20歳以上は2割台で、なかでも25歳～29歳が特に低い（20歳～24歳 26.6%、25歳～29歳 20.4%、30歳～34歳 22.8%、35歳～39歳 28.9%）。

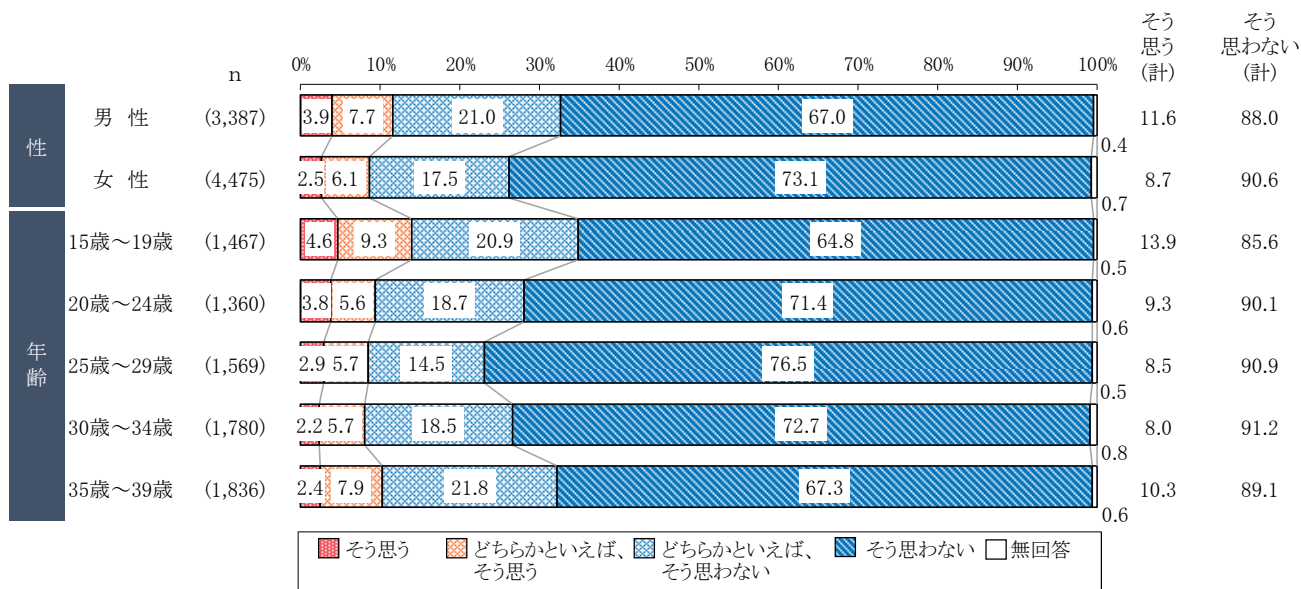
図表 2-2-3-4-5 地域の人との関わり方:困ったときは助けてくれる(性別、年齢別)



地域の人との関わり方における“他の人には言えない本音を話せることがある”について、性別にみると（図表 2-2-3-4-6）、『そう思わない（計）』は、男性 88.0%、女性 90.6%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-4-6）、『そう思わない（計）』は、いずれの年齢層でも 8 割を超え、20 歳以上はいずれの年齢層も約 9 割（20 歳～24 歳 90.1%、25 歳～29 歳 90.9%、30 歳～34 歳 91.2%、35 歳～39 歳 89.1%）である。

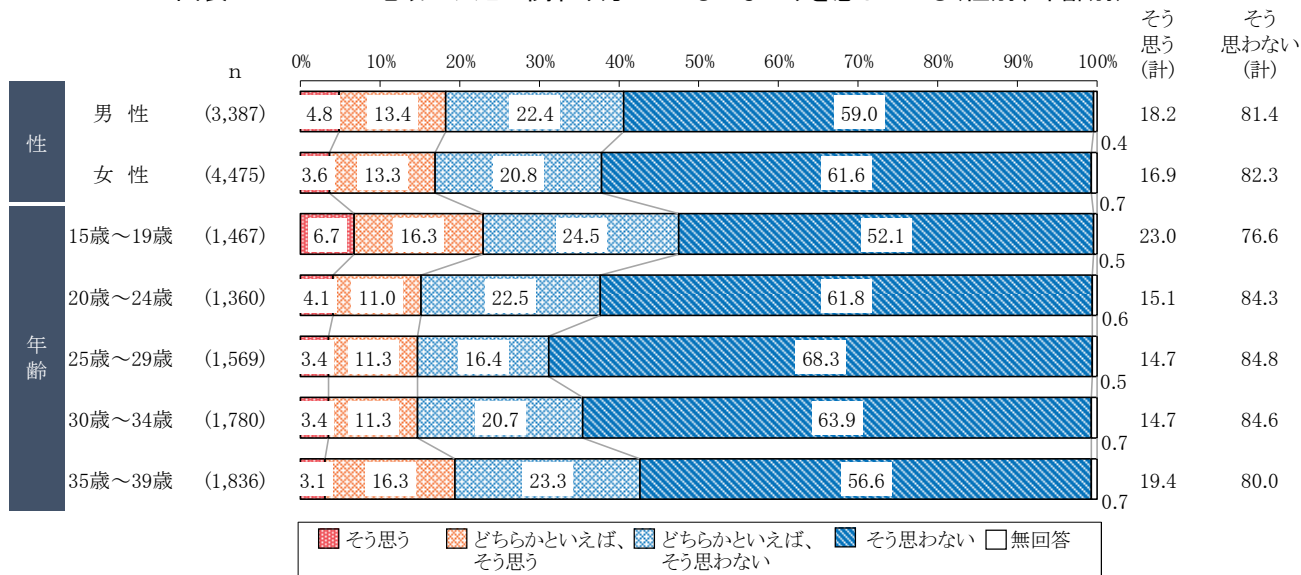
図表 2-2-3-4-6 地域の人との関わり方：他の人には言えない本音を話せることがある（性別、年齢別）



地域の人との関わり方における“いつもつながりを感じている”について、性別にみると（図表 2-2-3-4-7）、『そう思わない（計）』は、男性 81.4%、女性 82.3%で、男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-4-7）、『そう思わない（計）』は、いずれの年齢層でも 7 割以上を占め、20 歳以上では 8 割台である（20 歳～24 歳 84.3%、25 歳～29 歳 84.8%、30 歳～34 歳 84.6%、35 歳～39 歳 80.0%）。一方、『そう思う（計）』は、15 歳～19 歳は約 2 割（23.0%）であり、その他の年齢層は 1 割台（20 歳～24 歳 15.1%、25 歳～29 歳 14.7%、30 歳～34 歳 14.7%、35 歳～39 歳 19.4%）である。

図表 2-2-3-4-7 地域の人との関わり方：いつもつながりを感じている（性別、年齢別）



(5) インターネット上での他者との関わり方 (問 11)

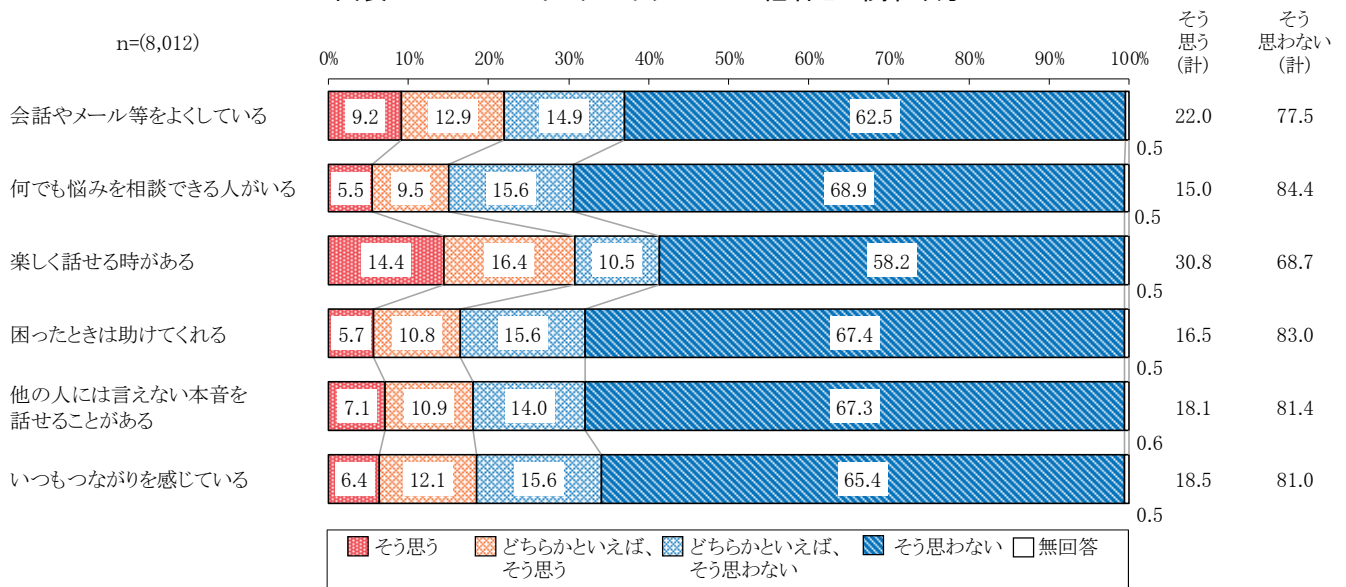
問 11 インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。（それぞれについて、あてはまる番号を1つお答えください）

回答者の他者との関わり方に関して、インターネット上での他者（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）との関わり方について、“会話やメール等をよくしている”、“何でも悩みを相談できる人がいる”、“楽しく話せる時がある”、“困ったときは助けてくれる”、“他の人には言えない本音を話せることがある”、“いつもつながりを感じている”の6項目を聞いた（図表 2-2-3-5-1）。

6項目のいずれについても、『そう思わない（計）』（「そう思わない」＋「どちらかといえば、そう思わない」）という回答が約7割以上を占め、“何でも悩みを相談できる人がいる”（84.4%），“困ったときは助けてくれる”（83.0%），“他の人には言えない本音を話せることがある”（81.4%），“いつもつながりを感じている”（81.0%）は、いずれも8割を上回っている。

一方、『そう思う（計）』（「そう思う」＋「どちらかといえば、そう思う」）という回答は、“楽しく話せる時がある”（30.8%）が最も多く、次いで“会話やメール等をよくしている”（22.0%）であり、その他の項目は1割台（“何でも悩みを相談できる人がいる”15.0%、“困ったときは助けてくれる”16.5%、“他の人には言えない本音を話せることがある”18.1%、“いつもつながりを感じている”18.5%）である。

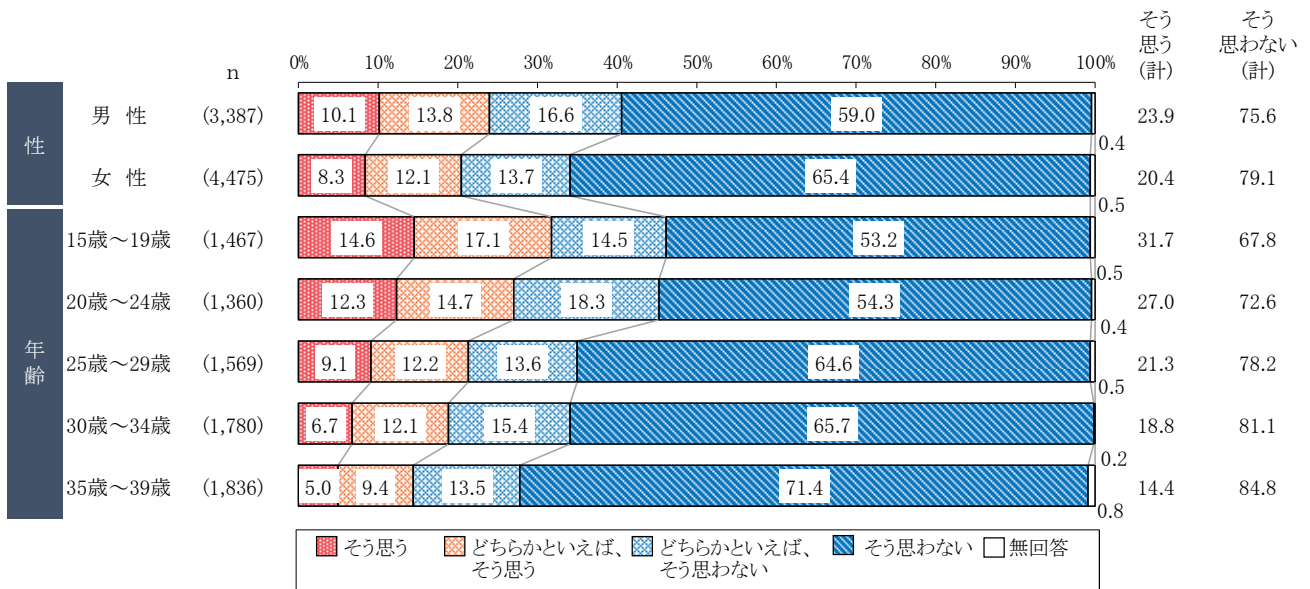
図表 2-2-3-5-1 インターネット上での他者との関わり方



インターネット上での他者との関わり方における“会話やメール等をよくしている”について、性別にみると（図表 2-2-3-5-2）、『そう思う（計）』は、男性（23.9%）が女性（20.4%）を約4ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-5-2）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が31.7%、35歳～39歳が14.4%である。

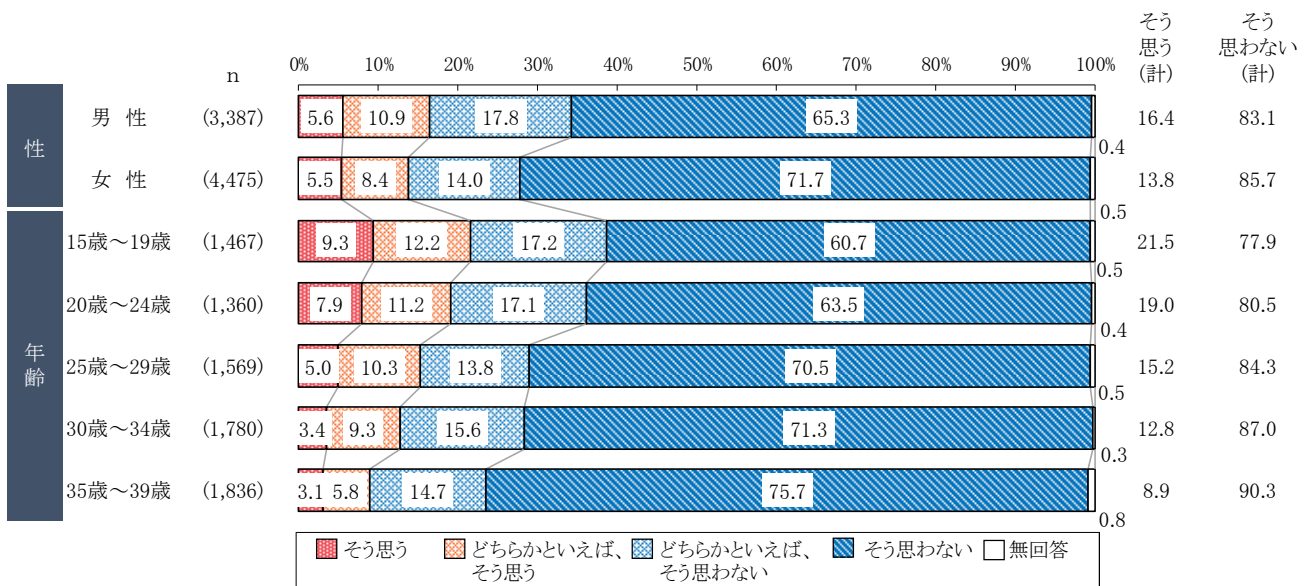
図表 2-2-3-5-2 インターネット上での他者との関わり方:会話やメール等をよくしている(性別、年齢別)



インターネット上での他者との関わり方における“何でも悩みを相談できる人がいる”について、性別にみると（図表 2-2-3-5-3）、『そう思わない（計）』は、男性が83.1%、女性が85.7%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-5-3）、『そう思わない（計）』は、年齢が高い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が77.9%、30歳以上では9割前後（30歳～34歳87.0%、35歳～39歳90.3%）となっている。

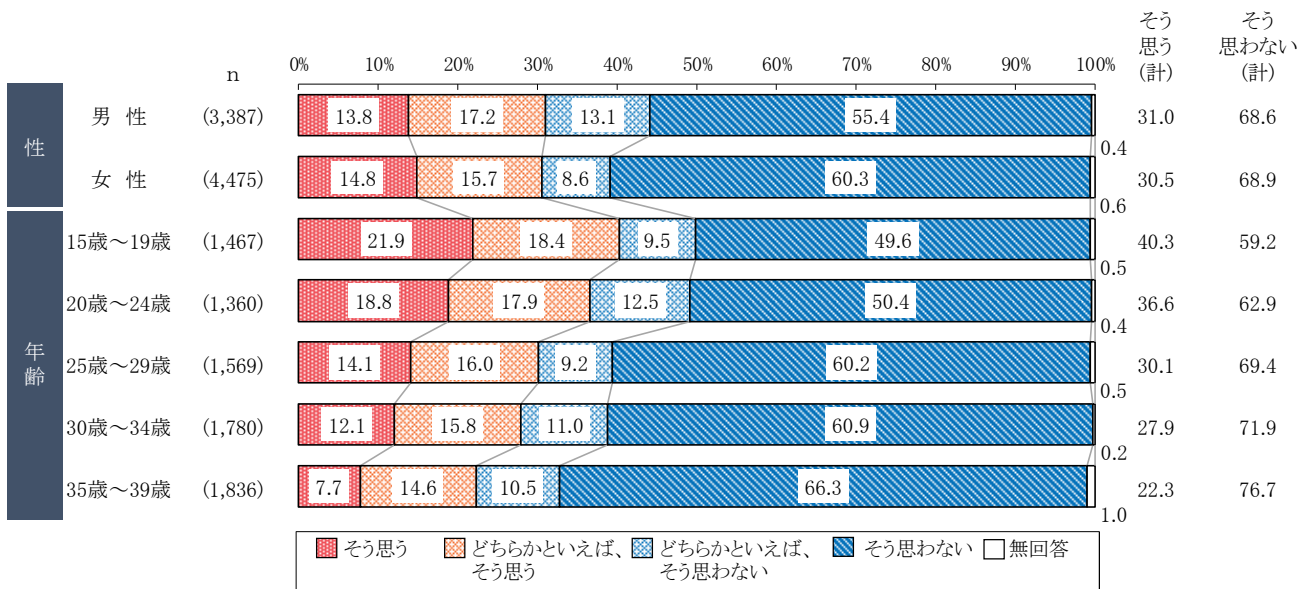
図表 2-2-3-5-3 インターネット上での他者との関わり方:何でも悩みを相談できる人がいる(性別、年齢別)



インターネット上での他者との関わり方における“楽しく話せる時がある”について、性別にみると（図表 2-2-3-5-4）、『そう思う（計）』は、男女とも約3割（男性 31.0%、女性 30.5%）であり、男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-5-4）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が40.3%、35歳～39歳が22.3%である。

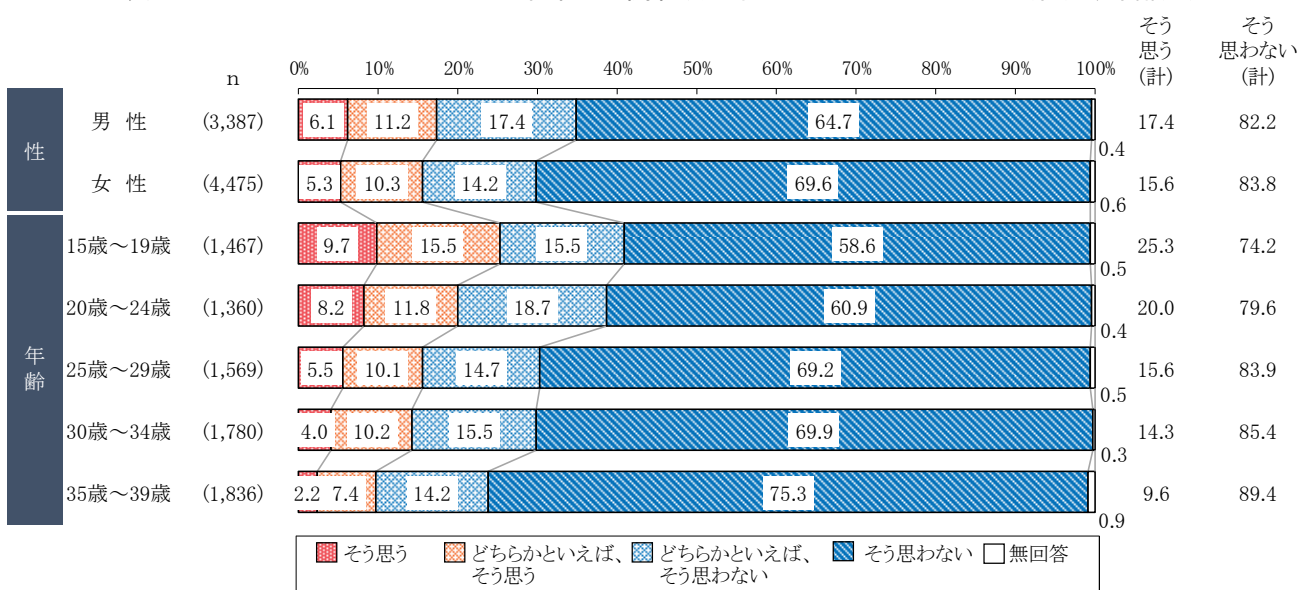
図表 2-2-3-5-4 インターネット上での他者との関わり方：楽しく話せる時がある（性別、年齢別）



インターネット上での他者との関わり方における“困ったときは助けてくれる”について、性別にみると（図表 2-2-3-5-5）、『そう思わない（計）』は、男女とも8割台（男性 82.2%、女性 83.8%）であり、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-5-5）、『そう思わない（計）』は、年齢が高い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が74.2%、35歳～39歳が89.4%である。

図表 2-2-3-5-5 インターネット上での他者との関わり方：困ったときは助けてくれる（性別、年齢別）

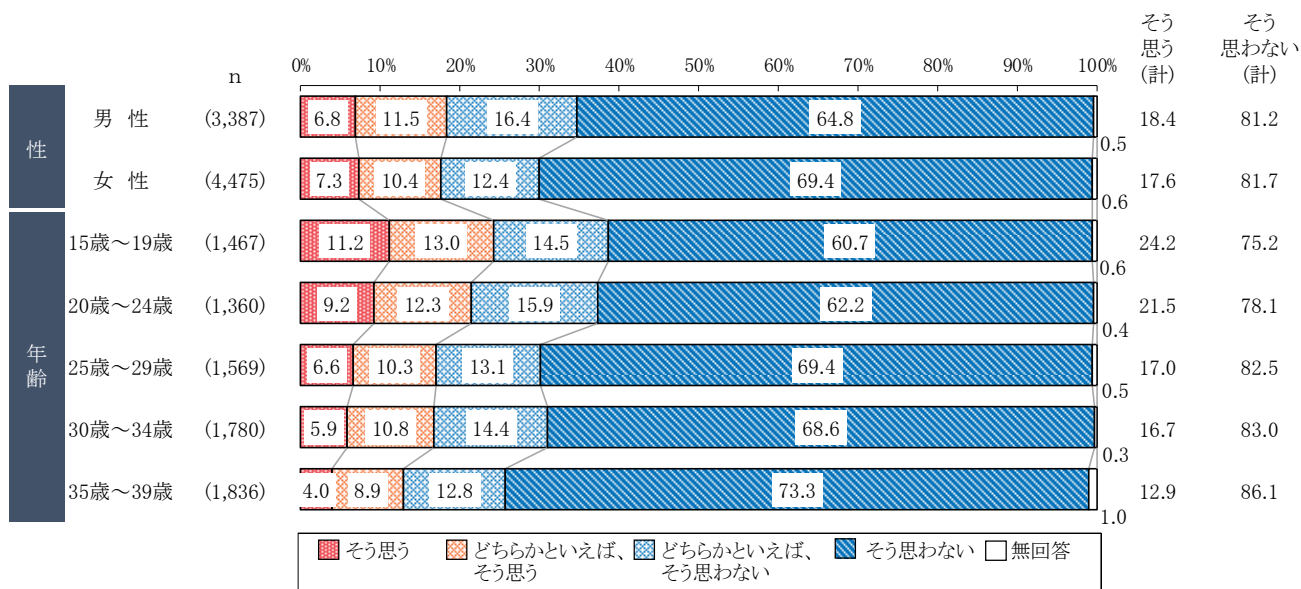


インターネット上での他者との関わり方における“他の人には言えない本音を話せることがある”について、性別にみると（図表 2-2-3-5-6）、『そう思わない（計）』は、男女とも約 8 割（男性 81.2%、女性 81.7%）で、男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-5-6）、『そう思わない（計）』は、年齢が高い層ほど高くなる傾向がみられ、15 歳～19 歳が 75.2%、35 歳～39 歳が 86.1%である。

図表 2-2-3-5-6 インターネット上での他者との関わり方:他の人には言えない本音を話せることがある

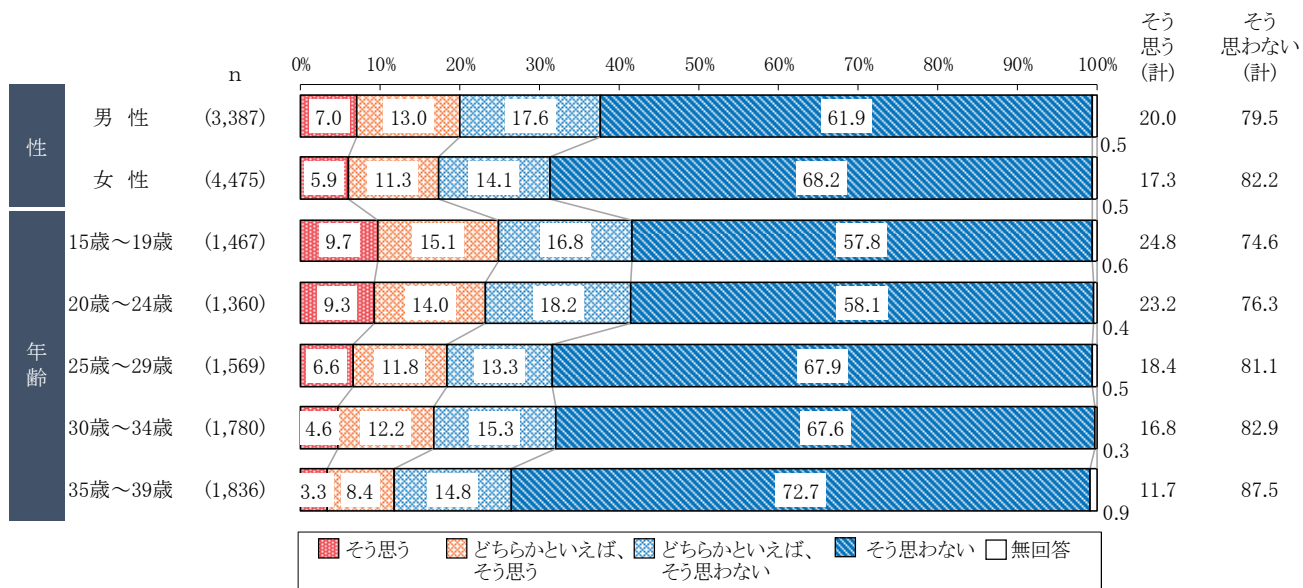
(性別、年齢別)



インターネット上での他者との関わり方における“いつもつながりを感じている”について、性別にみると（図表 2-2-3-5-7）、『そう思わない（計）』は、男女とも 8 割前後（男性 79.5%、女性 82.2%）で大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-5-7）、『そう思わない（計）』は、年齢が高い層ほど高くなる傾向がみられ、15 歳～19 歳が 74.6%、35 歳～39 歳が 87.5%である。

図表 2-2-3-5-7 インターネット上での他者との関わり方:いつもつながりを感じている(性別、年齢別)



(6) 他者との付き合い方 (問 12)

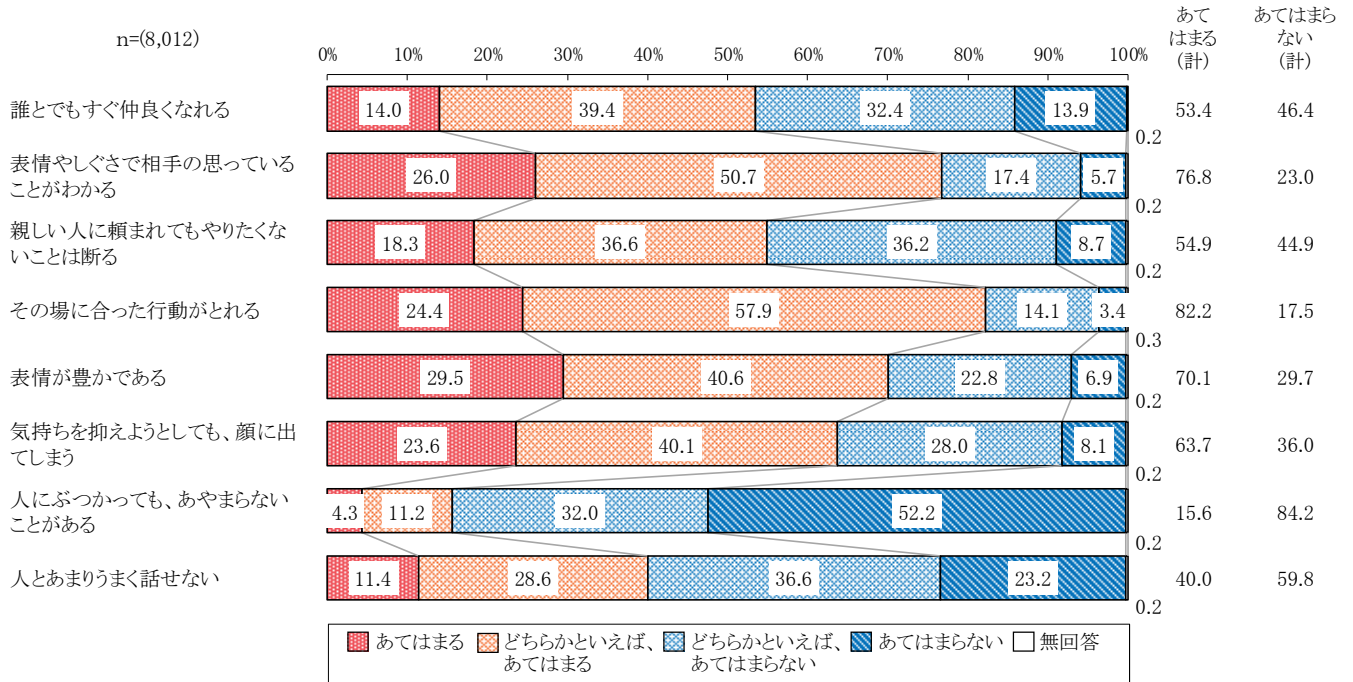
問 12 あなたは、他の人と付き合う時、次のようなことがどのくらいあてはまりますか。(それぞれについて、あてはまる番号を1つお答えください)

回答者の他者との関わり方に関して、他者との付き合い方として、“誰とでもすぐ仲良くなれる”、“表情やしぐさで相手の思っていることがわかる”、“親しい人に頼まれてもやりたくないことは断る”、“その場に合った行動がとれる”、“表情が豊かである”、“気持ちを抑えようとしても、顔に出てしまう”、“人にぶつかっても、あやまらないことがある”、“人とあまりうまく話せない”の8項目を聞いた(図表 2-2-3-6-1)。

8項目のうち、『あてはまる(計)』(「あてはまる」+「どちらかといえば、あてはまる」)という回答の割合は、“その場に合った行動がとれる”が82.2%と最も高く、次いで“表情やしぐさで相手の思っていることがわかる”が76.8%である。

一方、『あてはまらない(計)』(「あてはまらない」+「どちらかといえば、あてはまらない」)という回答の割合は、“人にぶつかっても、あやまらないことがある”が84.2%と、その他の項目よりもとりわけ高い。

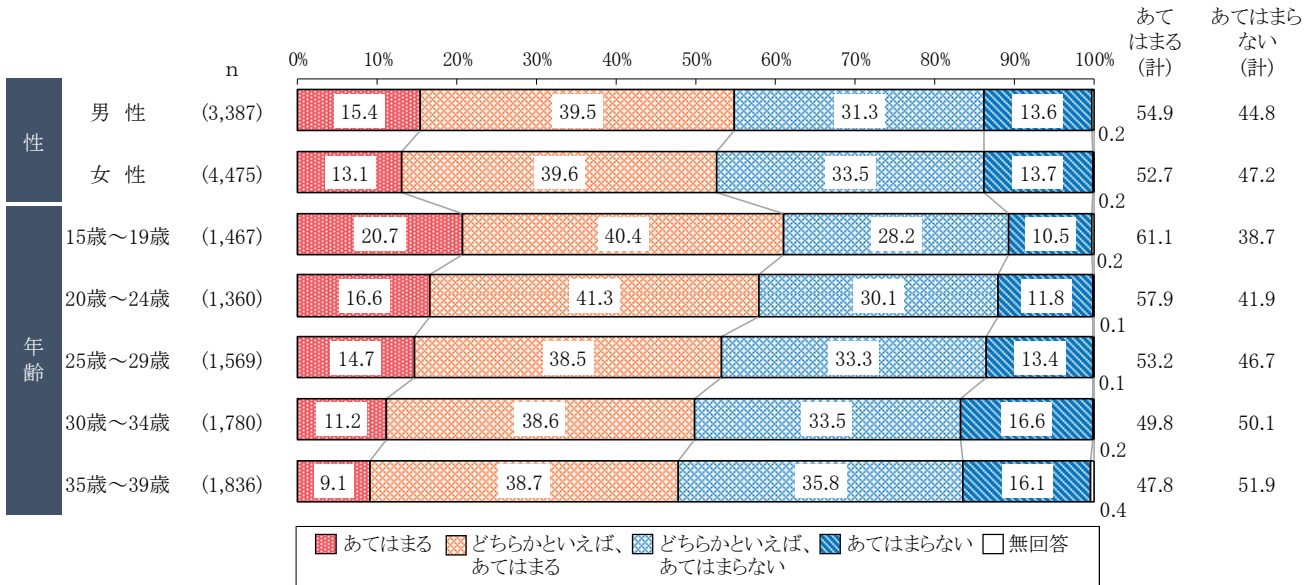
図表 2-2-3-6-1 他者との付き合い方



“誰とでもすぐ仲良くなれる”について、性別にみると（図表 2-2-3-6-2）、『あてはまる（計）』は、男女とも5割台（男性54.9%、女性52.7%）で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-6-2）、『あてはまる（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が61.1%、35歳～39歳が47.8%である。

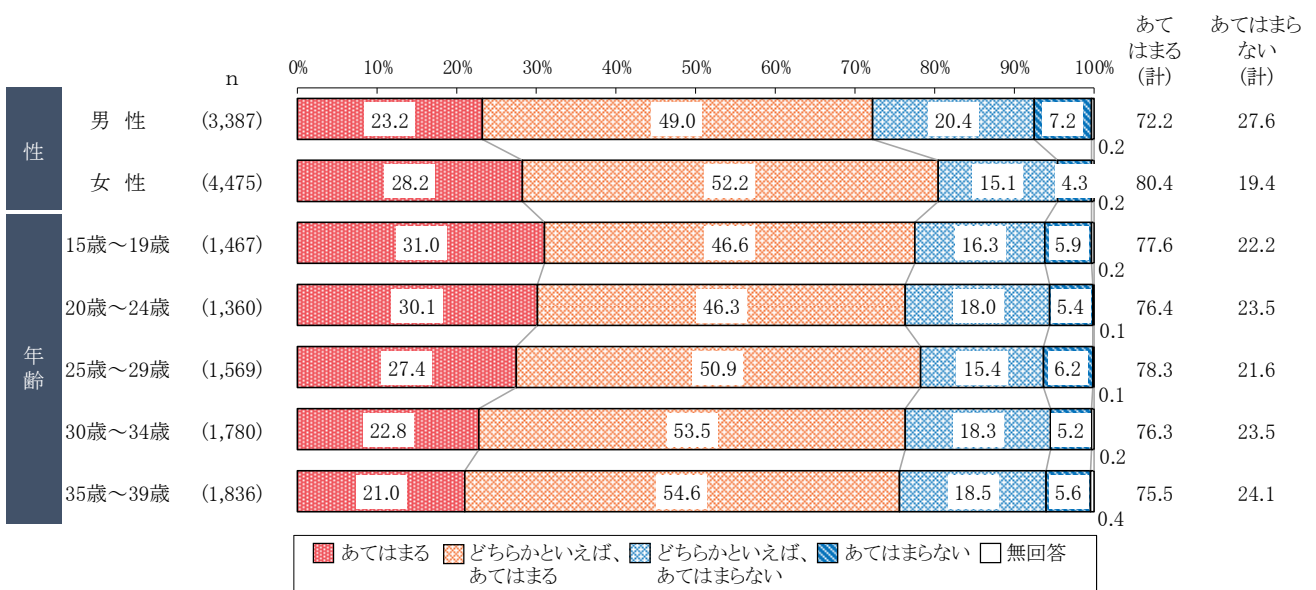
図表 2-2-3-6-2 他者との付き合い方：誰とでもすぐ仲良くなれる（性別、年齢別）



“表情やしぐさで相手の思っていることがわかる”について、性別にみると（図表 2-2-3-6-3）、『あてはまる（計）』は、女性（80.4%）が男性（72.2%）を約8ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-6-3）、『あてはまる（計）』は、いずれの年齢層でも7割台後半であるが、「あてはまる」は、年齢層が低いほど高い傾向がみられ、15歳～19歳が31.0%、35歳～39歳が21.0%である。

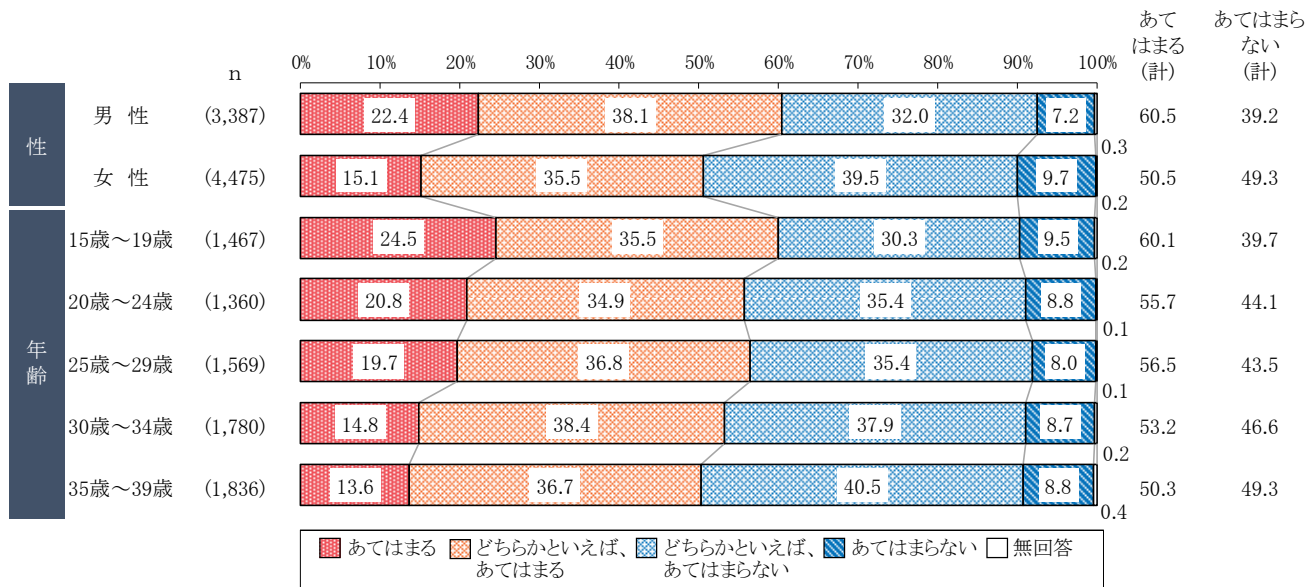
図表 2-2-3-6-3 他者との付き合い方：表情やしぐさで相手の思っていることがわかる（性別、年齢別）



“親しい人に頼まれてもやりたくないことは断る”について、性別にみると（図表 2-2-3-6-4）、『あてはまる（計）』は、男性（60.5%）が女性（50.5%）を10ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-6-4）、『あてはまる（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が60.1%、35歳～39歳が50.3%である。

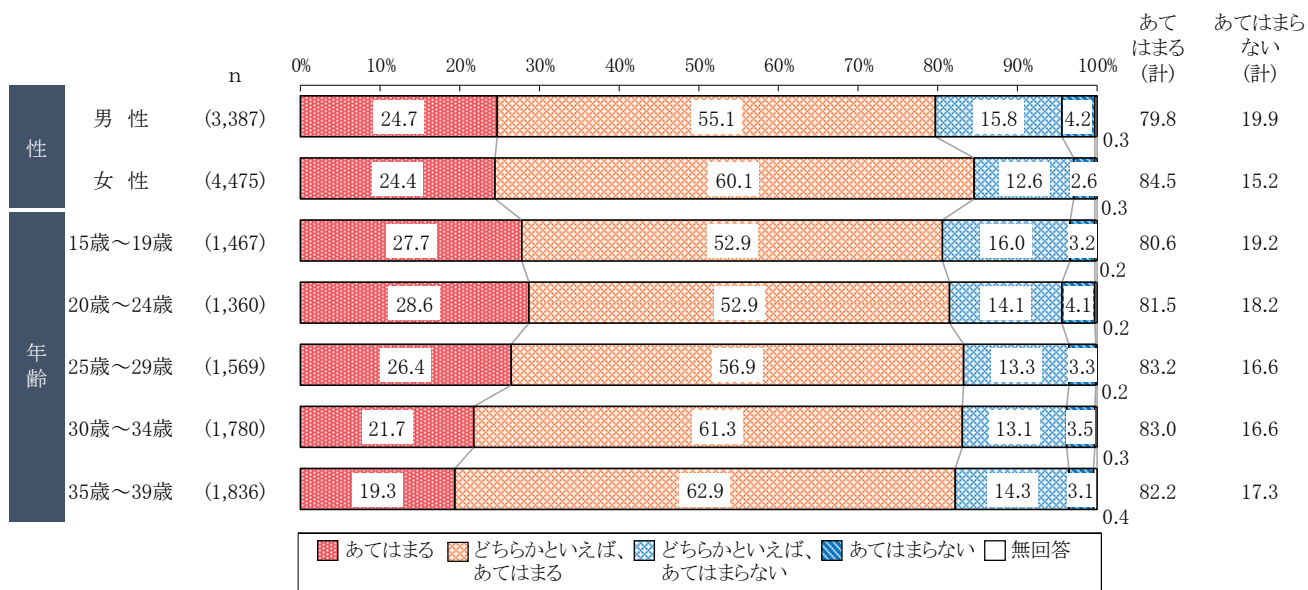
図表 2-2-3-6-4 他者との付き合い方：親しい人に頼まれてもやりたくないことは断る（性別、年齢別）



“その場に合った行動がとれる”について、性別にみると（図表 2-2-3-6-5）、『あてはまる（計）』は、女性（84.5%）が男性（79.8%）を約5ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-6-5）、『あてはまる（計）』は、いずれの年齢層でも8割強で、大きな差はみられないが、「あてはまる」は、29歳以下は2割台後半のところ、30代では2割前後である。

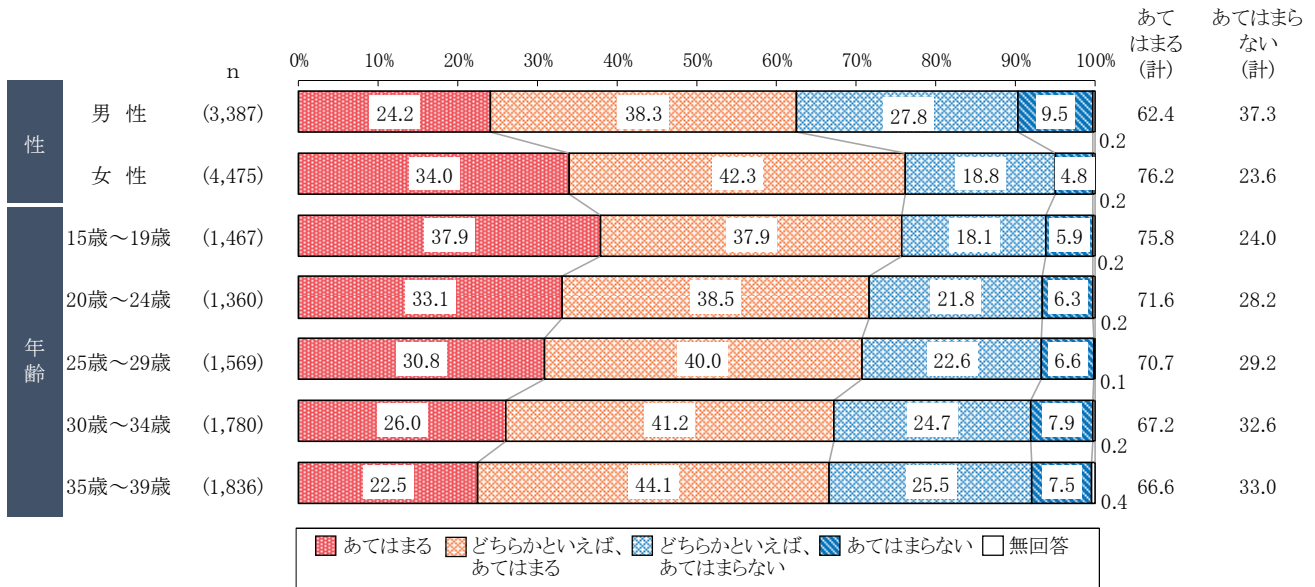
図表 2-2-3-6-5 他者との付き合い方：その場に合った行動がとれる（性別、年齢別）



“表情が豊かである”について、性別にみると(図表 2-2-3-6-6)、『あてはまる(計)』は、女性(76.2%)が男性(62.4%)を約14ポイント上回っている。

年齢別にみると(図表 2-2-3-6-6)、『あてはまる(計)』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳~19歳が75.8%、35歳~39歳が66.6%である。

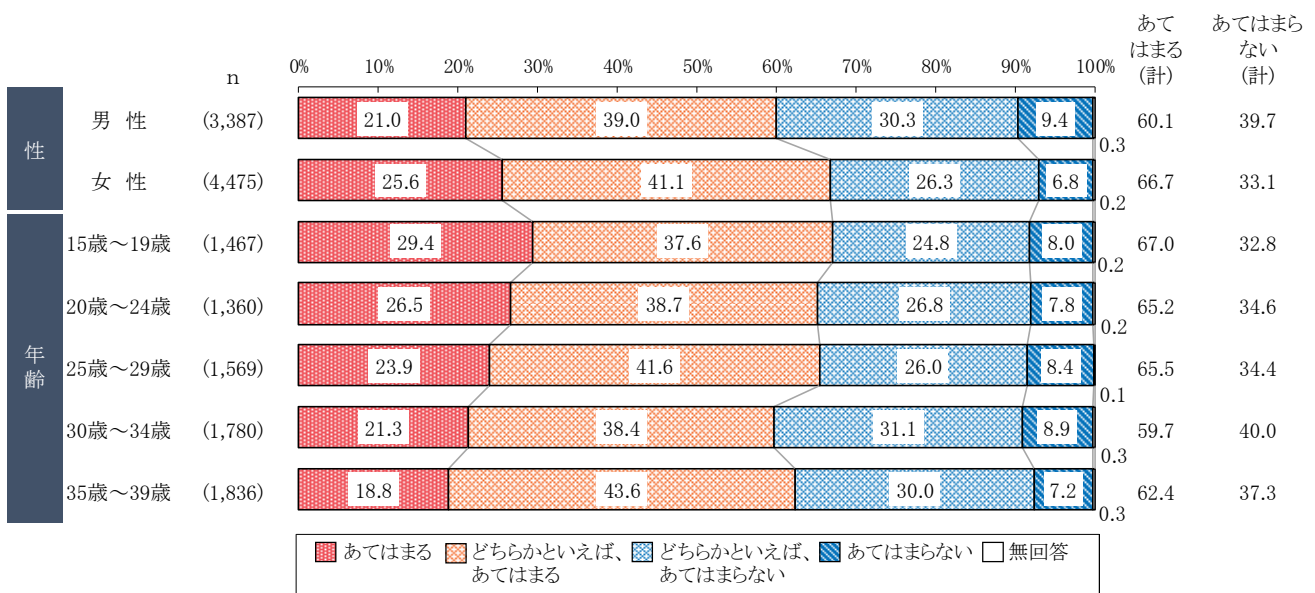
図表 2-2-3-6-6 他者との付き合い方:表情が豊かである(性別、年齢別)



“気持ちを抑えようとしても、顔に出てしまう”について、性別にみると(図表 2-2-3-6-7)、『あてはまる(計)』は、女性(66.7%)が男性(60.1%)を約7ポイント上回っている。

年齢別にみると(図表 2-2-3-6-7)、『あてはまる(計)』は、いずれの年齢層でも約6割台で、29歳以下では6割台後半(15歳~19歳67.0%、20歳~24歳65.2%、25歳~29歳65.5%)だが、30代では6割前後(30歳~34歳59.7%、35歳~39歳62.4%)である。

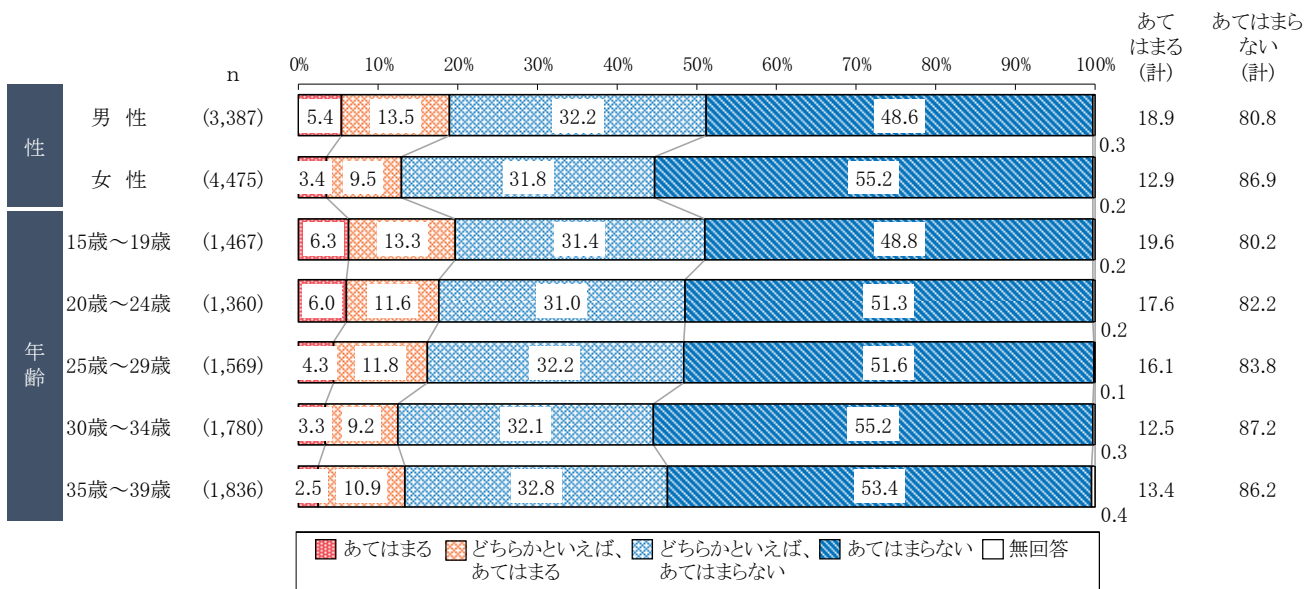
図表 2-2-3-6-7 他者との付き合い方:気持ちを抑えようとしても、顔に出てしまう(性別、年齢別)



“人にぶつかっても、あやまらないことがある”について、性別にみると（図表 2-2-3-6-8）、『あてはまらない（計）』は、女性（86.9%）が男性（80.8%）を約6ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-3-6-8）、『あてはまらない（計）』は、いずれの年齢層でも8割台で、29歳以下は8割台前半（15歳～19歳 80.2%、20歳～24歳 82.2%、25歳～29歳 83.8%）のところ、30代では8割台後半（30歳～34歳 87.2%、35歳～39歳 86.2%）である。

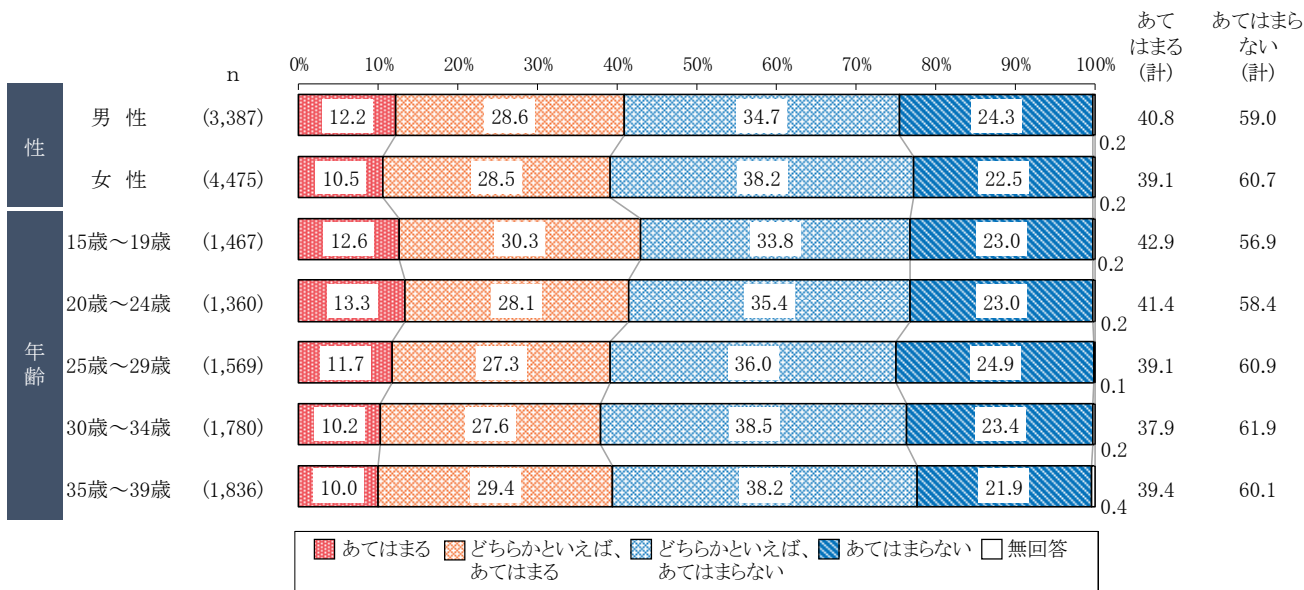
図表 2-2-3-6-8 他者との付き合い方：人にぶつかっても、あやまらないことがある（性別、年齢別）



“人とあまりうまく話せない”について、性別にみると（図表 2-2-3-6-9）、『あてはまる（計）』は、男女とも約4割（男性 40.8%、女性 39.1%）であり、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-3-6-9）、『あてはまる（計）』は、いずれの年齢層でも4割前後で大きな差はみられない。

図表 2-2-3-6-9 他者との付き合い方：人とあまりうまく話せない（性別、年齢別）



## 4. 社会参加

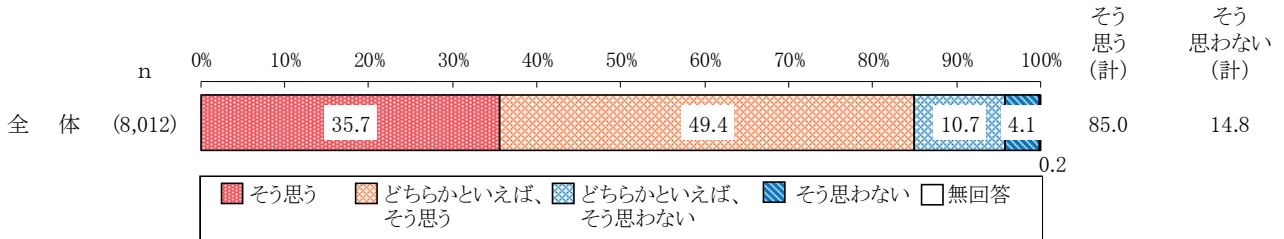
### (1) 社会貢献への意欲 (問 13)

問 13 あなたは、「社会のために役立つことをしたい」と思いますか。(1つだけ)

回答者の社会参加に関する自己意識として、“社会のために役立つことをしたい”という社会貢献意欲を聞いた(図表 2-2-4-1-1)。

「そう思う」という回答は 35.7%で、「どちらかといえば、そう思う」(49.4%)を合わせると、8割半が、自身の社会貢献意欲に対して肯定的な認識を示している。

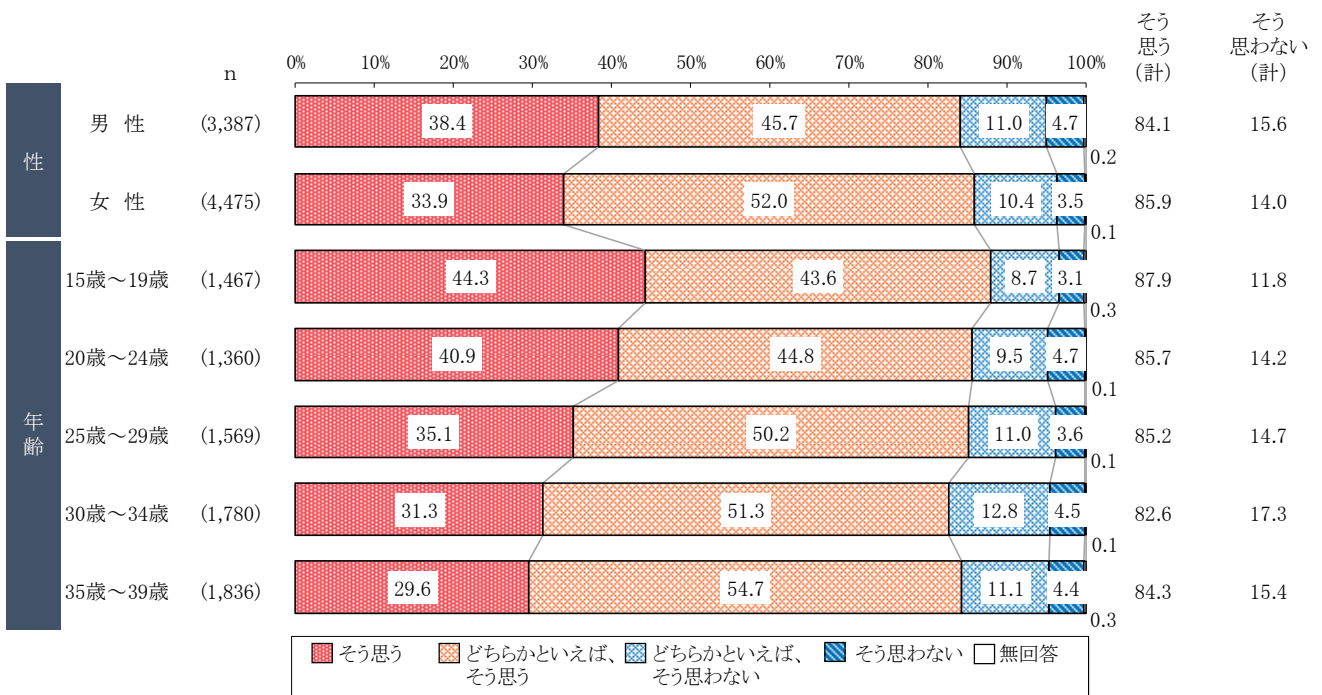
図表 2-2-4-1-1 社会貢献への意欲



性別にみると(図表 2-2-4-1-2)、『そう思う (計)』(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う’)という回答は、男性 84.1%、女性 85.9%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると(図表 2-2-4-1-2)、『そう思う (計)』は、いずれの年齢層でも 8割以上を占める。15歳~19歳が 87.9%で最も高く、30歳~34歳(82.6%)まで年齢層が上がるほど低くなり、35歳~39歳では 84.3%となる。

図表 2-2-4-1-2 社会貢献への意欲(性別、年齢別)



## 5. 将来像

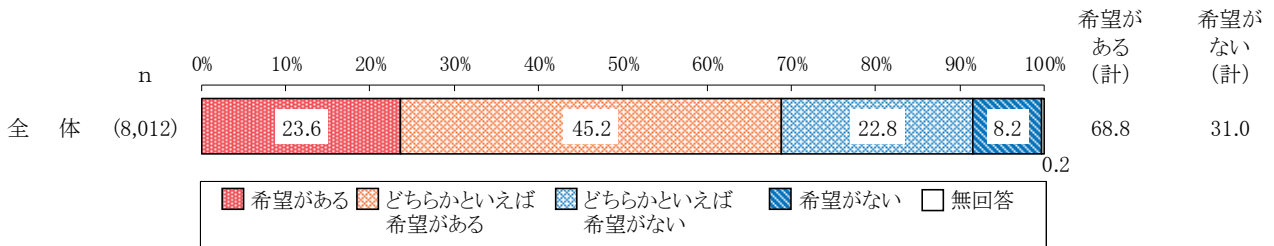
(1) 将来への希望 (問 14)

問 14 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。(1つだけ)

将来像に関して、“自分の将来について明るい希望を持っているか”を聞いた(図表 2-2-5-1-1)。

「希望がある」という回答は 23.6%で、「どちらかといえば希望がある」(45.2%)を合わせると、7割近くが、自身の将来への希望について肯定的な認識を示している。

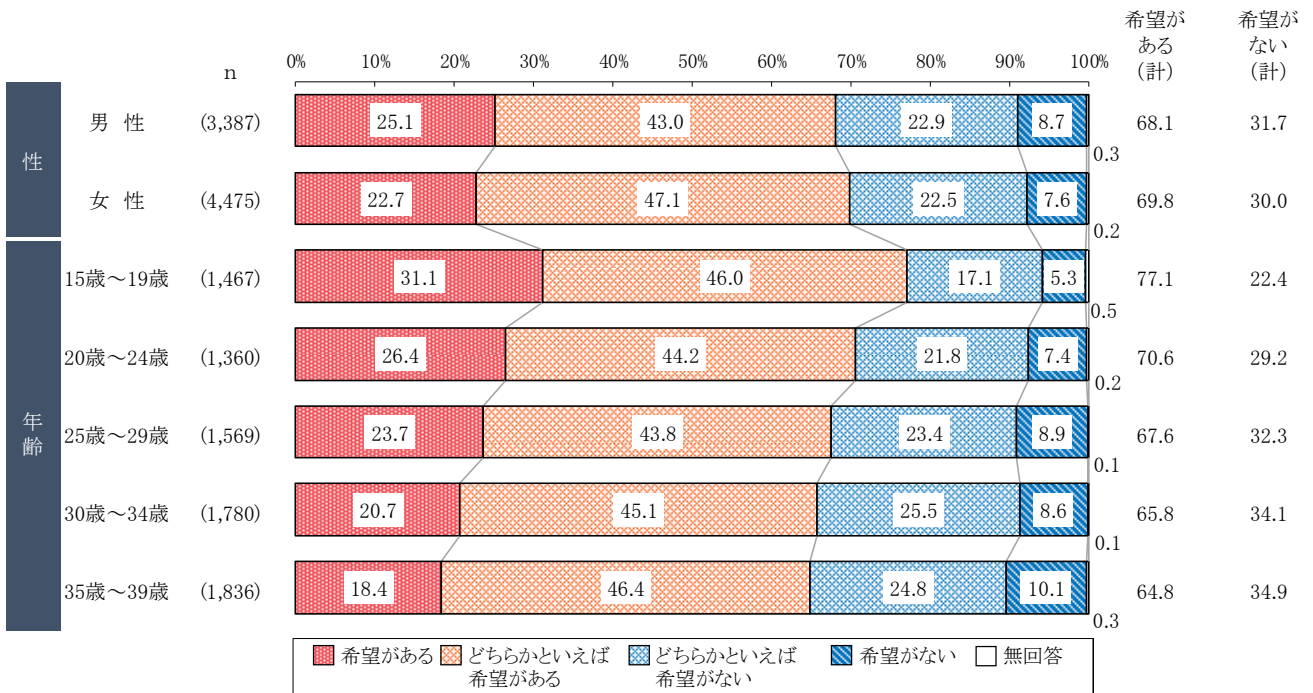
図表 2-2-5-1-1 将来への希望



性別にみると(図表 2-2-5-1-2)、『希望がある (計)』(「希望がある」+「どちらかといえば希望がある」)という回答は、男性 68.1%、女性 69.8%で大きな男女差はみられない。

年齢別にみると(図表 2-2-5-1-2)、『希望がある (計)』は、年齢層が低いほど高くなっており、15歳～19歳は 77.1%、35歳～39歳は 64.8%である。

図表 2-2-5-1-2 将来への希望(性別、年齢別)



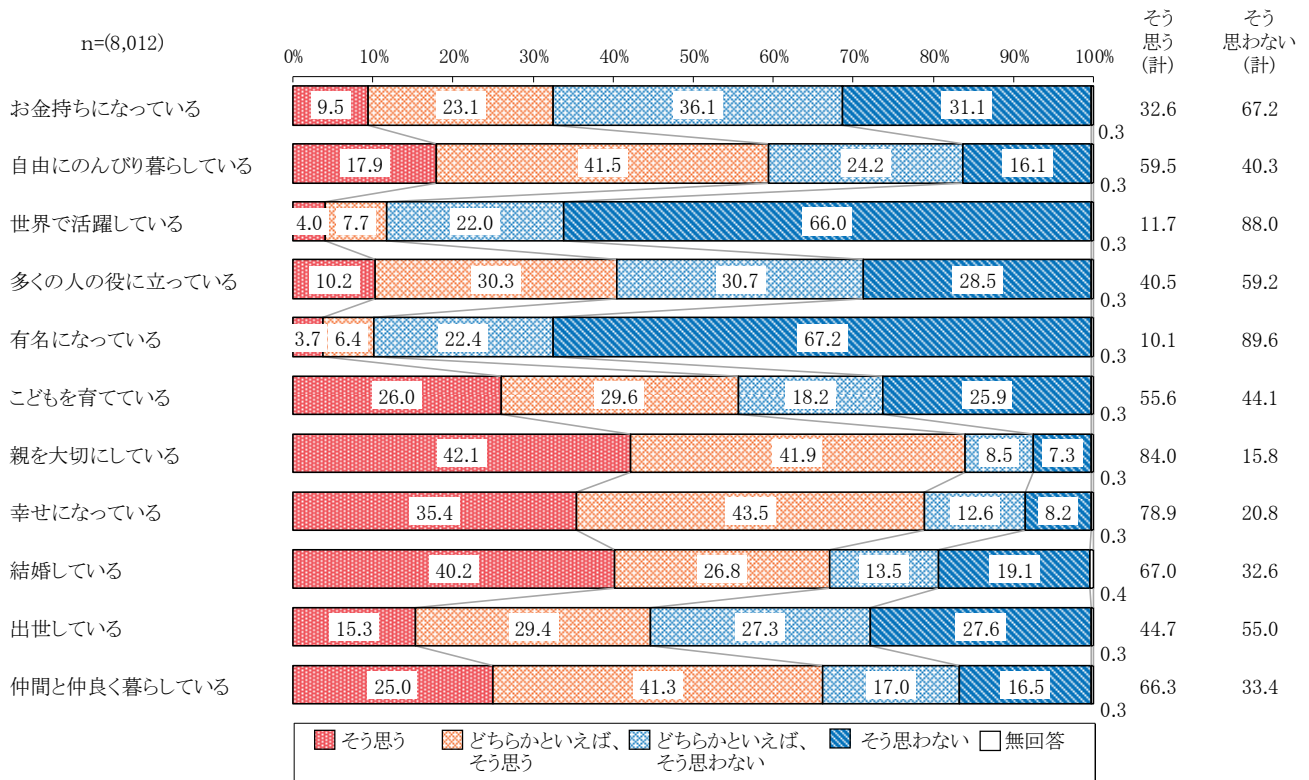
(2) ポスト青年期の自己像 (問 15)

問 15 あなたは20年後、どのようになっていると思いますか。(それぞれについて、あてはまる番号を1つお答えください)

ポスト青年期の自己像に関して、20年後の自身のイメージとして、“お金持ちになっている”、“自由にのんびり暮らしている”、“世界で活躍している”、“多くの人の役に立っている”、“有名になっている”、“子どもを育てている”、“親を大切にしている”、“幸せになっている”、“結婚している”、“出世している”、“仲間と仲良く暮らしている”の11項目を聞いた(図表2-2-5-2-1)。

11項目のうち、『そう思う(計)』(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」)という回答の割合は、“親を大切にしている”(84.0%)が最も高く、次いで“幸せになっている”(78.9%)である。一方、『そう思わない(計)』(「そう思わない」+「どちらかといえば、そう思わない」)という回答の割合は、“有名になっている”(89.6%)が最も高く、次いで“世界で活躍している”(88.0%)であり、いずれも約9割を占める。

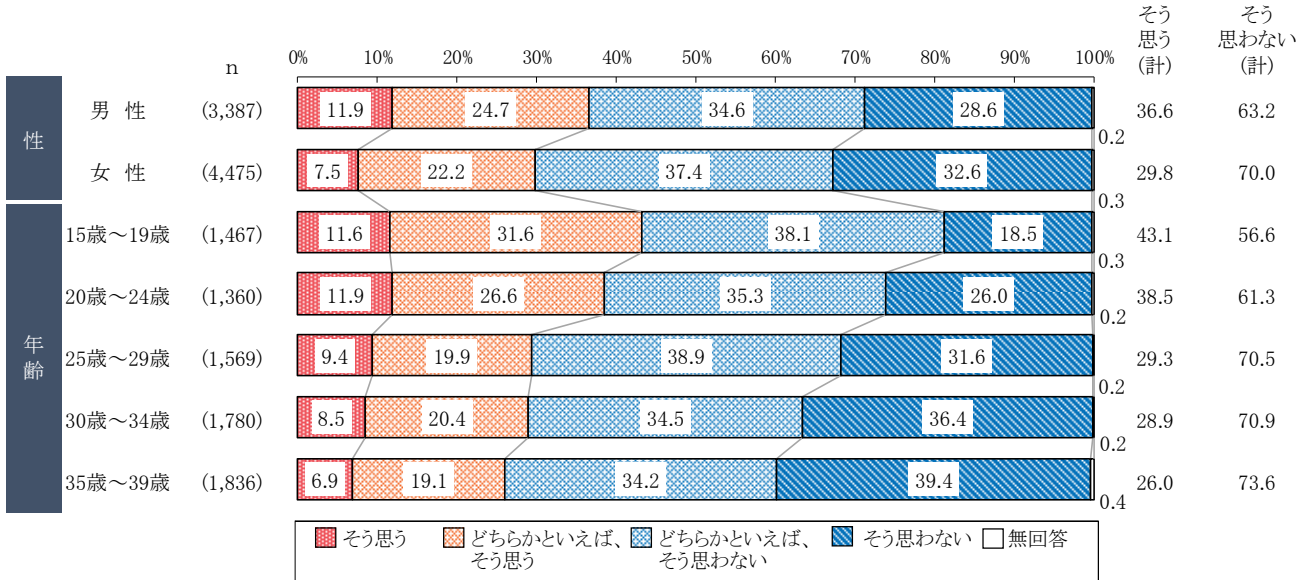
図表 2-2-5-2-1 ポスト青年期の自己像



“お金持ちになっている”について、性別にみると（図表 2-2-5-2-2）、『そう思う（計）』は、男性（36.6%）が女性（29.8%）を約7ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-5-2-2）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が43.1%、35歳～39歳が26.0%である。

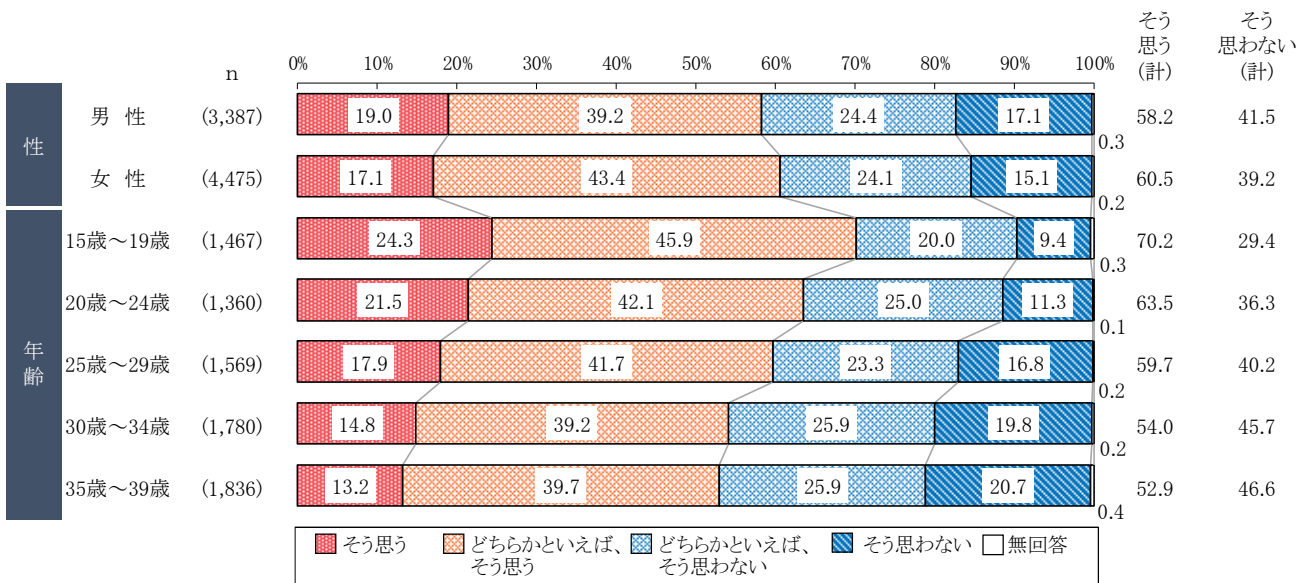
図表 2-2-5-2-2 ポスト青年期の自己像:お金持ちになっている(性別、年齢別)



“自由にのんびり暮らしている”について、性別にみると（図表 2-2-5-2-3）、『そう思う（計）』は、男性58.2%、女性60.5%で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-5-2-3）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が70.2%、35歳～39歳が52.9%である。

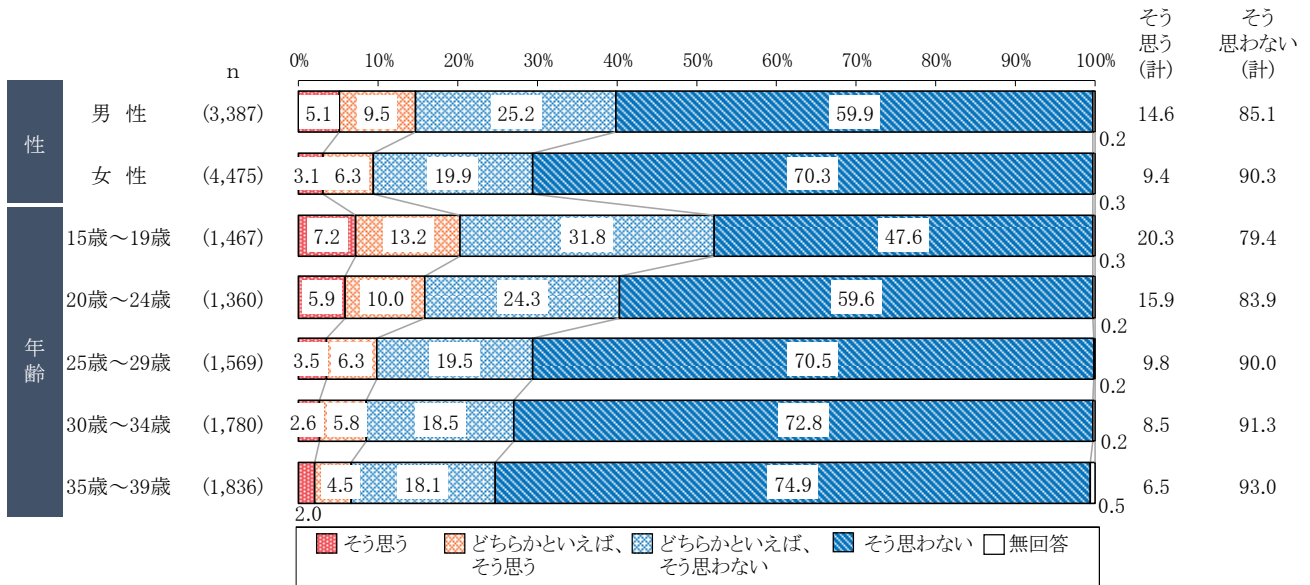
図表 2-2-5-2-3 ポスト青年期の自己像:自由にのんびり暮らしている(性別、年齢別)



“世界で活躍している”について、性別にみると（図表 2-2-5-2-4）、『そう思う（計）』は、男性（14.6%）が女性（9.4%）を約5ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-5-2-4）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高い傾向がみられ、15歳～19歳が20.3%、35歳～39歳は6.5%である。

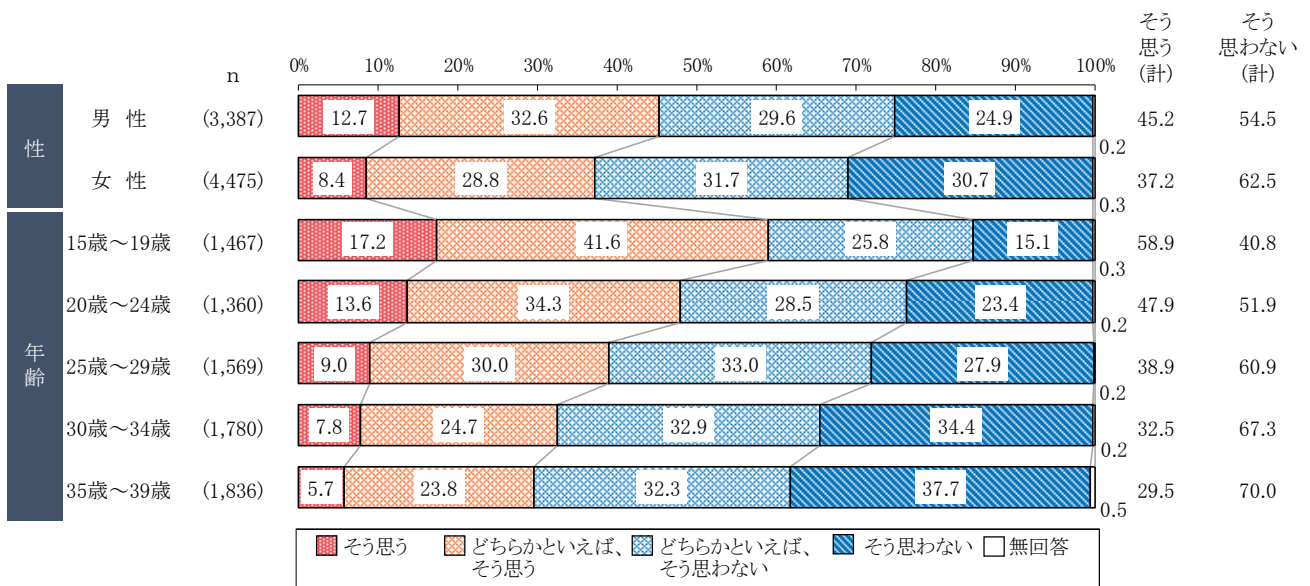
図表 2-2-5-2-4 ポスト青年期の自己像：世界で活躍している（性別、年齢別）



“多くの人の役に立っている”について、性別にみると（図表 2-2-5-2-5）、『そう思う（計）』は、男性（45.2%）が女性（37.2%）を8ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-5-2-5）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が58.9%、35歳～39歳が29.5%である。

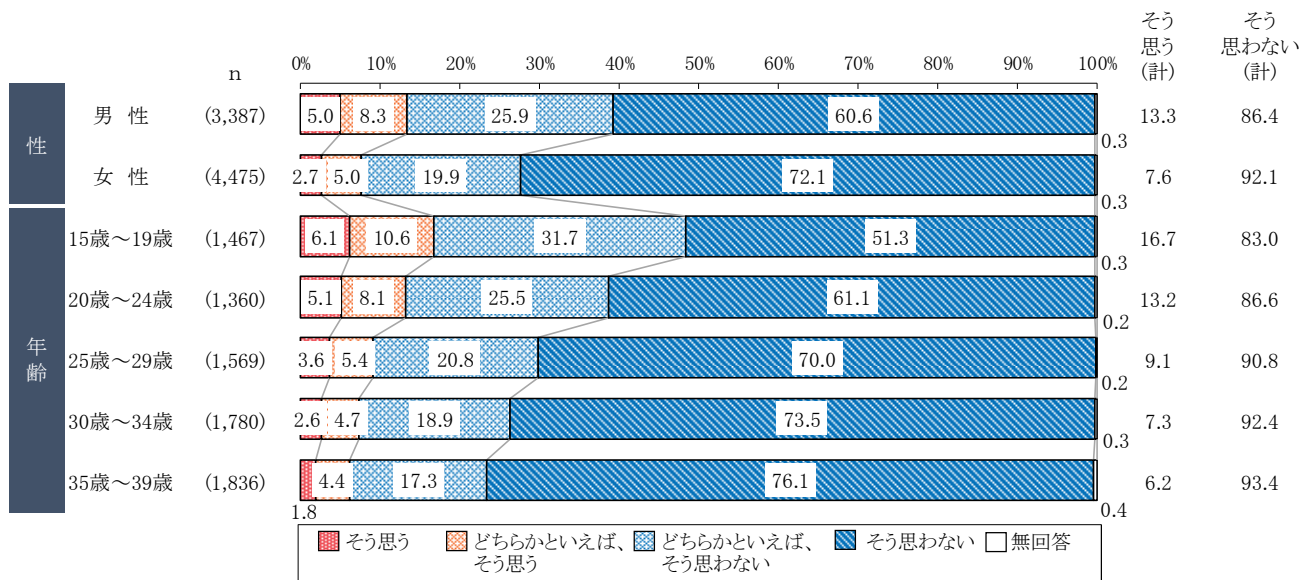
図表 2-2-5-2-5 ポスト青年期の自己像：多くの人の役に立っている（性別、年齢別）



“有名になっている”について、性別にみると（図表 2-2-5-2-6）、『そう思わない（計）』は、女性が 92.1%で男性（86.4%）を約 6 ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-5-2-6）、『そう思わない（計）』は、年齢が高い層ほど高くなる傾向がみられ、15 歳～19 歳が 83.0%、35 歳～39 歳が 93.4%である。

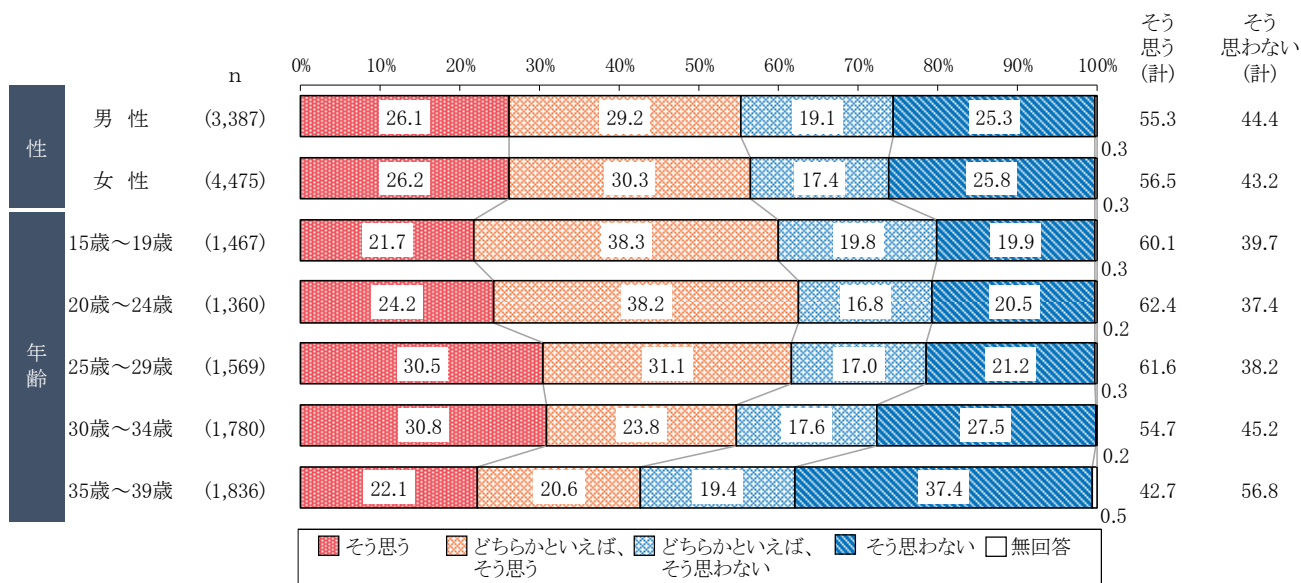
図表 2-2-5-2-6 ポスト青年期の自己像：有名になっている（性別、年齢別）



“こどもを育てている”について、性別にみると（図表 2-2-5-2-7）、『そう思う（計）』は、男女ともに 5 割半（男性 55.3%、女性 56.5%）で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-5-2-7）、『そう思う（計）』は、29 歳までは 6 割台で（15 歳～19 歳 60.1%、20 歳～24 歳 62.4%、25 歳～29 歳 61.6%）、30 歳～34 歳で 5 割半（54.7%）、35 歳～39 歳で 4 割強（42.7%）と低くなる。

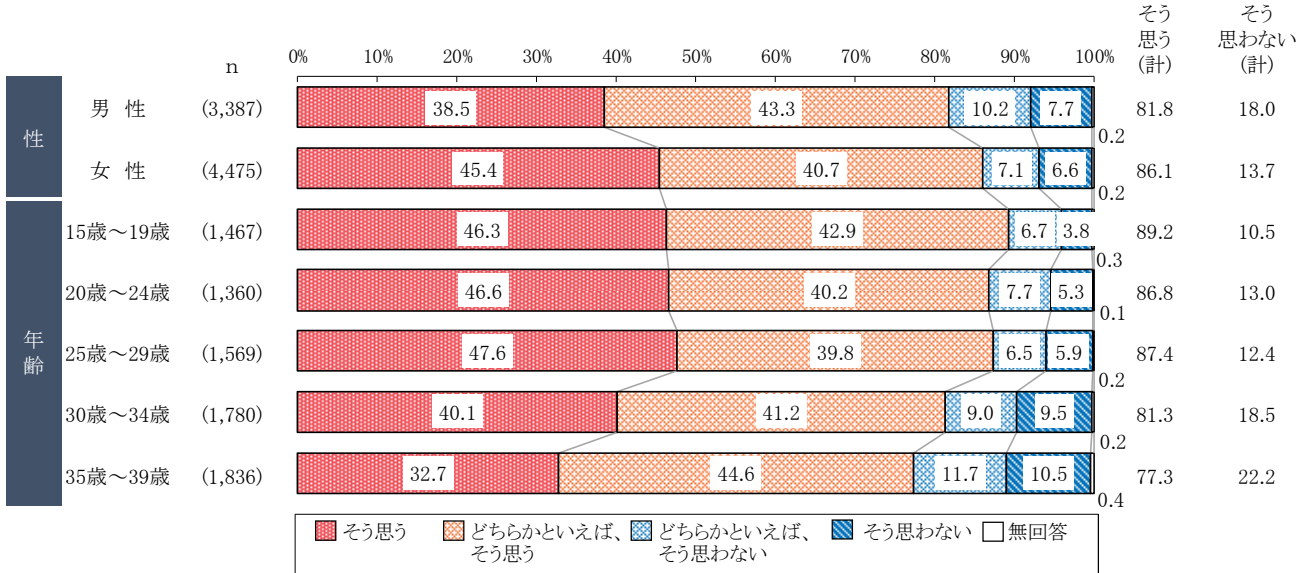
図表 2-2-5-2-7 ポスト青年期の自己像：こどもを育てている（性別、年齢別）



“親を大切にしている”について、性別にみると（図表 2-2-5-2-8）、『そう思う（計）』は、男女ともに8割台（男性 81.8%、女性 86.1%）であり、女性が男性を約4ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-5-2-8）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が89.2%、35歳～39歳が77.3%である。

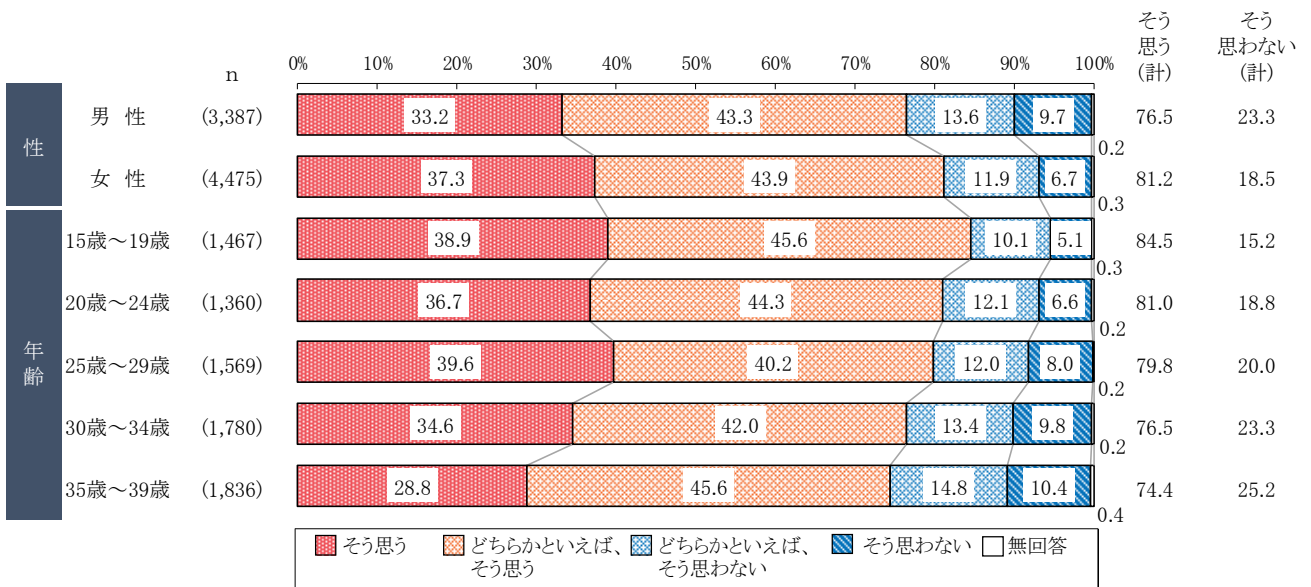
図表 2-2-5-2-8 ポスト青年期の自己像：親を大切にしている（性別、年齢別）



“幸せになっている”について、性別にみると（図表 2-2-5-2-9）、『そう思う（計）』は、男女ともに8割前後（男性 76.5%、女性 81.2%）であり、女性が男性を約5ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-5-2-9）、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも7割以上を占め、年齢が低い層ほど高い傾向がみられる（15歳～19歳 84.5%、35歳～39歳 74.4%）。

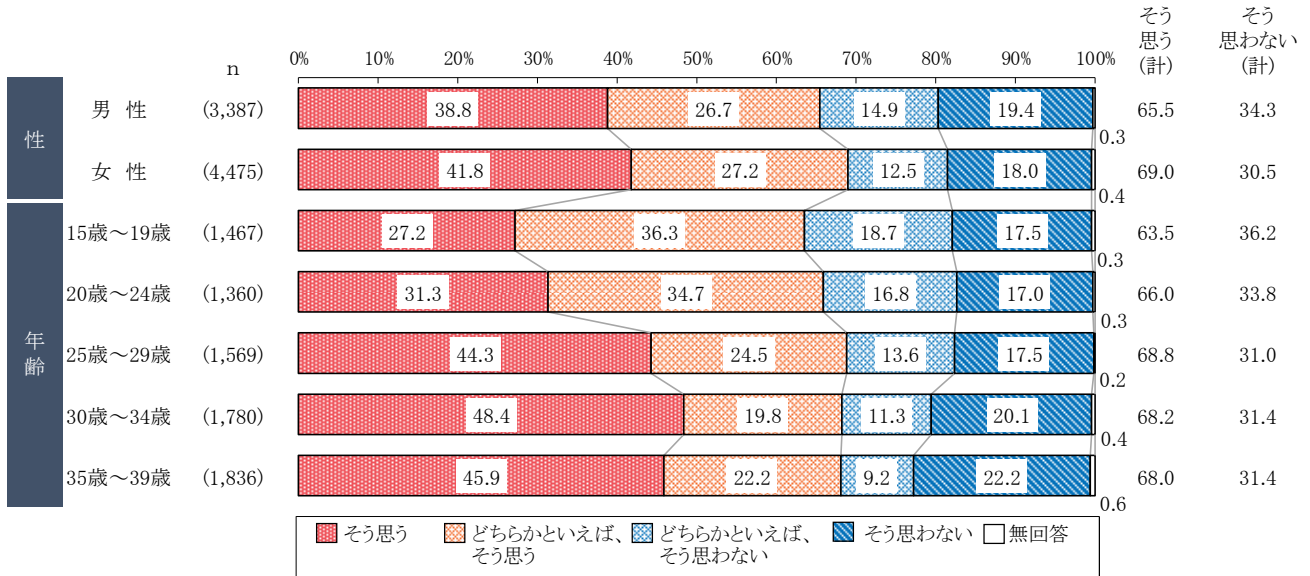
図表 2-2-5-2-9 ポスト青年期の自己像：幸せになっている（性別、年齢別）



“結婚している”について、性別にみると（図表 2-2-5-2-10）、『そう思う（計）』は、女性が69.0%で男性（男性65.5%）を約4ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-5-2-10）、『そう思う（計）』は、いずれの年齢層でも6割台で、25歳以上では約7割（25歳～29歳68.8%、30歳～34歳68.2%、35歳～39歳68.0%）である。

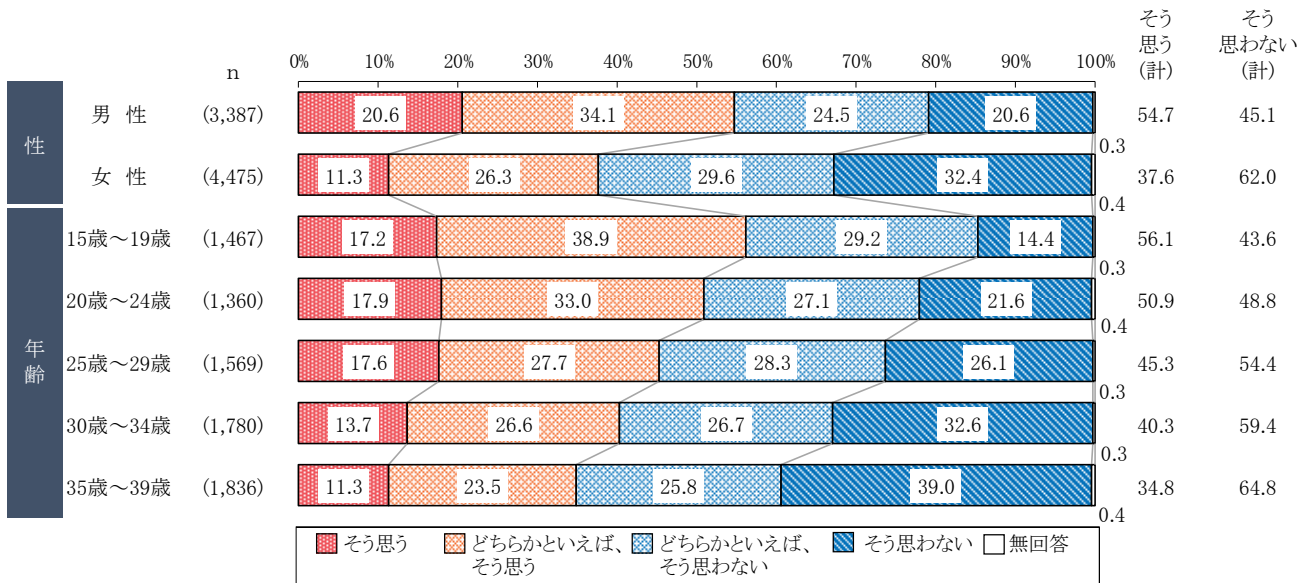
図表 2-2-5-2-10 ポスト青年期の自己像:結婚している(性別、年齢別)



“出世している”について、性別にみると（図表 2-2-5-2-11）、『そう思う（計）』は、男性（54.7%）では半数以上を占め、女性（37.6%）を約17ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-5-2-11）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が56.1%、35歳～39歳が34.8%である。一方、25歳以上では、『そう思わない（計）』という回答の割合が半数以上を占める（25歳～29歳54.4%、30歳～34歳59.4%、35歳～39歳64.8%）。

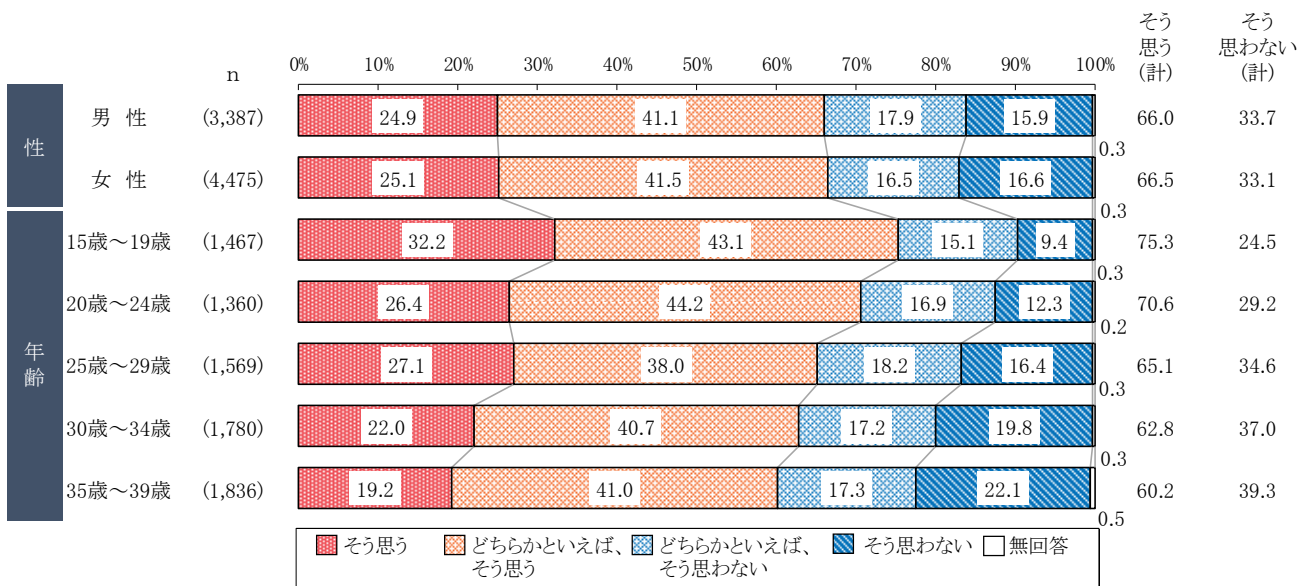
図表 2-2-5-2-11 ポスト青年期の自己像:出世している(性別、年齢別)



“仲間と仲良く暮らしている”について、性別にみると（図表 2-2-5-2-12）、『そう思う（計）』は、男女とも6割半（男性66.0%、女性66.5%）で、男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-2-5-2-12）、『そう思う（計）』は、年齢が低い層ほど高くなる傾向がみられ、15歳～19歳が75.3%、35歳～39歳が60.2%である。

図表 2-2-5-2-12 ポスト青年期の自己像：仲間と仲良く暮らしている（性別、年齢別）



## 6. 自身や周囲の状況

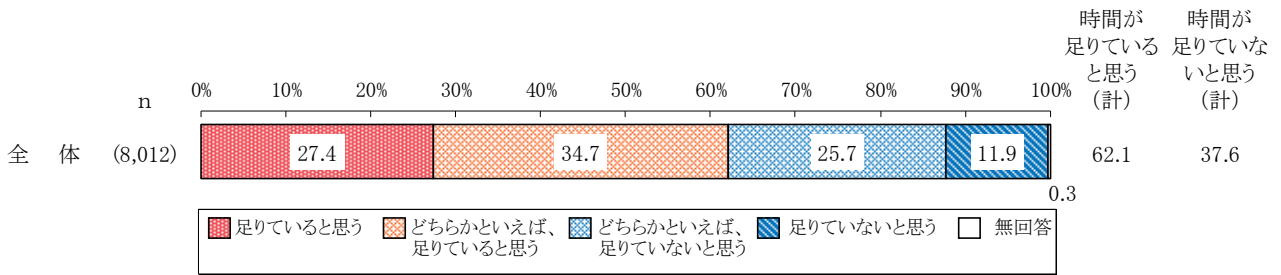
### (1) 自由時間の充足状況 (問 16)

問 16 あなたは普段の生活の中で、自由時間やリラックスして過ごす時間が足りていますか。

(1つだけ)

普段の生活の中での自由時間やリラックスして過ごす時間の充足状況について聞いたところ(図表 2-2-6-1-1)、「足りていると思う」という回答は 27.4%で、「どちらかといえば、足りていると思う」(34.7%)を合わせると、6割強が、自由時間が足りていると捉えている。

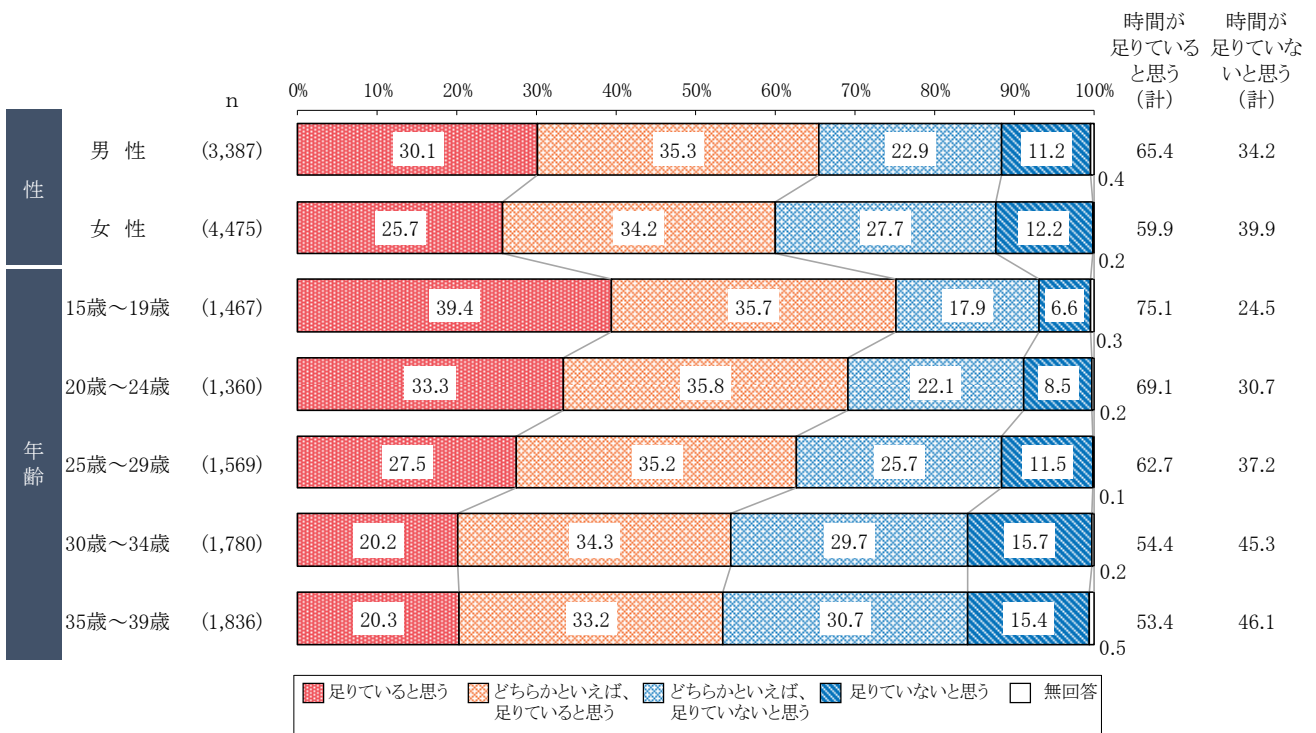
図表 2-2-6-1-1 自由時間の充足状況



性別にみると(図表 2-2-6-1-2)、『時間が足りていると思う (計)』(「足りていると思う」+「どちらかといえば、足りていると思う」という回答は、男性が 65.4%で、女性 (59.9%)を約 6 ポイント上回った。

年齢別にみると(図表 2-2-6-1-2)、『時間が足りていると思う (計)』は、年齢層が低いほど高くなっており 15歳~19歳は 75.1%、35歳~39歳は 53.4%である。

図表 2-2-6-1-2 自由時間の充足状況(性別、年齢別)



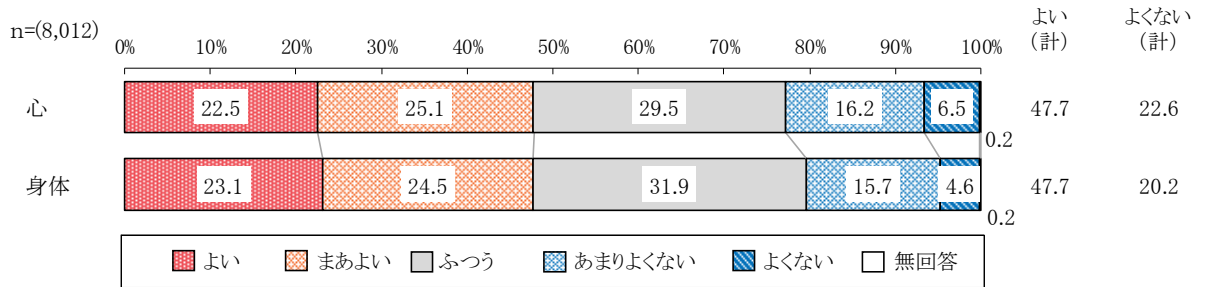
(2) 心と身体 の健康状態 (問 17)

問 17 あなたの現在の心と身体 の健康状態をお答えください。(それぞれについて1つ)

“心” と “身体” の健康状態を聞いたところ (図表 2-2-6-2-1)、“心” に関して「よい」という回答は 22.5%、「まあよい」25.1%と合わせると 47.7%が肯定的な回答をしている。

“身体” に関して「よい」という回答は 23.1%、「まあよい」24.5%と合わせると 47.7%が肯定的な回答をしている。

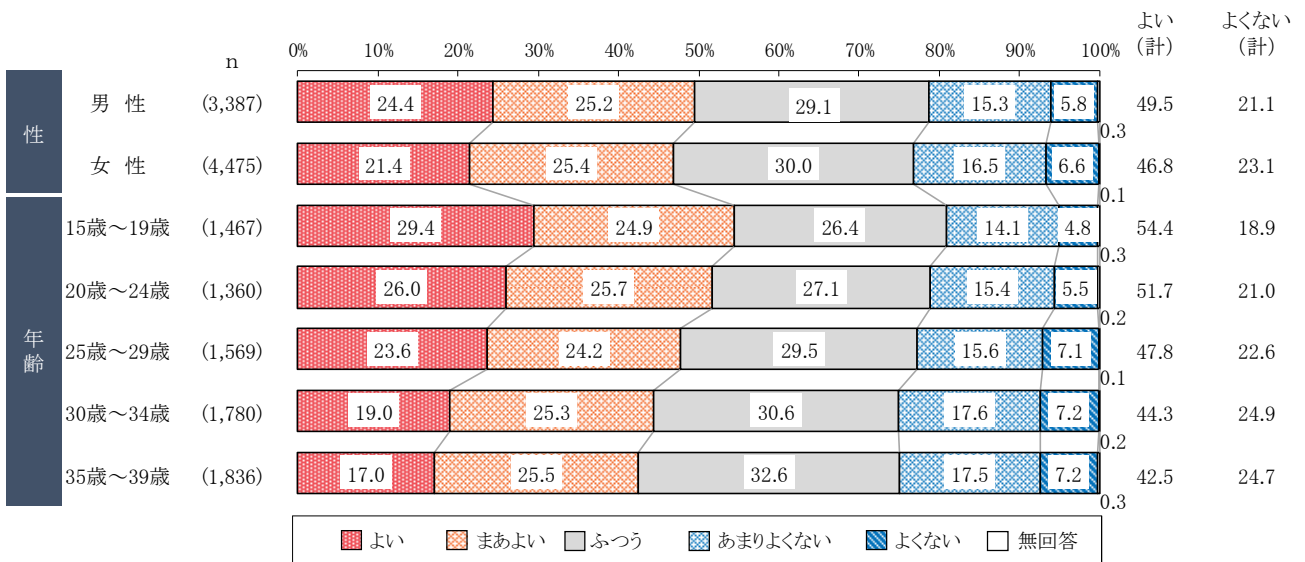
図表 2-2-6-2-1 心と身体 の健康状態



“心” の健康状態に対する回答を性別にみると (図表 2-2-6-2-2)、『よい (計)』(「よい」+「まあよい」) という回答は、男性が 49.5%、女性 46.8%で大きな男女差はみられない。

年齢別にみると (図表 2-2-6-2-2)、『よい (計)』は、年齢層が低いほど高くなっており 15 歳～19 歳は 54.4%、25 歳～29 歳で 47.8%と半数より少なくなり、35 歳～39 歳は 42.5%である。

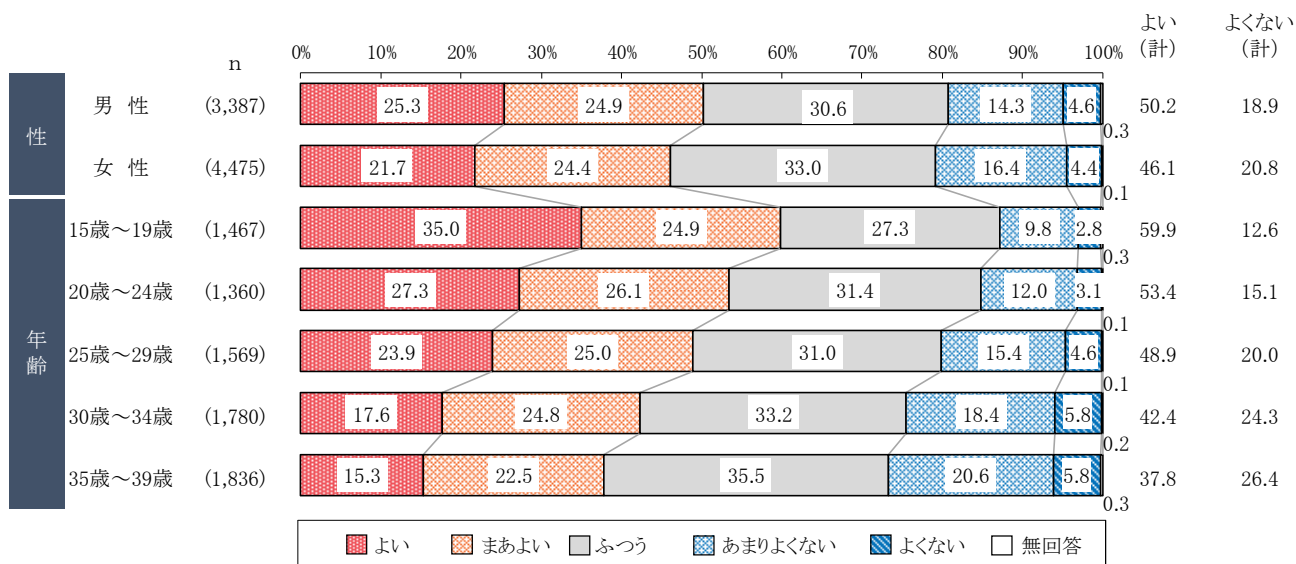
図表 2-2-6-2-2 心と身体 の健康状態:心(性別、年齢別)



“身体”の健康状態に対する回答を性別にみると（図表 2-2-6-2-3）、『よい（計）』は、男性（50.2%）が女性（46.1%）を約4ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-6-2-3）、『よい（計）』は、年齢層が低いほど高くなっており15歳～19歳は59.9%、25歳～29歳で48.9%と半数より少なくなり、35歳～39歳は37.8%である。

図表 2-2-6-2-3 心と身体の状態:身体(性別、年齢別)



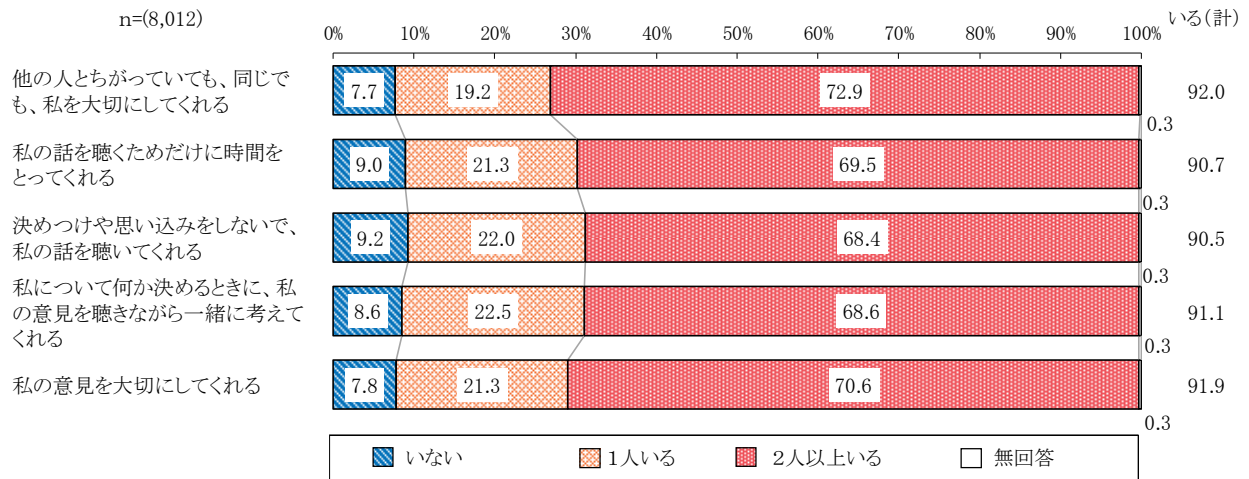
(3) 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無 (問 18-1)

問 18-1 あなたの周りに次のような人はどれくらいいますか。なお、答えるとき、同じ人のことを何度も思い浮かべて答えてかまいません。(それぞれについて、あてはまる番号を1つお答えください)

自分の個性・多様性・意見を尊重してくれる周囲の他者について、“他の人とちがっていても、同じでも、私を大切にしてくれる”、“私の話を聴くためだけに時間をとってくれる”、“決めつけや思い込みをしないで、私の話を聴いてくれる”、“私について何か決めるときに、私の意見を聴きながら一緒に考えてくれる”、“私の意見を大切にしてくれる”の5項目について聞いた(図表 2-2-6-3-1)。

いずれの項目でも、『いる(計)』(「1人いる」+「2人以上いる」)という回答の割合は約9割で、「1人いる」が約2割、「2人以上いる」が7割前後、「いない」は1割弱である。

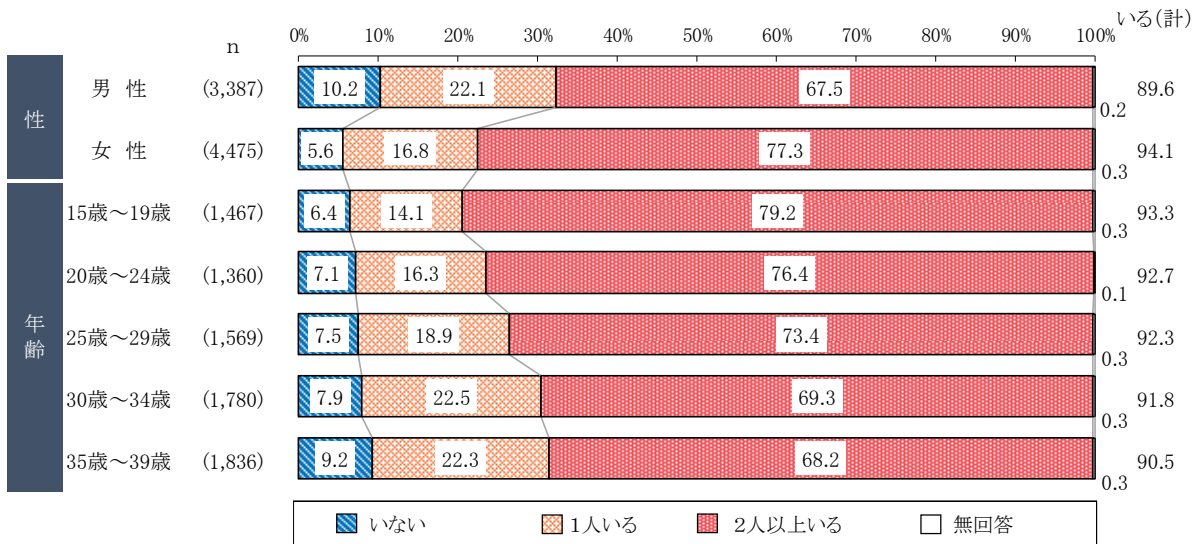
図表 2-2-6-3-1 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無



“他の人とちがっていても、同じでも、私を大切にしてくれる”について、性別にみると（図表 2-2-6-3-2）、『いる（計）』は、女性（94.1%）が男性（89.6%）を約5ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-6-3-2）、『いる（計）』は、いずれの年齢層でも9割強で、大きな差はみられない。「2人以上いる」の割合は、年齢層が低いほど高くなっており、15歳～19歳は79.2%、35歳～39歳は68.2%である。

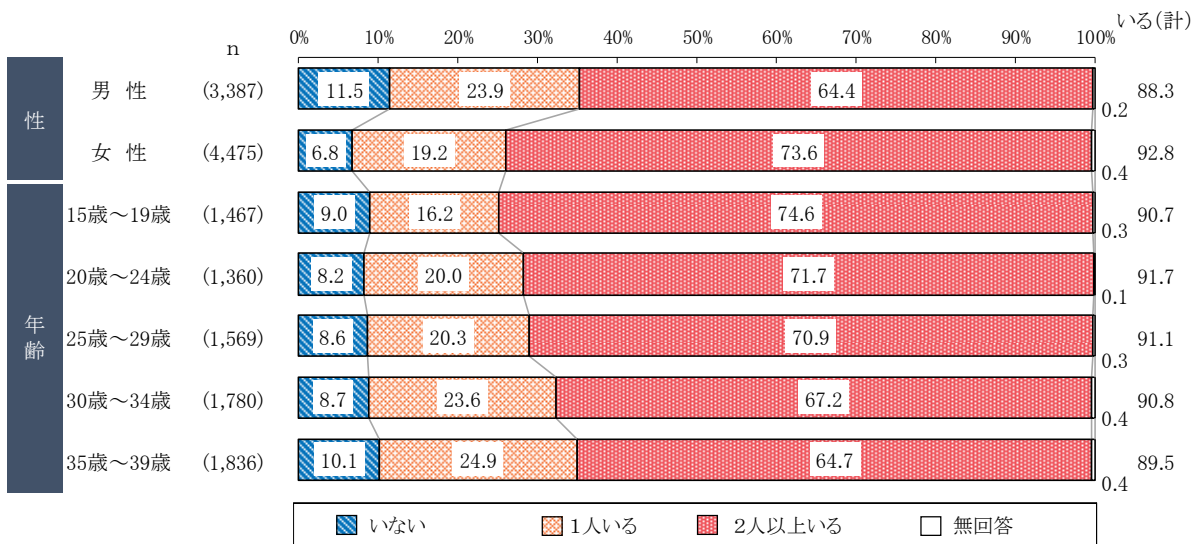
図表 2-2-6-3-2 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無：  
他の人とちがっていても、同じでも、私を大切にしてくれる（性別、年齢別）



“私の話を聴くためだけに時間をとってくれる”について、性別にみると（図表 2-2-6-3-3）、『いる（計）』は、女性（92.8%）が男性（88.3%）を約5ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-6-3-3）、『いる（計）』は、いずれの年齢層でも約9割で、大きな差はみられない。「2人以上いる」の割合は、年齢層が低いほど高くなっており、15歳～19歳は74.6%、35歳～39歳は64.7%である。

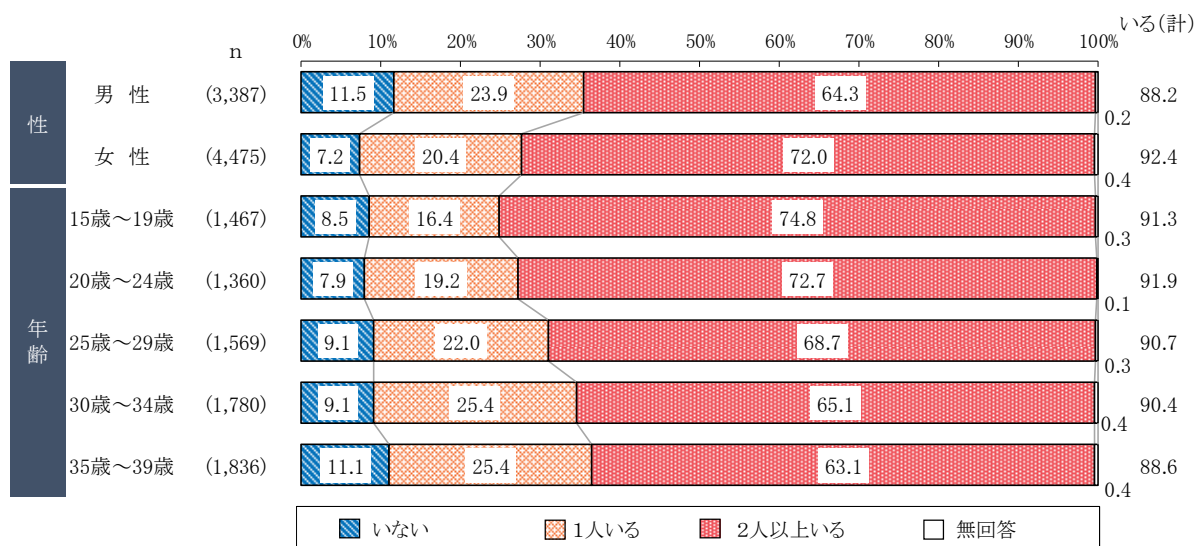
図表 2-2-6-3-3 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無：  
私の話を聴くためだけに時間をとってくれる（性別、年齢別）



“決めつけや思い込みをしないで、私の話を聴いてくれる”について、性別にみると（図表 2-2-6-3-4）、『いる（計）』は、女性（92.4%）が男性（88.2%）を約4ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-6-3-4）、『いる（計）』は、いずれの年齢層でも約9割で、大きな差はみられない。「2人以上いる」の割合は、年齢層が低いほど高くなっており、15歳～19歳は74.8%、35歳～39歳は63.1%である。

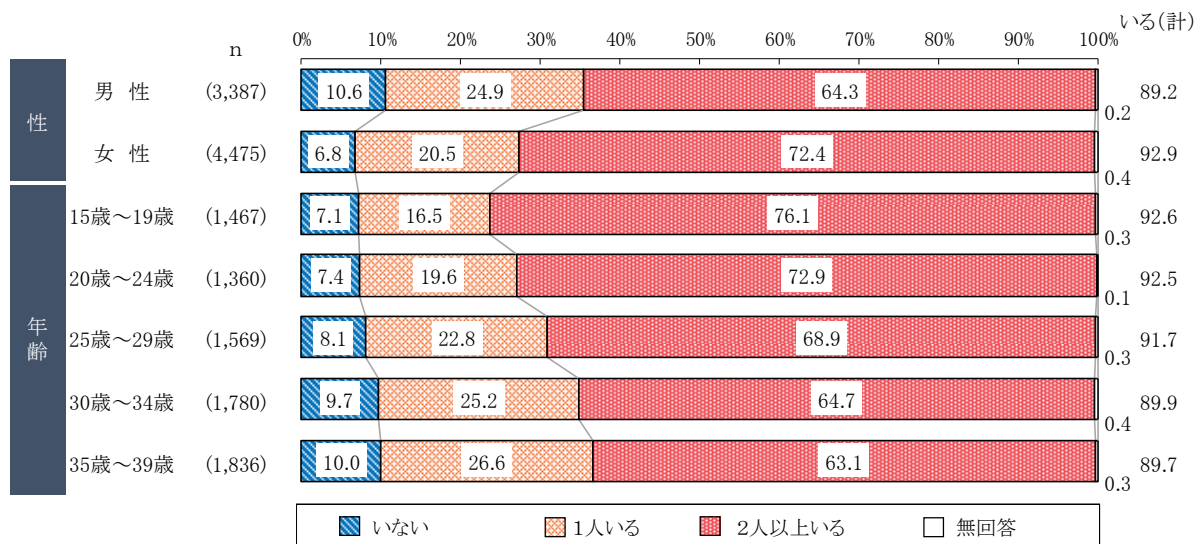
図表 2-2-6-3-4 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無：  
決めつけや思い込みをしないで、私の話を聴いてくれる（性別、年齢別）



“私について何か決めるときに、私の意見を聴きながら一緒に考えてくれる”について、性別にみると（図表 2-2-6-3-5）、『いる（計）』は、女性（92.9%）が男性（89.2%）を約4ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-6-3-5）、『いる（計）』は、いずれの年齢層でも約9割で、大きな差はみられない。「2人以上いる」の割合は、年齢層が低いほど高くなっており、15歳～19歳は76.1%、35歳～39歳は63.1%である。

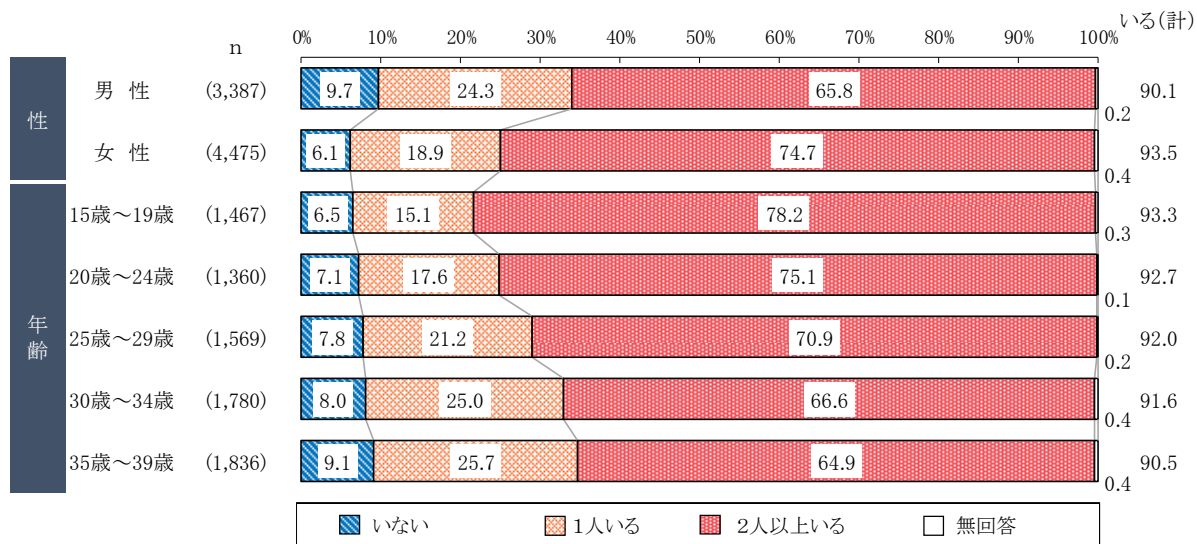
図表 2-2-6-3-5 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無：  
私について何か決めるときに、私の意見を聴きながら一緒に考えてくれる（性別、年齢別）



“私の意見を大切にしてくれる”について、性別にみると（図表 2-2-6-3-6）、『いる（計）』は、女性（93.5%）が男性（90.1%）を約3ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-2-6-3-6）、『いる（計）』は、いずれの年齢層でも9割強で、大きな差はみられない。「2人以上いる」の割合は、年齢層が低いほど高くなっており、15歳～19歳は78.2%、35歳～39歳は64.9%である。

図表 2-2-6-3-6 個性・多様性・意見を尊重してくれる人の有無：  
私の意見を大切にしてくれる（性別、年齢別）



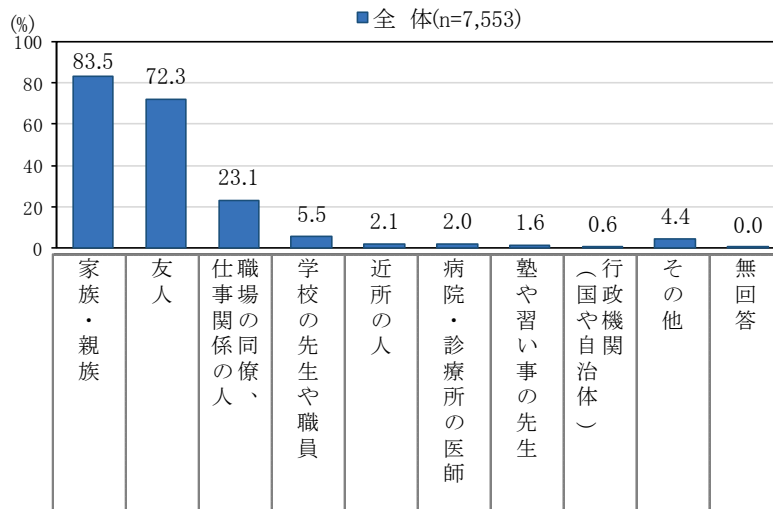
(4) 個性・多様性・意見を尊重してくれる人 (問 18-2)

【問 18-1 で1つでも「1人いる」か「2人以上いる」を選んだ方のみ、お答えください。】  
 問 18-2 上 (問 18-1 ア) ～オ)) で思い浮かべた人は、どのような人ですか。あてはまるものを  
 すべてお答えください。(いくつでも)

問 18-1 の5項目で1つでも「1人いる」か「2人以上いる」を回答した者 (7,553人) に、回答の際に思い浮かべた人を聞いた (図表 2-2-6-4-1)。

「家族・親族」が 83.5% で最も多く挙げられており、次いで「友人」(72.3%)、「職場の同僚、仕事関係の人」(23.1%) などの順に挙げられている。このほかは1割未満で、「学校の先生や職員」(5.5%)、「近所の人」(2.1%) などとなっている。

図表 2-2-6-4-1 個性・多様性・意見を尊重してくれる人



性別にみると (図表 2-2-6-4-2)、女性では「友人」が 74.7% と、男性 (69.2%) を約5ポイント上回っている。男性は「職場の同僚、仕事関係の人」が 24.9% で女性 (21.9%) を3ポイント上回る。

年齢別にみると (図表 2-2-6-4-2)、「家族・親族」は25歳以上で8割台半ばと高い。「友人」は年齢層が低いほど高い傾向がみられる。「職場の同僚・仕事関係の人」は、学生が多い15歳～19歳では5.0%と著しく少ない。

図表 2-2-6-4-2 個性・多様性・意見を尊重してくれる人(性別、年齢別)

		n	家族・親族	友人	職場の同僚、仕事関係の人	学校の先生や職員	近所の人	病院・診療所の医師	塾や習い事の先生	(国や自治体)	その他	無回答
性	男性	(3,132)	83.4	69.2	24.9	6.4	2.1	1.8	1.8	0.9	3.6	0.1
	女性	(4,287)	83.8	74.7	21.9	5.0	2.0	2.0	1.4	0.5	5.0	-
年齢	15歳～19歳	(1,397)	79.1	86.8	5.0	18.8	1.3	2.4	5.4	0.5	3.7	-
	20歳～24歳	(1,286)	79.8	79.1	23.7	6.8	1.5	2.1	1.0	0.5	8.0	0.1
	25歳～29歳	(1,484)	84.3	69.9	27.8	1.6	1.6	1.9	0.6	0.6	5.5	0.1
	30歳～34歳	(1,673)	84.9	68.6	28.3	1.7	2.0	2.1	0.8	0.6	3.7	0.1
	35歳～39歳	(1,713)	87.7	61.2	28.1	0.9	3.6	1.4	0.5	1.0	2.1	-

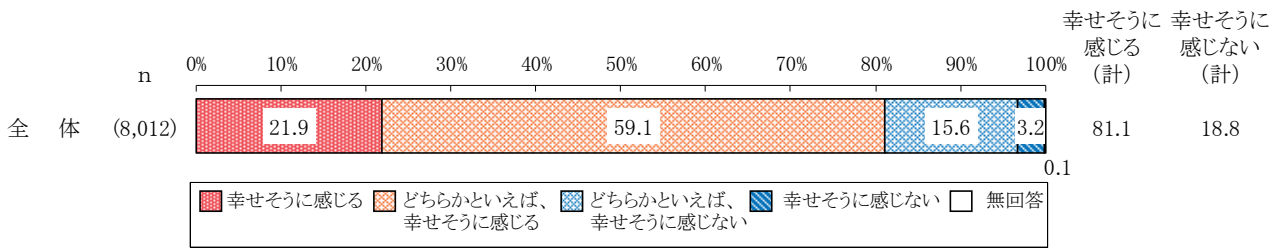
(5) 周囲の大人の様子 (問 19)

問 19 普段あなたの周りにいる大人たちは、あなたからみて、幸せそうに毎日を過ごしていると感じますか。あなたの実感をお答えください。成人の方は、自分より年齢が上の大人を思い浮かべてお答えください。(1つだけ)

周囲の大人の様子について、“幸せそうに毎日を過ごしていると感じるか”を聞いた(図表 2-2-6-5-1)。

「幸せそうに感じる」という回答は21.9%で、「どちらかといえば、幸せそうに感じる」(59.1%)を合わせると、約8割が肯定的な回答をしている。

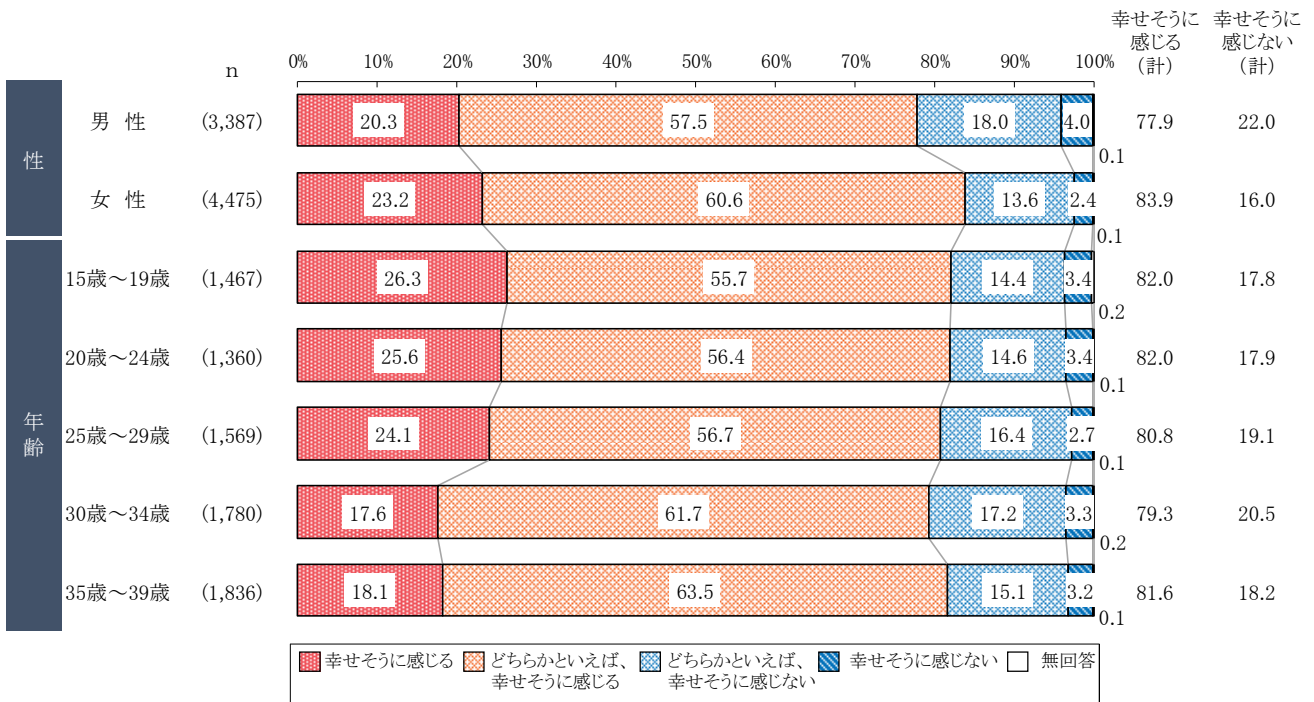
図表 2-2-6-5-1 周囲の大人の様子



性別にみると(図表 2-2-6-5-2)、『幸せそうに感じる (計)』(「幸せそうに感じる」+「どちらかといえば、幸せそうに感じる」という回答は、女性(83.9%)が男性(77.9%)を6ポイント上回っている。

年齢別にみると(図表 2-2-6-5-2)、『幸せそうに感じる (計)』は、いずれの年齢層でも8割前後で、大きな差はみられない。「幸せそうに感じる」という回答は、29歳以下では2割半前後のところ、30代では2割弱となっている(30歳~34歳17.6%、35歳~39歳18.1%)。

図表 2-2-6-5-2 周囲の大人の様子(性別、年齢別)



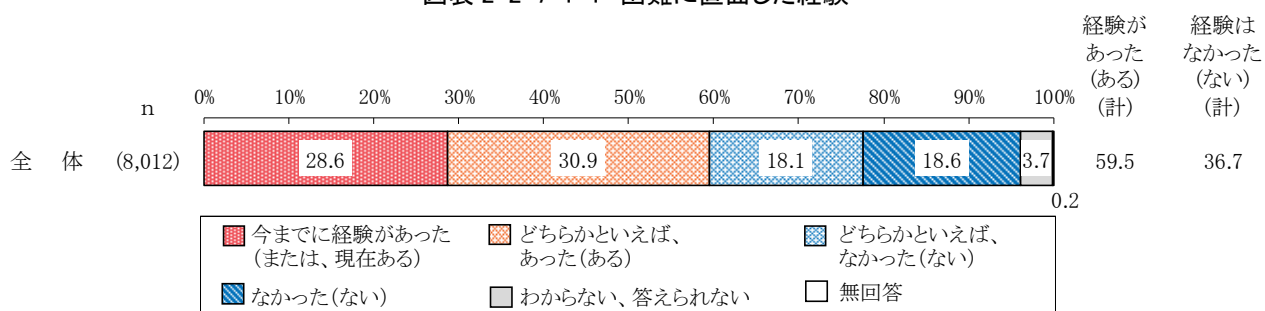
## 7. 困難に直面した経験

### (1) 困難に直面した経験 (問 20)

問 20 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がありましたか。または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況がありますか。最もあてはまるものを選んでください。(1つだけ)

社会生活や日常生活を円滑に送る上での困難について、「今までに経験があった(または、現在ある)」という回答は 28.6%、「どちらかといえば、あった(ある)」は 30.9%であり、『経験があった(ある)(計)』(「今までに経験があった(または、現在ある)」+「どちらかといえば、あった(ある)」)という回答は 59.5%である(図表 2-2-7-1-1)。

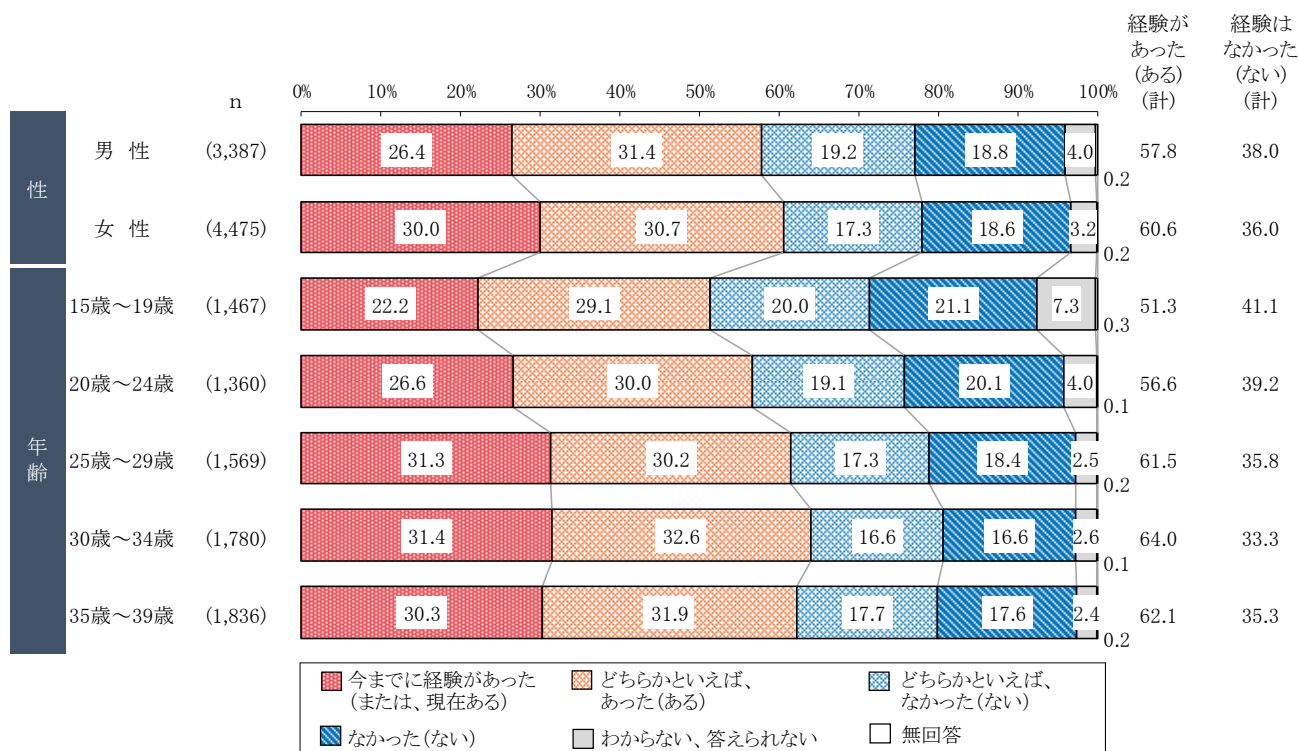
図表 2-2-7-1-1 困難に直面した経験



性別にみると(図表 2-2-7-1-2)、困難に直面した『経験があった(ある)(計)』は、男女とも6割前後(男性 57.8%、女性 60.6%)で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると(図表 2-2-7-1-2)、困難に直面した『経験があった(ある)(計)』は、24歳以下では5割台(15歳~19歳 51.3%、20歳~24歳 56.6%)のところ、25歳以上では6割台(25歳~29歳 61.5%、30歳~34歳 64.0%、35歳~39歳 62.1%)である。

図表 2-2-7-1-2 困難に直面した経験(性別、年齢別)



(2) 経験した困難や悩み事の内容 (問 21)

問 21 あなたが経験した、又は現在経験している困難や悩み事を教えてください。以下の(1)～(4)のそれぞれにお答えください。(それぞれいくつでも)

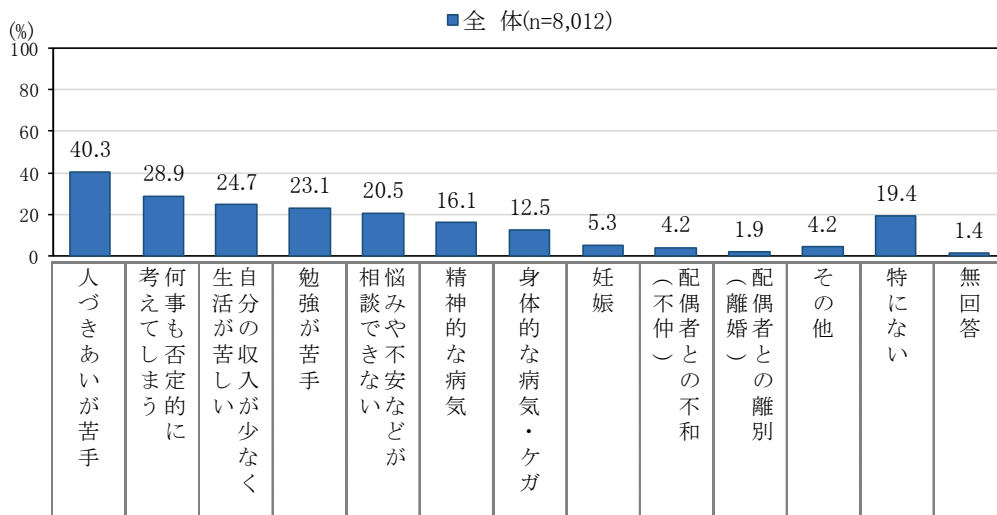
(1) 自分自身について  
 (2) 家族・家庭について  
 (3) 学校について  
 (4) 仕事・職場について

今までに経験した、又は現在経験している困難や悩み事について、“自分自身について”、“家族・家庭について”、“学校について”、“仕事・職場について”の4つの切り口から聞いた。

① 自分自身について

“自分自身について”では(図表 2-2-7-2-1)、「人づきあいが苦手」が40.3%で最も多く挙げられ、以下、「何事も否定的に考えてしまう」(28.9%)、「自分の収入が少なく生活が苦しい」(24.7%)、「勉強が苦手」(23.1%)、「悩みや不安などが相談できない」(20.5%)などの順となっている。一方、「特にない」が約2割(19.4%)を占める。

図表 2-2-7-2-1 経験した困難や悩み事の内容:自分自身について



“自分自身について”を性別にみると（図表 2-2-7-2-2）、「人づきあいが苦手」（男性 37.8%、女性 41.9%）、「何事も否定的に考えてしまう」（男性 23.6%、女性 32.7%）、「悩みや不安などが相談できない」（男性 18.5%、女性 21.7%）は、「精神的な病気」（男性 13.6%、女性 17.7%）などは、男性より女性で多く挙げられている。「特にない」は、男性は 23.0%で、女性（16.8%）を約 6 ポイント上回る。

年齢別にみると（図表 2-2-7-2-2）、「人づきあいが苦手」はいずれの年齢層でも約 4 割で差がみられない。「何事も否定的に考えてしまう」は、概ね年齢が低い層の方が高い傾向がみられ、24 歳以下の年齢層では 3 割台、25 歳以上は 3 割を下回る。また、学生の多い 24 歳以下では「勉強が苦手」が 25 歳以上より高く（15 歳～19 歳 42.7%、20 歳～24 歳 25.2%）、就業者が多い 25 歳以上では「自分の収入が少なく生活が苦しい」がいずれの年齢層でも約 3 割を占める（25 歳～29 歳 29.1%、30 歳～34 歳 31.1%、35 歳～39 歳 31.5%）。また「精神的な病気」は、15 歳～19 歳は約 1 割のところ、25 歳以上ではいずれの年齢層も 2 割弱である。「配偶者との不和（不仲）」は、25 歳以上の年齢層で、年齢が高い層ほど高くなる傾向がみられ、35 歳～39 歳で約 1 割を占める。

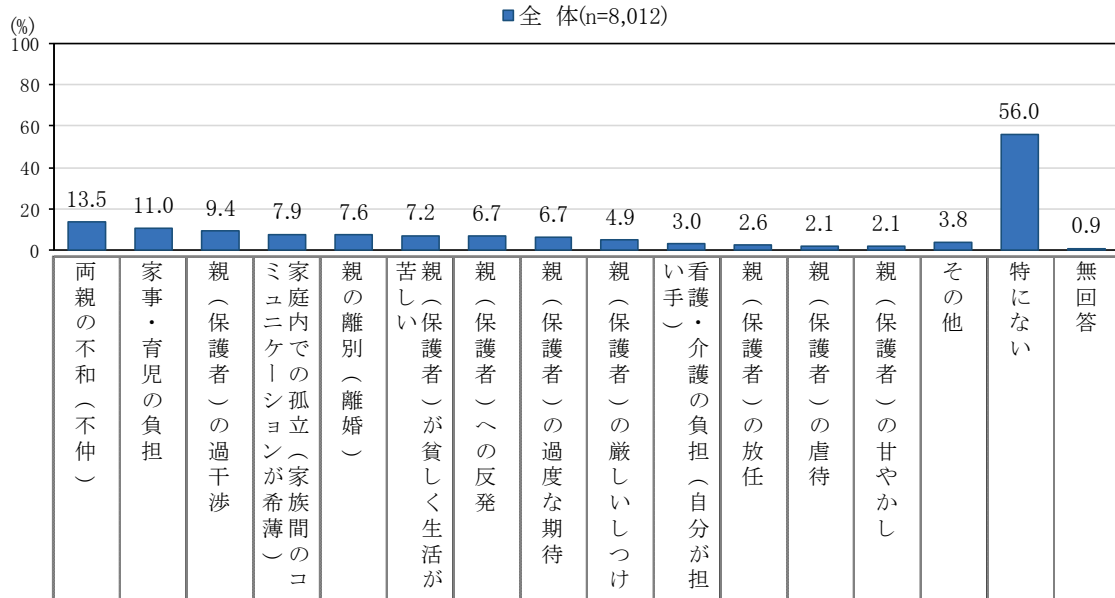
図表 2-2-7-2-2 経験した困難や悩み事の内容:自分自身について(性別、年齢別)

																(%)
	n	人づきあいが苦手	何事も否定的に考えてしまう	自分の収入が少なく生活が苦しい	勉強が苦手	相談できや不安などが	精神的な病気	身体的な病気・ケガ	妊娠	(配偶者との不和)	(配偶者との離別)	その他	特にない	無回答		
性	男性	(3,387)	37.8	23.6	24.3	23.4	18.5	13.6	13.3	0.6	3.1	1.0	3.6	23.0	1.3	
	女性	(4,475)	41.9	32.7	24.8	22.8	21.7	17.7	11.7	8.9	4.9	2.6	4.6	16.8	1.5	
年齢	15歳～19歳	(1,467)	41.6	30.7	5.7	42.7	20.4	11.4	10.6	0.2	0.9	0.1	4.4	19.6	1.1	
	20歳～24歳	(1,360)	40.9	32.0	22.4	25.2	22.0	16.2	10.2	1.6	0.4	0.2	4.1	21.7	1.3	
	25歳～29歳	(1,569)	39.8	28.6	29.1	18.2	19.8	17.4	11.8	6.4	2.0	1.3	5.0	19.4	1.2	
	30歳～34歳	(1,780)	40.3	27.2	31.1	17.5	19.4	17.4	13.9	9.0	6.1	2.9	3.7	18.7	1.5	
	35歳～39歳	(1,836)	39.1	27.3	31.5	15.4	21.2	17.4	14.9	7.5	9.5	4.0	4.1	18.2	1.7	

② 家族・家庭について

“家族・家庭について”では(図表2-2-7-2-3)、「両親の不和(不仲)」が13.5%で最も多く、次いで「家事・育児の負担」(11.0%)、「親(保護者)の過干渉」(9.4%)、「家庭内での孤立(家族間のコミュニケーションが希薄)」(7.9%)、「親の離別(離婚)」(7.6%)、「親(保護者)が貧しく生活が苦しい」(7.2%)などの順に挙げられている。

図表 2-2-7-2-3 経験した困難や悩み事の内容:家族・家庭について



“家族・家庭について”を性別にみると(図表2-2-7-2-4)、上位3項目すべてが、男性より女性に多く挙げられており、「両親の不和(不仲)」(男性10.7%、女性15.5%)、「家事・育児の負担」(男性7.0%、女性14.1%)、「親(保護者)の過干渉」(男性6.0%、女性11.9%)となっている。「特にない」は、男性は62.7%で、女性(51.4%)を約11ポイント上回る。

年齢別にみると(図表2-2-7-2-4)、「両親の不和(不仲)」は、いずれの年齢層でも1割台の前半から半ばで、「家事・育児の負担」は30代で2割前後を占める。

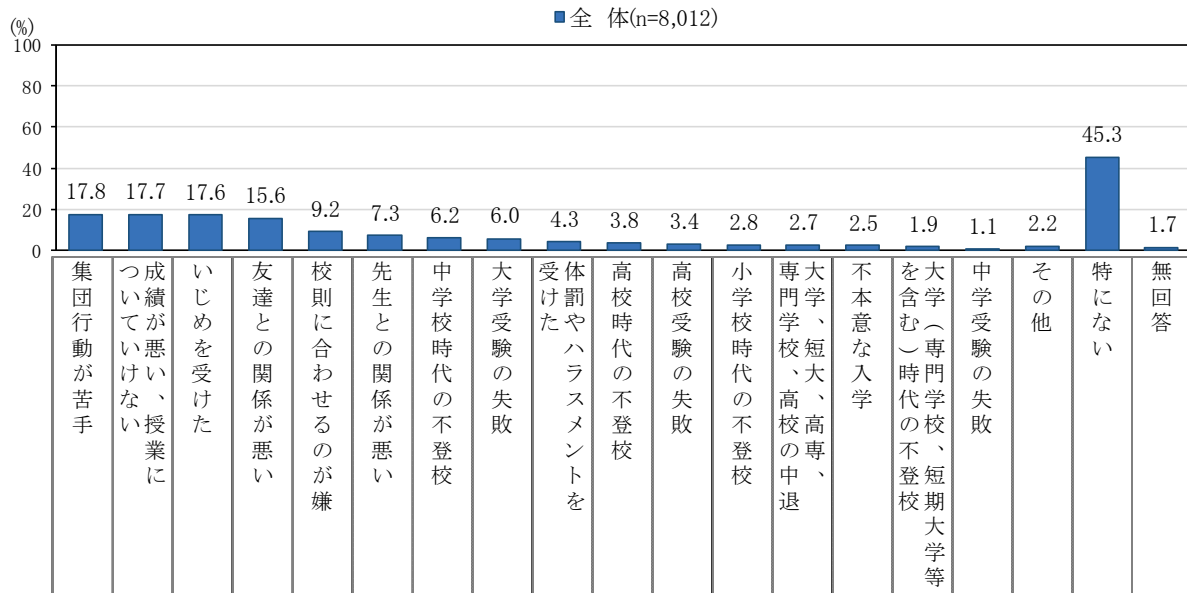
図表 2-2-7-2-4 経験した困難や悩み事の内容:家族・家庭について(性別、年齢別)

		n	両親の不和(不仲)	家事・育児の負担	親(保護者)の過干渉	家庭内での孤立(家族間のコミュニケーションが希薄)	親の離別(離婚)	親(保護者)が貧しく生活が苦しい	親(保護者)への反発	親(保護者)の過度な期待	親(保護者)の厳しいしつけ	親(保護者)の放任	親(保護者)の虐待	親(保護者)の甘やかし	その他	特にない	無回答	
性	男性	(3,387)	10.7	7.0	6.0	6.9	6.5	6.3	5.2	5.4	3.7	2.5	1.5	1.3	2.1	2.6	62.7	0.8
	女性	(4,475)	15.5	14.1	11.9	8.4	8.5	7.9	7.7	7.6	5.7	3.4	3.4	2.6	2.1	4.6	51.4	0.9
年齢	15歳~19歳	(1,467)	13.0	1.4	7.7	5.4	7.0	4.5	7.4	6.8	4.2	0.4	2.0	1.6	2.3	2.7	65.3	1.1
	20歳~24歳	(1,360)	14.9	2.7	10.3	7.4	7.2	7.9	6.5	7.1	4.1	1.5	2.1	2.2	2.8	3.5	61.7	0.7
	25歳~29歳	(1,569)	12.0	7.4	10.2	7.9	7.4	6.5	5.7	6.8	5.1	3.1	2.6	2.5	2.1	3.6	58.6	0.5
	30歳~34歳	(1,780)	15.2	18.1	10.1	9.9	9.6	8.4	7.3	7.6	6.3	4.4	3.4	2.3	1.9	3.9	48.3	0.8
	35歳~39歳	(1,836)	12.7	20.9	8.9	8.3	6.7	8.4	6.8	5.3	4.5	5.0	2.9	1.8	1.6	5.1	49.6	1.1

③ 学校について

「学校について」では(図表 2-2-7-2-5)、「集団行動が苦手」(17.8%)、「成績が悪い、授業についていけない」(17.7%)、「いじめを受けた」(17.6%)の3項目が上位にならび、次いで「友達との関係が悪い」(15.6%)などの順に挙げられている。

図表 2-2-7-2-5 経験した困難や悩み事の内容:学校について



性別にみると(図表 2-2-7-2-6)、「いじめを受けた」(男性 13.4%、女性 20.5%)、「集団行動が苦手」(男性 14.7%、女性 19.7%)、「友達との関係が悪い」(男性 10.3%、女性 19.5%)などは、男性より女性に多く挙げられている。「特にない」は、男性は 50.5%で、女性(41.8%)を約 9 ポイント上回る。

年齢別にみると(図表 2-2-7-2-6)、「いじめを受けた」は、25 歳以上の年齢層では 2 割前後だが、24 歳以下では 1 割半以下(15 歳~19 歳 8.3%、20 歳~24 歳 14.4%)である。「成績が悪い、授業についていけない」は 15 歳~19 歳(23.8%)で高く、それ以外の年齢層ではいずれも 1 割台である。

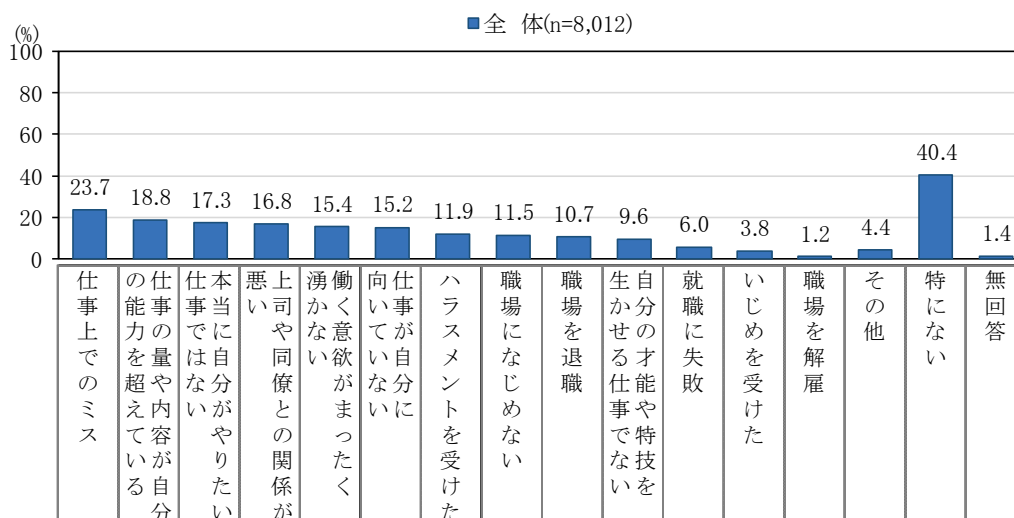
図表 2-2-7-2-6 経験した困難や悩み事の内容:学校について(性別、年齢別)

		n	集団行動が苦手	成績が悪い、授業についていけない	いじめを受けた	友達との関係が悪い	校則に合わせるのが嫌	先生との関係が悪い	中学校時代の不登校	大学受験の失敗	体罰やハラスメントを受けた	高校時代の不登校	高校受験の失敗	小学校時代の不登校	専門学校、短大、高校の中退	不本意な入学	大学(専門学校、短期大学等を含む)時代の不登校	中学受験の失敗	その他	特にない	無回答
性	男性	(3,387)	14.7	17.7	13.4	10.3	8.4	6.2	5.3	6.6	4.5	3.1	3.5	2.7	2.5	2.7	2.0	1.2	1.9	50.5	1.7
	女性	(4,475)	19.7	17.7	20.5	19.5	9.6	7.9	6.9	5.7	4.0	4.3	3.4	2.7	2.7	2.2	1.8	1.0	2.5	41.8	1.6
年齢	15歳~19歳	(1,467)	16.7	23.8	8.3	11.5	11.2	5.5	8.5	3.9	1.5	4.1	4.1	3.3	0.4	2.0	0.6	2.0	3.5	42.8	0.8
	20歳~24歳	(1,360)	16.5	17.6	14.4	15.3	7.5	7.7	6.8	5.9	3.0	3.8	2.9	2.4	3.1	1.7	2.6	1.3	2.3	48.6	1.4
	25歳~29歳	(1,569)	16.8	16.3	20.2	16.4	9.2	7.6	5.7	7.2	4.7	4.4	3.9	2.5	2.7	2.5	1.8	0.7	2.0	46.0	1.7
	30歳~34歳	(1,780)	19.2	17.4	23.4	17.9	10.2	8.1	6.0	7.6	6.0	4.0	3.3	2.9	3.6	2.9	2.5	0.8	1.5	42.5	1.6
	35歳~39歳	(1,836)	19.0	14.5	19.4	16.0	7.8	7.5	4.6	5.3	5.7	3.0	2.9	2.7	3.3	2.9	1.8	0.8	2.1	47.1	2.6

④ 仕事・職場について

「仕事・職場について」では（図表 2-2-7-2-7）、「仕事上でのミス」（23.7%）が最も多く、次いで「仕事の量や内容が自分の能力を超えている」（18.8%）、「本当に自分がやりたい仕事ではない」（17.3%）、「上司や同僚との関係が悪い」（16.8%）、「働く意欲がまったく湧かない」（15.4%）、「仕事で自分がやりたい」（15.2%）、「仕事で自分がやりたい」（15.2%）、「ハラスメントを受けた」（11.9%）、「職場になじめない」（11.5%）、「職場を退職」（10.7%）、「生かせる才能や特技を」（9.6%）、「就職に失敗」（6.0%）、「いじめを受けた」（3.8%）、「職場を解雇」（1.2%）、「その他」（4.4%）、「特にない」（40.4%）、「無回答」（1.4%）などの順に挙げられている。

図表 2-2-7-2-7 経験した困難や悩み事の内容:仕事・職場について



性別にみると（図表 2-2-7-2-8）、「上司や同僚との関係が悪い」（男性 14.1%、女性 18.7%）、「ハラスメントを受けた」（男性 8.5%、女性 14.1%）は、男性より女性で多く挙げられている。「特にない」は、男性は 45.4%で、女性（36.6%）を約 9 ポイント上回る。

年齢別にみると（図表 2-2-7-2-8）、就業者の割合が多い 25 歳以上でくると、「仕事上でのミス」（25 歳～29 歳 29.3%、35 歳～39 歳 23.9%）と「働く意欲がまったく湧かない」（25 歳～29 歳 20.5%、35 歳～39 歳 16.5%）は、年齢が低い層ほど多く挙げられている。学生が多い 24 歳以下では、「特にない」が多い（15 歳～19 歳 74.2%、20 歳～24 歳 41.5%）。

図表 2-2-7-2-8 経験した困難や悩み事の内容:仕事・職場について(性別、年齢別)

		n	仕事上でのミス	仕事の量や内容が自分の能力を超えている	仕事ではない	上司や同僚との関係が悪い	働く意欲がまったく湧かない	仕事で自分がやりたい	ハラスメントを受けた	職場になじめない	職場を退職	生かせる才能や特技を	就職に失敗	いじめを受けた	職場を解雇	その他	特にない	無回答
性	男性	(3,387)	22.9	18.2	15.7	14.1	15.1	13.3	8.5	10.6	9.3	9.1	6.4	2.0	1.2	3.3	45.5	1.7
	女性	(4,475)	24.2	19.1	18.3	18.7	15.5	16.4	14.1	12.0	11.7	9.8	5.6	5.0	1.2	5.3	36.6	1.1
年齢	15歳～19歳	(1,467)	10.2	3.2	4.8	3.7	4.8	4.3	2.0	4.0	1.1	3.1	0.7	0.6	0.1	0.9	74.2	4.4
	20歳～24歳	(1,360)	26.9	17.1	16.7	12.0	14.9	16.8	8.2	12.0	6.5	9.4	5.4	2.2	0.4	4.3	41.5	0.8
	25歳～29歳	(1,569)	29.3	23.4	20.1	20.7	20.5	19.0	14.1	13.6	14.1	11.9	7.4	4.2	1.4	5.2	30.0	0.5
	30歳～34歳	(1,780)	27.1	24.2	21.6	22.2	18.9	18.5	16.0	13.1	15.3	11.5	7.4	5.3	1.5	5.8	29.7	0.8
	35歳～39歳	(1,836)	23.9	23.1	20.9	22.3	16.5	16.3	16.4	13.8	14.3	11.0	8.1	5.8	2.3	5.2	31.8	0.8

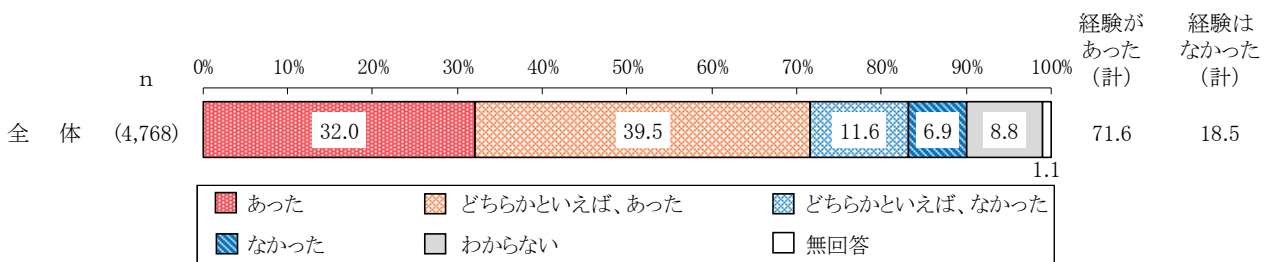
(3) 困難な状態から改善した経験 (問 22)

問 22 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験がありましたか。最もあてはまるものを選んでください。(1つだけ)

社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験の有無を聞いたところ<sup>8</sup>、問 20 で社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験について「今までに経験があった(または、現在ある)」または「どちらかといえば、あった(ある)」と回答した者(4,768人)のうち32.0%が「あった」と回答し、「どちらかといえば、あった」(39.5%)を合わせると、7割強の回答者は困難な状態から改善した経験を持っている(図表 2-2-7-3-1)。

一方、『改善した経験はなかった(計)』(「なかった」+「どちらかといえば、なかった」)という回答は、約2割(18.5%)である。

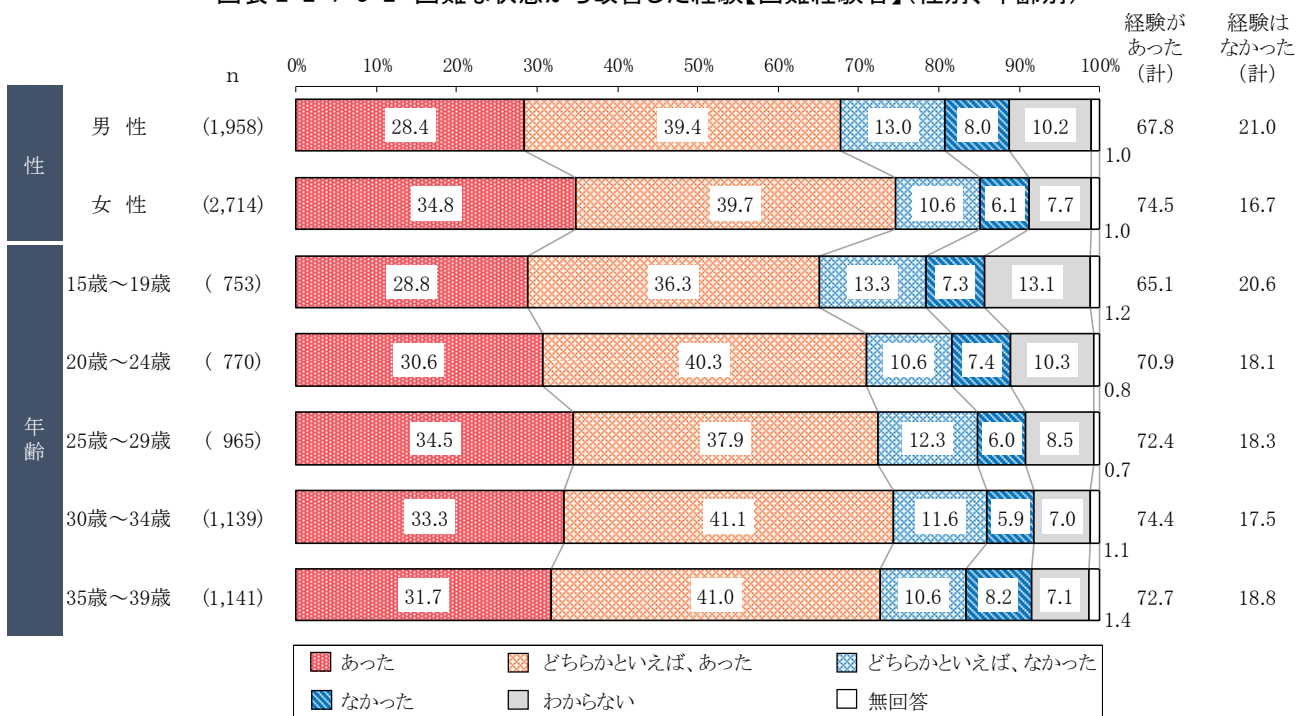
図表 2-2-7-3-1 困難な状態から改善した経験【困難経験者】



性別にみると(図表 2-2-7-3-2)、困難な状態から『改善した経験があった(計)』(「あった」+「どちらかといえば、あった」)は、女性(74.5%)が男性(67.8%)を約7ポイント上回っている。

年齢別にみると(図表 2-2-7-3-2)、『改善した経験があった(計)』は、15歳~19歳では6割半(65.1%)のところ、20歳以上はいずれの年齢層も7割台である。

図表 2-2-7-3-2 困難な状態から改善した経験【困難経験者】(性別、年齢別)



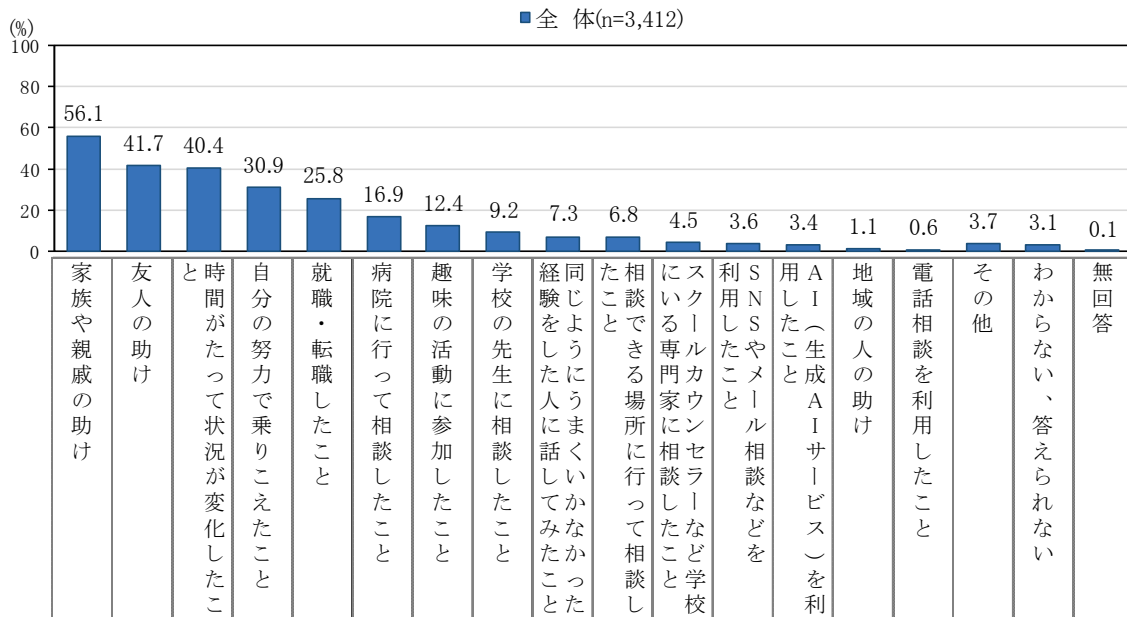
<sup>8</sup> 調査票上は、問 20 の回答にかかわらず全員に聞いている。

(4) 困難な状態から改善したきっかけ (問 23)

【問22で「1」又は「2」を選んだ方のみ、お答えください。】  
 問 23 状態が改善したきっかけや改善に役立ったことは何だと思えますか。(いくつでも)

問 20 で社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験について「今までに経験があった(または、現在ある)」または「どちらかといえば、あった(ある)」と回答した者であって、問 22 で、困難な状態から『改善した経験があった(計)』(「あった」+「どちらかといえば、あった」)と答えた者(3,412人)が、改善のきっかけとして挙げているものについてみると(図表 2-2-7-4-1)、「家族や親戚の助け」が56.1%で最も多くなっており、以下、「友人の助け」(41.7%)、「時間がたって状況が変化したこと」(40.4%)、「自分の努力で乗り越えたこと」(30.9%)などの順となっている。

図表 2-2-7-4-1 困難な状態から改善したきっかけ



性別にみると（図表 2-2-7-4-2）、男女ともに「家族や親戚の助け」（男性 51.9%、女性 59.0%）、「友人の助け」（男性 37.4%、女性 44.4%）、「時間がたって状況が変化したこと」（男性 35.2%、女性 43.7%）の順となっており、いずれも女性は男性より多く挙げている。

年齢別にみると（図表 2-2-7-4-2）、「友人の助け」は 24 歳以下では半数前後（15 歳～19 歳 53.3%、20 歳～24 歳 49.6%）と多く、25 歳以上では 3 割台である。「就職・転職したこと」は 25 歳以上のいずれの年齢層でも 3 割台（25 歳～29 歳 36.9%、30 歳～34 歳 32.5%、35 歳～39 歳 30.5%）挙げられている。「時間がたって状況が変化したこと」はいずれの年齢層でも 4 割前後である。

図表 2-2-7-4-2 困難な状態から改善したきっかけ（性別、年齢別）

		n	家族や親戚の助け	友人の助け	時間がたって状況が変化したこと	自分の努力で乗りこえたこと	就職・転職したこと	病院に行つて相談したこと	趣味の活動に参加したこと	学校の先生に相談したこと	経験をした人に話してみなかつたこと	同じようにうまくいかなかつたこと	相談できる場所に行つて相談した	スクールカウンセラーなど学校にいる専門家に相談したこと	SNS やメール相談などを利用したこと	AI（生成 AI サービス）を利用したこと	地域の人の助け	電話相談を利用したこと	その他	わからない、答えられない	無回答
性	男性	(1,328)	51.9	37.4	35.2	32.4	21.0	14.1	12.0	9.1	5.9	6.9	4.1	2.6	3.0	1.9	0.7	3.6	4.7	-	
	女性	(2,023)	59.0	44.4	43.7	30.0	28.9	18.5	12.4	9.4	8.0	6.7	4.6	4.3	3.6	0.7	0.6	3.7	2.0	0.1	
年齢	15歳～19歳	( 490)	55.3	53.3	40.6	32.0	2.4	11.0	12.4	22.7	6.3	3.7	5.9	5.9	6.3	1.0	0.4	4.1	4.1	0.2	
	20歳～24歳	( 546)	56.6	49.6	38.1	28.4	15.0	17.2	14.1	13.6	8.1	6.8	7.0	4.8	4.2	1.6	0.4	4.6	2.4	0.2	
	25歳～29歳	( 699)	58.1	38.9	41.5	30.9	36.9	17.9	14.2	7.9	8.2	6.0	4.3	2.9	3.3	1.6	0.1	3.7	3.1	-	
	30歳～34歳	( 847)	57.0	38.8	39.8	33.1	32.5	18.8	12.3	5.2	6.4	7.9	3.7	3.3	2.1	0.7	1.2	3.1	3.0	0.1	
	35歳～39歳	( 830)	53.5	34.9	41.4	29.8	30.5	17.6	9.9	3.7	7.6	8.3	2.9	2.4	2.4	1.0	0.8	3.4	3.3	-	

## 8. 相談・支援

### (1) 相談先に求めること (問 24)

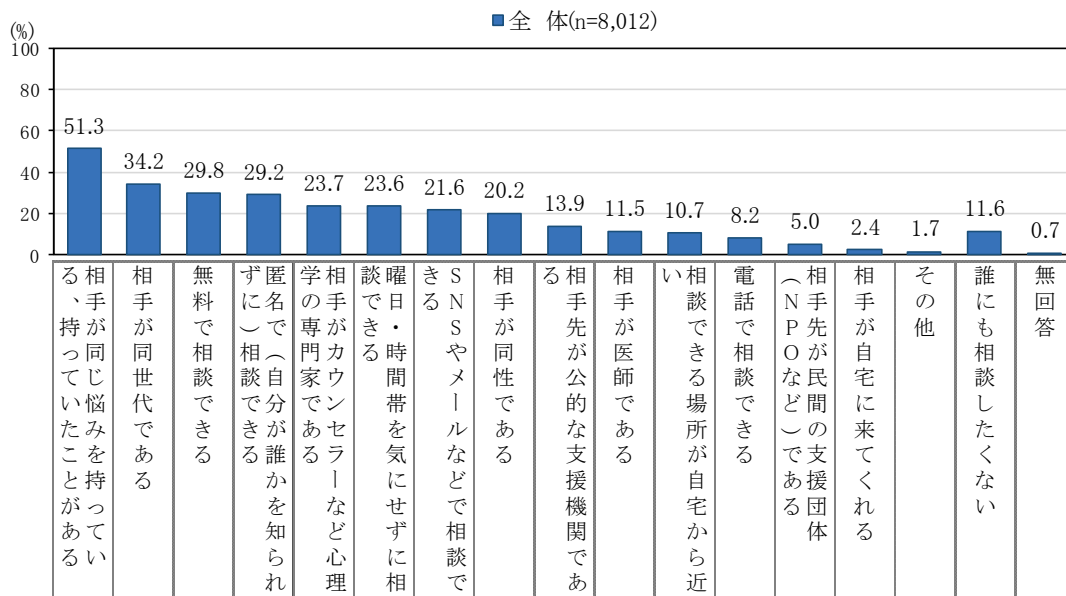
問 24 あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら、相談したいと思いますか。  
(いくつでも)

社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったとき、家族や知り合い以外に相談する場合に求めることを聞いた (図表 2-2-8-1-1)。

相談先に求めることとしては、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」が 51.3%で最も多く挙げられ、以下、「相手が同世代である」(34.2%)、「無料で相談できる」(29.8%)、「匿名で(自分が誰かを知られずに)相談できる」(29.2%)、「相手がカウンセラーなど心理学の専門家である」(23.7%)、「曜日・時間帯を気にせずに相談できる」(23.6%)、「SNS やメールなどで相談できる」(21.6%)、「相手が同性である」(20.2%)などの順に挙げられている。

「誰にも相談したくない」(11.6%)という回答は、約1割である。

図表 2-2-8-1-1 相談先に求めること



性別にみると(図表 2-2-8-1-2)、「相手と同じ悩みを持っている、持っていたことがある」(男性 46.0%、女性 55.6%)、「無料で相談できる」(男性 23.6%、女性 34.4%)、「匿名で(自分が誰かを知られずに)相談できる」(男性 21.2%、女性 35.0%)、「相手がカウンセラーなど心理学の専門家である」(男性 20.1%、女性 26.4%)、「曜日・時間帯を気にせずに相談できる」(男性 17.7%、女性 28.1%)、「SNSやメールなどで相談できる」(男性 16.7%、女性 25.5%)、「相手が同性である」(男性 13.7%、女性 25.0%)などは、いずれも男性より女性に多く挙げられている。「相手が同世代である」(男性 36.5%、女性 32.8%)は女性より男性に多く挙げられている。

「誰にも相談したくない」という回答は、男性が 14.3%で女性(9.3%)を 5ポイント上回っている。

年齢別にみると(図表 2-2-8-1-2)、「相手と同じ悩みを持っている、持っていたことがある」は、いずれの年齢層でも 5割前後で、最も多く挙げられている。また、「相手が同世代である」と「相手が同性である」は、年齢が低い層ほど多く挙げられている。「相手がカウンセラーなど心理学の専門家である」は、年齢が高い層ほど多く挙げられている。

図表 2-2-8-1-2 相談先に求めること(性別、年齢別)

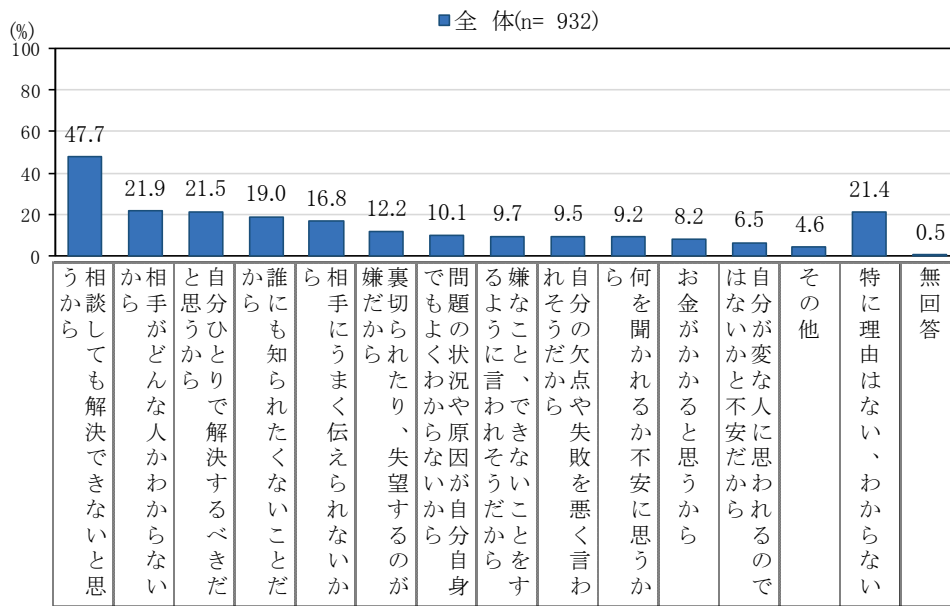
		n	相手と同じ悩みを持っている	相手が同世代である	無料で相談できる	匿名で(自分が誰かを知られずに)相談できる	相手がカウンセラーなど心理学の専門家である	曜日・時間帯を気にせずに相談できる	SNSやメールなどで相談できる	相手が同性である	相手が公的な支援機関である	相手が医師である	相談できる場所が自宅から近い	電話で相談できる	相手が民間の支援団体(NPOなど)である	相手が自宅に来てくれる	その他	誰にも相談したくない	無回答
性	男性	(3,387)	46.0	36.5	23.6	21.2	20.1	17.7	16.7	13.7	12.5	10.7	9.3	8.7	4.6	2.6	1.7	14.3	0.8
	女性	(4,475)	55.6	32.8	34.4	35.0	26.4	28.1	25.5	25.0	14.9	12.0	11.8	7.9	5.3	2.3	1.6	9.3	0.5
年齢	15歳～19歳	(1,467)	49.5	45.7	27.0	26.7	17.8	20.4	22.8	27.5	10.2	8.1	6.5	7.4	3.9	2.3	1.6	11.5	0.5
	20歳～24歳	(1,360)	51.7	40.7	29.8	28.8	22.2	22.8	21.8	21.8	13.9	10.5	9.9	7.8	4.2	2.9	2.2	10.4	0.7
	25歳～29歳	(1,569)	51.8	33.8	30.1	29.1	24.8	25.6	21.6	19.8	14.6	12.2	11.4	7.3	5.4	2.5	2.0	11.1	0.7
	30歳～34歳	(1,780)	51.5	29.7	30.2	31.5	25.1	25.0	21.8	17.9	14.3	13.3	12.8	8.8	5.4	2.5	1.2	12.2	0.8
	35歳～39歳	(1,836)	52.1	24.9	31.2	29.2	27.1	23.5	20.5	15.5	15.9	12.5	12.3	9.5	5.8	2.1	1.7	12.5	0.7

(2) 相談したくないと思う理由 (問 25)

【問24で「16 誰にも相談したくない」を選んだ方のみ、お答えください。】  
 問 25 相談したくないと思う理由は何ですか。(いくつでも)

問 24 で、「誰にも相談したくない」と答えた者 (932 人) が、その理由に挙げているものについてみると (図表 2-2-8-2-1)、「相談しても解決できないと思うから」が 47.7%で最も多く挙げられており、以下、「相手がどんな人かわからないから」(21.9%)、「自分ひとりで解決するべきだと思うから」(21.5%)、「誰にも知られたくないことだから」(19.0%)、「相手にうまく伝えられないから」(16.8%)、「裏切られたり、失望するのが嫌だから」(12.2%)、「問題の状況や原因が自分自身でもよくわからぬから」(10.1%)、「嫌なことに言われそうだから」(9.7%)、「自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから」(9.5%)、「何を聞かれるか不安に思うから」(9.2%)、「お金がかかると思うから」(8.2%)、「自分を変な人と思われるのではないかと不安だから」(6.5%)、「その他」(4.6%)、「特に理由はない、わからない」(21.4%)、「無回答」(0.5%)などが2割前後で続いている。

図表 2-2-8-2-1 相談したくないと思う理由



性別にみると（図表 2-2-8-2-2）、「相手がどんな人かわからないから」（男性 17.3%、女性 27.3%）、「相手にうまく伝えられないから」（男性 12.0%、女性 22.1%）、「裏切られたり、失望するのが嫌だから」（男性 8.2%、女性 16.3%）などは、男性より女性に多く挙げられている。

年齢別にみると（図表 2-2-8-2-2）、いずれの年齢層でも「相談しても解決できないと思うから」が最も多く挙げられているが、年齢が高い層ほど多く挙げられる傾向がある（15歳～19歳 34.9%、35歳～39歳 56.1%）。「誰にも知られたくないことだから」は、年齢が低い層ほど多く挙げられる傾向がみられる（15歳～19歳 21.9%、35歳～39歳 16.5%）。

図表 2-2-8-2-2 相談したくないと思う理由（性別、年齢別）

		(%)															
n		相談しても解決できないと思うから	相手がどんな人かわからないから	自分ひとりでは解決するべきだと思わない	誰にも知られたくないことだから	相手にうまく伝えられないから	裏切られたり、失望するのが嫌だから	問題の状況や原因が自分自身でもよくわからないから	嫌なことに言われそうだから	自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから	何を聞かれるか不安に思うから	お金がかかると思うから	自分を変な人と思われないか不安だから	その他	特に理由はない、わからない	無回答	
性	男性 (485)	46.4	17.3	22.5	17.5	12.0	8.2	9.5	7.2	8.2	8.0	8.0	5.6	4.5	25.8	0.8	
	女性 (417)	49.6	27.3	21.1	20.4	22.1	16.3	11.0	12.2	10.6	10.8	8.2	7.4	4.8	15.6	0.2	
年齢	15歳～19歳 (169)	34.9	24.3	20.1	21.9	17.8	16.0	11.8	7.7	9.5	10.1	4.7	8.9	7.1	24.9	1.2	
	20歳～24歳 (142)	41.5	23.2	21.8	20.4	18.3	13.4	7.0	9.9	9.9	9.2	6.3	7.7	2.1	24.6	0.7	
	25歳～29歳 (174)	50.0	24.1	24.1	19.0	17.2	11.5	11.5	10.3	11.5	12.1	10.9	5.7	3.4	17.2	-	
	30歳～34歳 (217)	51.2	20.3	20.3	18.4	15.2	11.1	9.2	10.6	9.2	7.4	8.3	6.0	4.1	23.0	0.9	
	35歳～39歳 (230)	56.1	19.1	21.3	16.5	16.5	10.4	10.4	9.6	8.3	8.3	9.6	5.2	5.7	18.3	-	

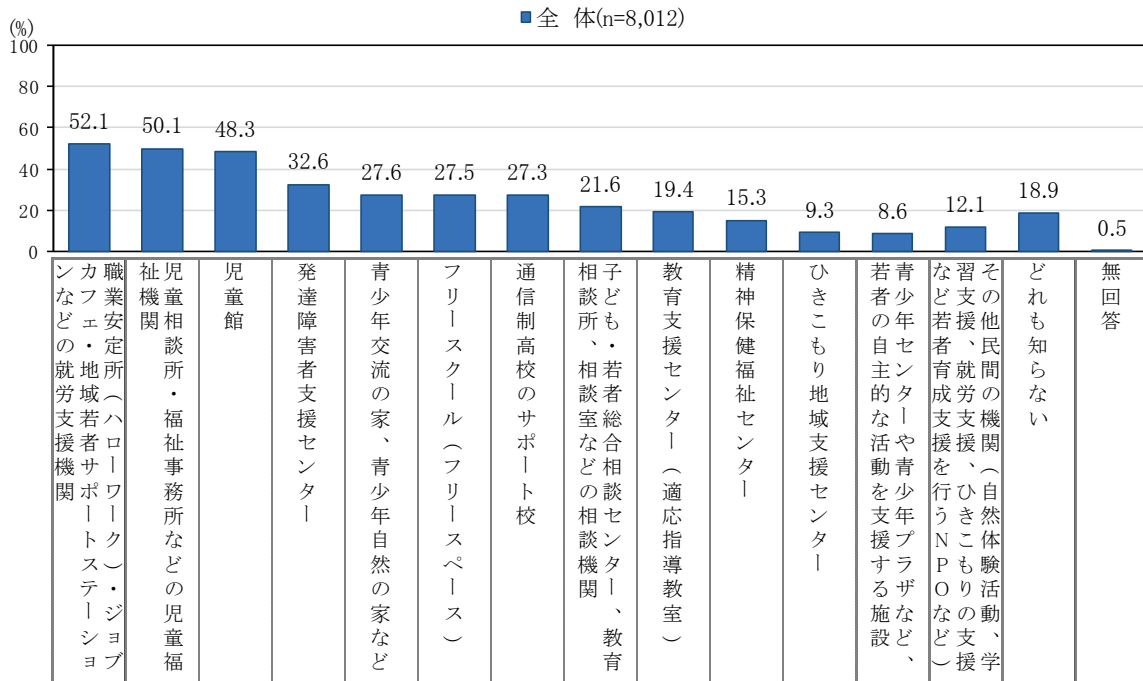
(3) 育成支援機関等の認知度 (問 26)

問 26 あなたは、こども・若者を対象とした育成支援機関等を知っていますか。  
知っている育成支援機関等をすべて選んでください。(いくつでも)

こども・若者を対象とした育成支援機関等の認知度としては(図表 2-2-8-3-1)、「職業安定所(ハローワーク)・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」(52.1%)、「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」(50.1%)、「児童館」(48.3%)がいずれも5割前後の認知率となっている。次いで、「発達障害者支援センター」(32.6%)、「青少年交流の家、青少年自然の家など」(27.6%)、「フリースクール(フリースペース)」(27.5%)、「通信制高校のサポート校」(27.3%)などの順となっている。

「どれも知らない」という回答は18.9%で、8割以上(80.6%)はいずれかの育成支援機関等を認知している。

図表 2-2-8-3-1 育成支援機関等の認知度



性別にみると（図表 2-2-8-3-2）、「職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」（男性 47.1%、女性 56.0%）、「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」（男性 41.6%、女性 56.6%）、「児童館」（男性 38.5%、女性 55.7%）、「発達障害者支援センター」（男性 26.5%、女性 37.2%）、「青少年交流の家・青少年自然の家など」（男性 24.7%、女性 29.7%）、「フリースクール（フリースペース）」（男性 21.5%、女性 31.8%）など、多くの項目で男性より女性の認知率が高い。男性の 25.8%は、「どれも知らない」と回答している。

年齢別にみると（図表 2-2-8-3-2）、「職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」、「発達障害者支援センター」は、概ね年齢が高い層ほど認知率が高い。「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」、「児童館」は 30 歳以上で 5 割台の認知がある。「通信制高校のサポート校」、「教育支援センター（適応指導教室）」は、概ね年齢が低い層ほど認知率が高い。

図表 2-2-8-3-2 育成支援機関等の認知度(性別、年齢別)

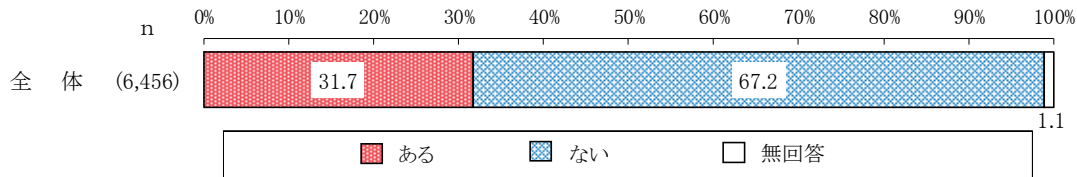
		n	職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関	児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関	児童館	発達障害者支援センター	青少年交流の家、青少年自然の家など	フリースクール（フリースペース）	通信制高校のサポート校	子ども・若者総合相談センター、教育相談所、相談室などの相談機関	教育支援センター（適応指導教室）	精神保健福祉センター	ひきこもり地域支援センター	青少年センターや青少年プラザなど、若者の自主的な活動を支援する施設	習支援、就労支援、ひきこもりの支援など若者育成支援を行う NPO など	その他民間の機関（自然体験活動、学習支援、就業支援、ひきこもりの支援など）	どれも知らない	無回答
性	男性	(3,387)	47.1	41.6	38.5	26.5	24.7	21.5	23.9	19.5	16.4	14.1	10.2	8.9	11.1	25.8	0.7	
	女性	(4,475)	56.0	56.6	55.7	37.2	29.7	31.8	30.0	23.3	21.7	16.1	8.6	8.5	12.7	13.6	0.3	
年齢	15歳～19歳	(1,467)	31.6	47.9	47.3	24.4	27.0	25.0	35.9	23.1	23.2	15.4	6.3	8.9	9.5	21.6	0.3	
	20歳～24歳	(1,360)	48.3	48.8	43.5	31.5	29.5	24.5	28.8	21.3	20.2	16.9	8.8	9.5	12.4	20.1	0.7	
	25歳～29歳	(1,569)	56.0	47.2	44.8	31.0	27.2	23.1	25.4	19.8	18.6	14.7	9.2	8.4	12.5	21.7	0.3	
	30歳～34歳	(1,780)	59.8	51.4	50.8	36.0	27.6	28.1	24.7	20.4	16.6	14.8	9.9	8.0	11.9	17.1	0.3	
	35歳～39歳	(1,836)	60.6	53.9	53.1	37.9	26.8	34.7	23.5	23.4	19.4	15.0	11.4	8.7	13.8	15.3	0.7	

(4) 育成支援機関等の利用経験 (問 27)

【問26で「1」～「13」を選んだ方のみ、お答えください。】  
 問 27 これらの機関を利用したことはありますか。(1つだけ)

問 26 で、いずれかの育成支援機関等を認知している旨を答えた者 (6,456 人) のうち、実際に利用経験が「ある」という回答は 31.7%で、7割弱は「ない」(67.2%)と回答している(図表 2-2-8-4-1)。

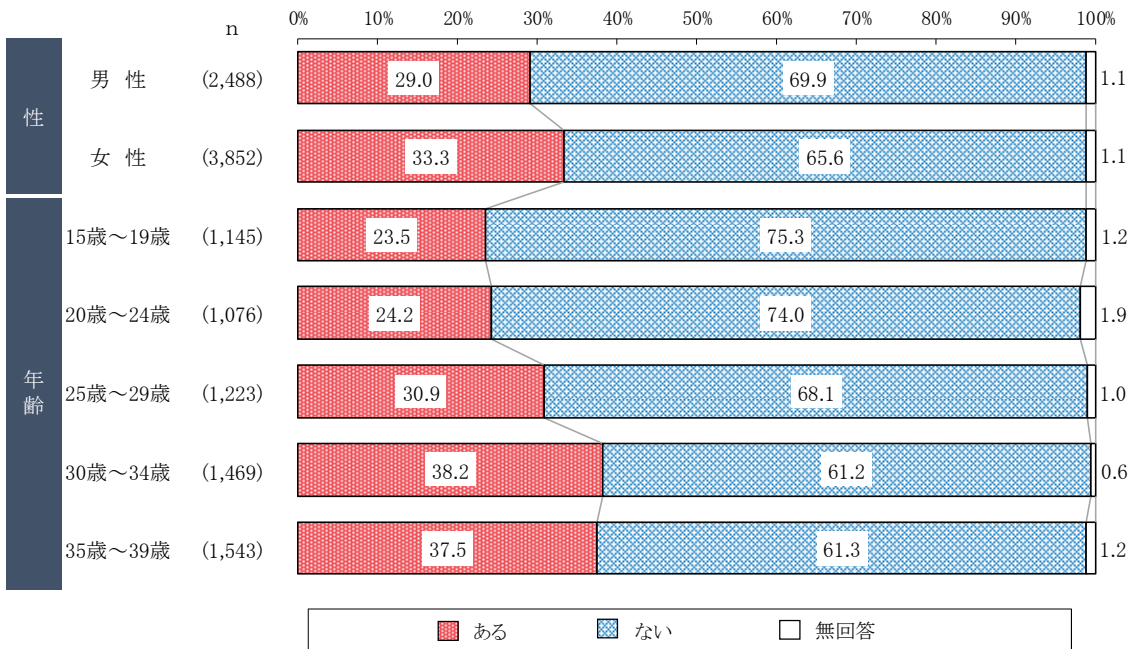
図表 2-2-8-4-1 育成支援機関等の利用経験



性別にみると(図表 2-2-8-4-2)、利用経験が「ある」という回答は、女性(33.3%)が男性(29.0%)を約4ポイント上回っている。

年齢別にみると(図表 2-2-8-4-2)、概ね年齢が高い層ほど、利用経験が「ある」という回答の割合は高くなっている。

図表 2-2-8-4-2 育成支援機関等の利用経験(性別、年齢別)

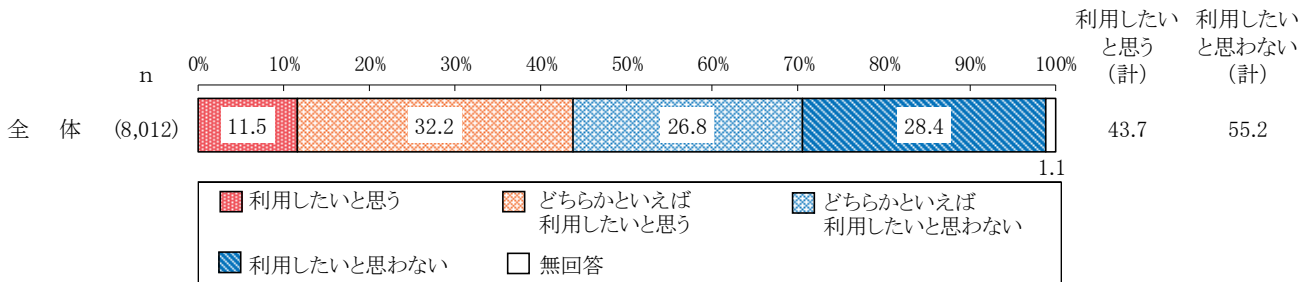


(5) 育成支援機関等の利用意向 (問 28)

問 28 これらの機関について利用したいと思いますか。(1つだけ)

育成支援機関等の利用意向を聞いたところ (図表 2-2-8-5-1)、「利用したいと思う」という回答は 11.5%、「どちらかといえば利用したいと思う」は 32.2%となっており、4割強は、『利用したいと思う (計)』(「利用したいと思う」+「どちらかといえば利用したいと思う」と、肯定的な回答をしている。

図表 2-2-8-5-1 育成支援機関等の利用意向



性別にみると (図表 2-2-8-5-2)、『利用したいと思う (計)』は、女性 (48.4%) が男性 (37.3%) を約 11 ポイント上回っている。

年齢別にみると (図表 2-2-8-5-2)、『利用したいと思う (計)』は、概ね年齢が高い層ほど高く、15 歳～19 歳では 36.8%、35 歳～39 歳では 47.2%である。

図表 2-2-8-5-2 育成支援機関等の利用意向 (性別、年齢別)

